TOTO

組立指導書

ユニットバスルーム

浴バリ低床JMシリーズ

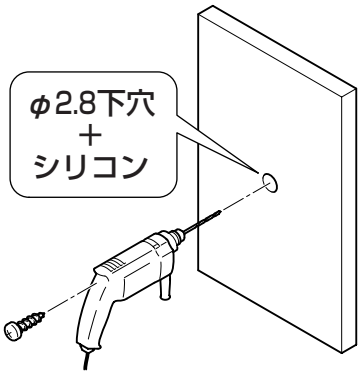
製品の機能が十分に発揮されるように、この組立指導書の内容にそって正しく組立ててください。
組立て後は、お客様に使用方法を十分にご説明ください。

従来品と組立要領が異なります。

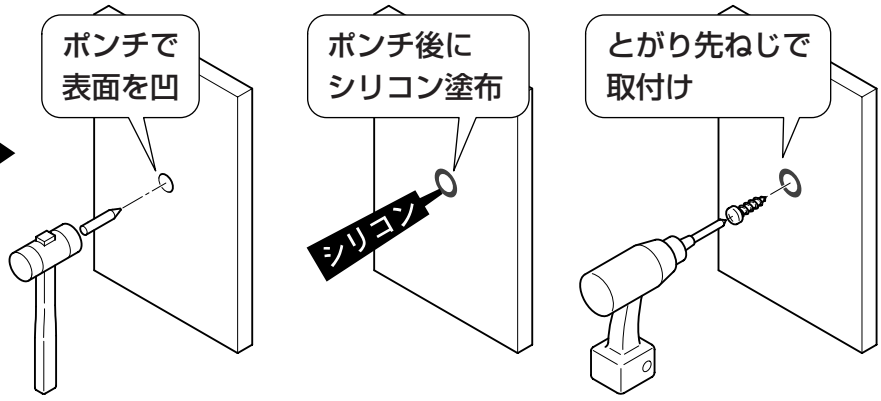
ねじの取付方法が変わります。
（切粉によるもらいサビ防止の為）

φ2.8下穴 ➡ ポンチ加工

従 来



今 回 下穴不用！



下記の器具は器具に付属のねじを使用せず、UB部材中に同梱されているとがり先ねじを使用すること。

- ハイクオリティ照明（丸形）
- ハイクオリティ照明（角形）
- ハイクオリティ照明（半球形）
- めっきタイプタオル掛け
- ふろふたフック
- 2ハンドル水栓シャワーハンガー

組立者の皆様へ

組立指導書の改訂を実施しました。
(EKL64314N2→EKL64314N3)

改訂年月日　2008年9月

No.	内容	掲載代表ページ
1	床設置、ゴムキャップへの変更。	7、9
2	カウンター取付②の変更。	49
3	カウンター取付⑮の変更	62
4	雑排水管取付　2.の中間支持材取付にペフ巻きを追加。	79
5	表記変更「施工→組立」	全ページ

目　次

組立のポイント　2

安全上のご注意　3・4

組立要領

床外寸法墨出し　5

保温カバー取付　6

床設置　7〜11
床パンの据付・レベル調整……7
防振脚の取付……10
水張りテスト……11

躯体組立　12〜25
ジョイナー組立……12
建具下トレイ取付（ジョイナー組立直後、2枚引戸の場合のみ）……15
壁パネル組立……16
壁パネル建込要領……18
コーナージョイント部組立要領……19
平ジョイント部組立要領（治具使用）……20
ドア枠の建込み……22
天井パネルの取付……23
ドア枠の倒れ調整・固定……25

浴槽設置　26〜37
浴槽設置……26
浴槽デッキ水栓取付……34
ワンプッシュ排水栓取付……35
エプロンパッキンの貼付……36
浴槽エプロン取付……37

ドア取付　38〜47
開き戸……38
折戸……40
2枚引戸……42

カウンター取付　48〜63
カウンター（Lw）取付……48
ダブルカウンター（TRu）、カウンター（T）
タッチスイッチ水栓付カウンター取付……51
洗面器置台カウンター（Ru/St/Mo）取付
ダブルカウンター（TRu）洗面器置台部取付……62

器具取付　64〜78
横型収納パネル……64
スリム棚関係……67
ワイドミラー／矩形ミラー（収納棚付）……68
ワイドミラー……71
鏡止め金具……72
スライドバー……72
後付収納棚……73
SP収納棚……73
コーナー棚……74
タオル掛け……75
ドア外タオル掛け……75
ランドリーパイプ……76
後付インテリアバー……76
照明……77
ダウンライト……77
ふろふたフック……78
トラップカバー、ヘアキャッチャー……78

オプション配管取付　79〜81
雑排水管取付……79
雑排水管経路……80
オプション配管（樹脂管）取付……81

仕上げ〜引渡し　82〜84
仕上げ（2次コーキング・ラベル貼付）……82
ラベル貼付（BL品）……83
清掃……84
自主検査……84
取扱説明書類について……84
廃棄物について……84

組立のポイント

本タイプの組立のポイントを下記しますのでご確認願います

部　　位	内　　容	掲載ページ
防振脚	支持脚の位置により防振脚の種類が異なります	10
ジョイナー	ジョイナー取付材を使用します	12
2次ジョイナー	ジョイナーの下端と切込み部を合わせます	14
1次シリコン	壁のせ面パッキンの上に塗布します	14
2枚引戸	建具下トレイを取付けます	15
浴槽排水口パッキン	1116サイズのみライナーを使用します	27
2次シリコン	色付シリコンを使用します	28・82
トラップ排水弁カバー	床パンの印と合わせます	28
1116サイズ浴槽	ライナーを敷きます	28
エプロンパッキン	エプロンパッキンの上下に小さいパッキンを貼付けます	36
カウンター（T）	専用工具を使用します	51
オプション給水給湯	壁裏ビス保護材を貼付けます	81
各器具	下穴不要のとがり先ねじを使用します	各器具のページ

安全上のご注意 (必ずお守りください)

組立の前に、
この安全上の注意をよくお読みの上、
正しく据付けしてください。

◎ 表示内容を無視して誤った組立をしたときに生じる、危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠	**警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠	**注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

◎ お守りしていただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

⚠	この絵表示は気を付けていただきたい「注意喚起」の内容です。
❗	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。
⏚	この絵表示は、必ずアース線を接続していただく「強制」の内容です。

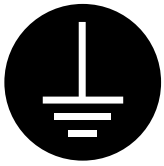
◎ 組立完了後、試運転及び各部の点検を行い、器具のがたつきや漏電・水漏れなどの安全上の不具合が無いことを確かめてください。

◎ 本体や水栓金具その他機器に同梱されている**取扱説明書は、**使用者に製品を正しく安全に使用していただくための**重要な書類**です。紛失や汚れのないように大切に保管し、組立完了後、必ず使用者または建築工事責任者にお渡しできるよう**シャワーヘッドまたはタオル掛けに一まとめにして吊るしてください。**

⚠警告

配線工事は関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。
接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

ユニットバスに組み込まれる電気機器・水栓などの付帯設備は、それぞれの商品に添付されている組立要領書・製品本体の注意表示を守り、正しく設置してください。
誤った設置をすると、思わぬ事故や故障の原因となります。



アース取り付けが必要な電気機器は、必ずアース線の接続工事を行ってください。
アース線の接続が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

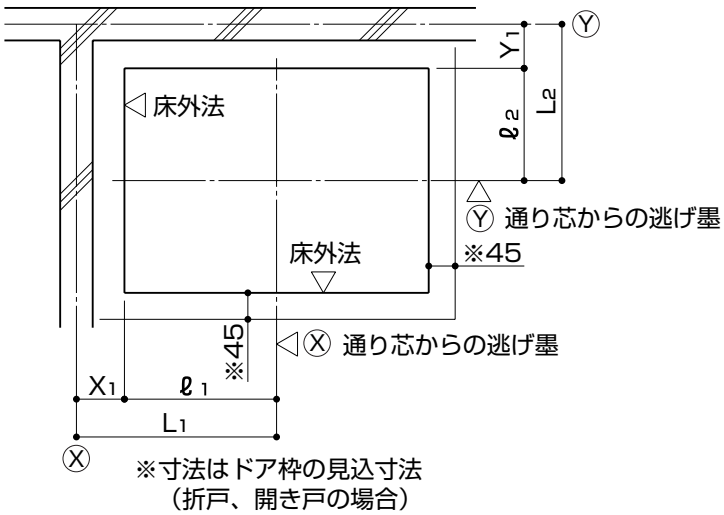
⚠注意

換気扇、鏡、握りバーなどの付属品は、指定位置に確実に取り付けてください。
使用中に落下したり外れたりして、ケガをすることがあります。

工事に使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は、容器などに記載の注意表示にしたがって、正しくお使いください。
誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因になります。

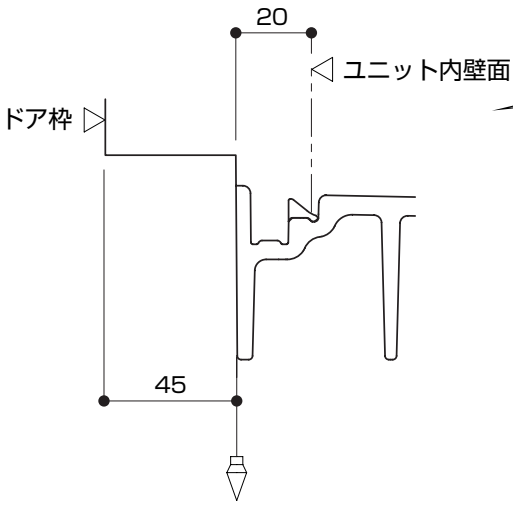
給水・給湯管、排水管は、添付されている組立要領書どおり確実に接続してください。
誤った接続をすると、水漏れを起こすことがあります。

床外寸法墨出し



※寸法はドア枠の見込寸法
（折戸、開き戸の場合）

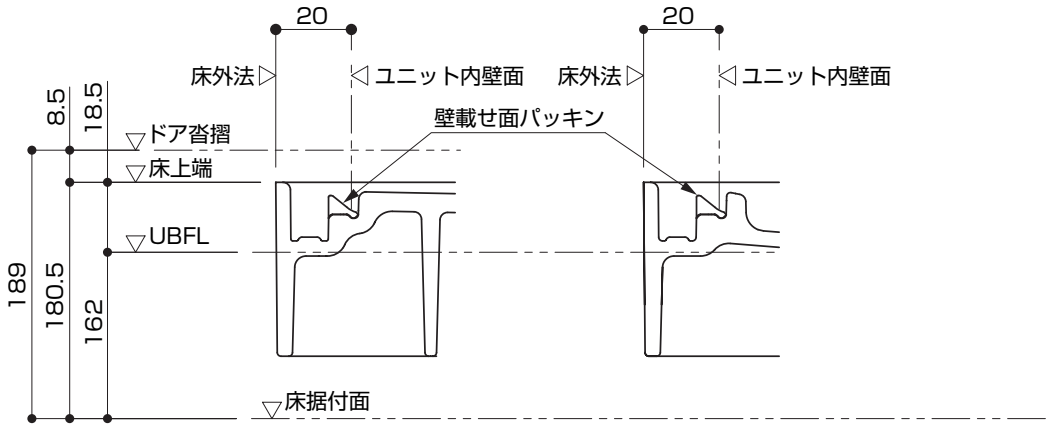
記号	説　明
Ⓧ	X方向通り芯
Ⓨ	Y方向通り芯
L_1	Ⓧ通り芯からの逃げ墨
L_2	Ⓨ通り芯からの逃げ墨
X_1	Ⓧ通り芯からのユニット外法までの寸法
Y_1	Ⓨ通り芯からのユニット外法までの寸法



床外法は基本的にユニット内壁面＋40mm（片側20mm）、
ユニット外法は基本的にユニット内壁面＋64mm（片側32mm）です。

墨出し精度　±1mm以内

洗場側

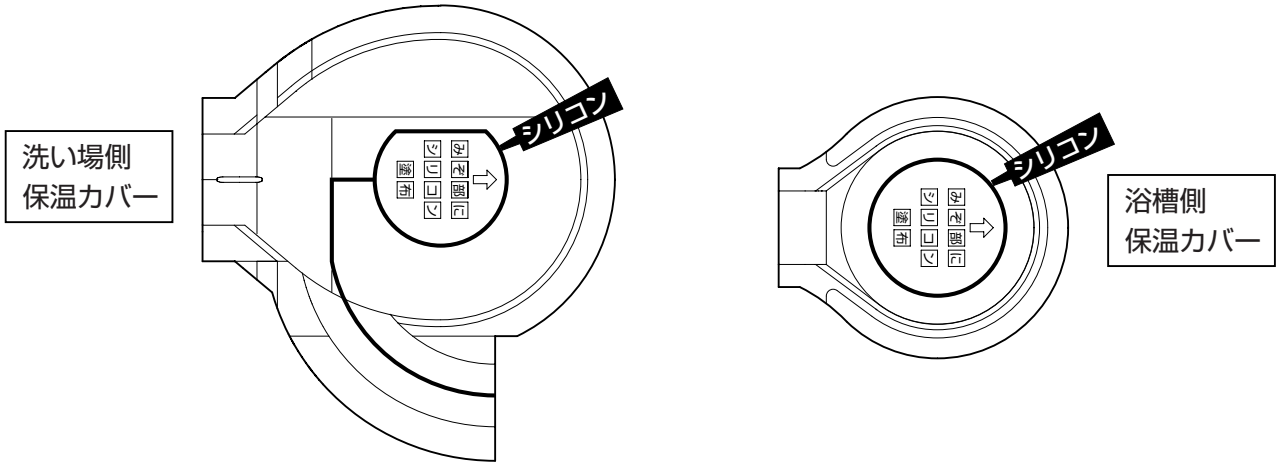


浴槽側

保温カバー取付

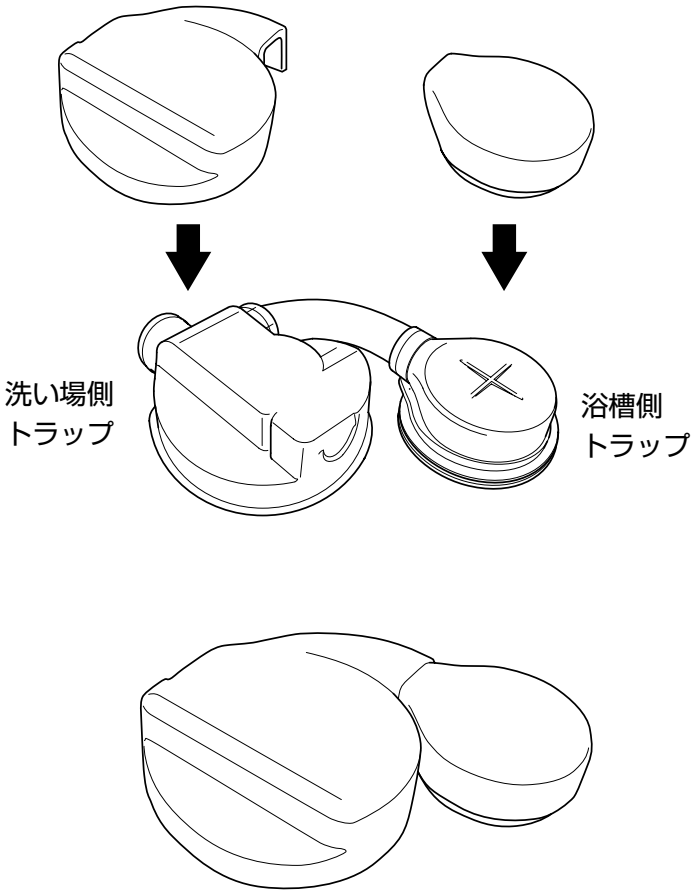
1 シリコン塗布

保温カバーの内側のガイドに沿ってシリコンを塗る。



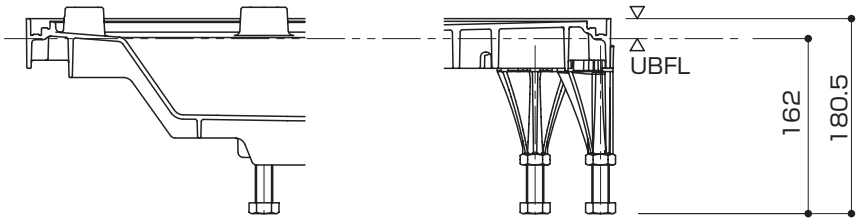
2 保温カバー貼付

排水トラップの裏面から貼付ける。



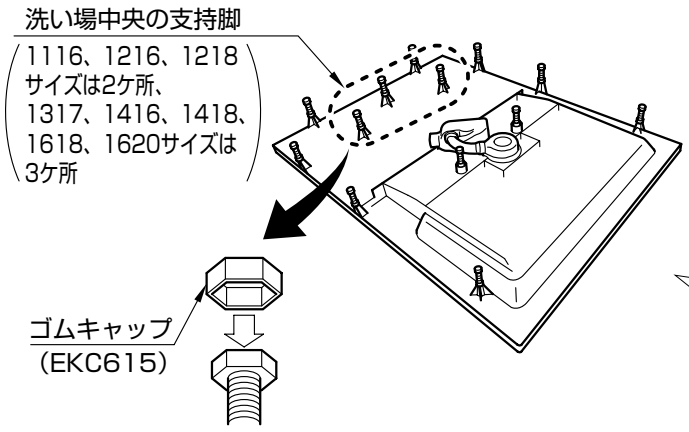
床パンの据付・レベル調整

1 据付高さの確認



UBFL実力調整代
162^{-0}_{+35}

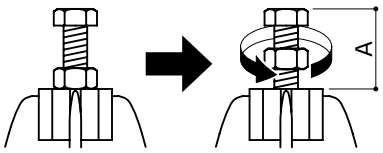
2 ゴムキャップの取付、ロックナットのゆるめ



洗い場中央の支持脚ボルトの頭にゴムキャップを取付ける。

床鳴り防止のために必ず取付けること。

ロックナットをゆるめる



A寸法表

支持脚ボルト	A
壁のせ面下（3方ロケット）	約55
その他（4方ロケット）	約65

3 床上調整部材の確認

床上調整キット

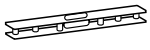
床固定接着剤	紙コップ	ろうと	ブッシュキャップ	ゴムキャップ
EKC901 ×2	EC443 ×2	EKC 04003 ×1	グレー床・ホワイト床用 EKC01018#G16×1 ブラウン床用 EKC01018#G36×1	EKC 04017 ×1
2	2	4	4	4

必要工具

モンキースパナ

電動ドリル
ドリル刃φ10

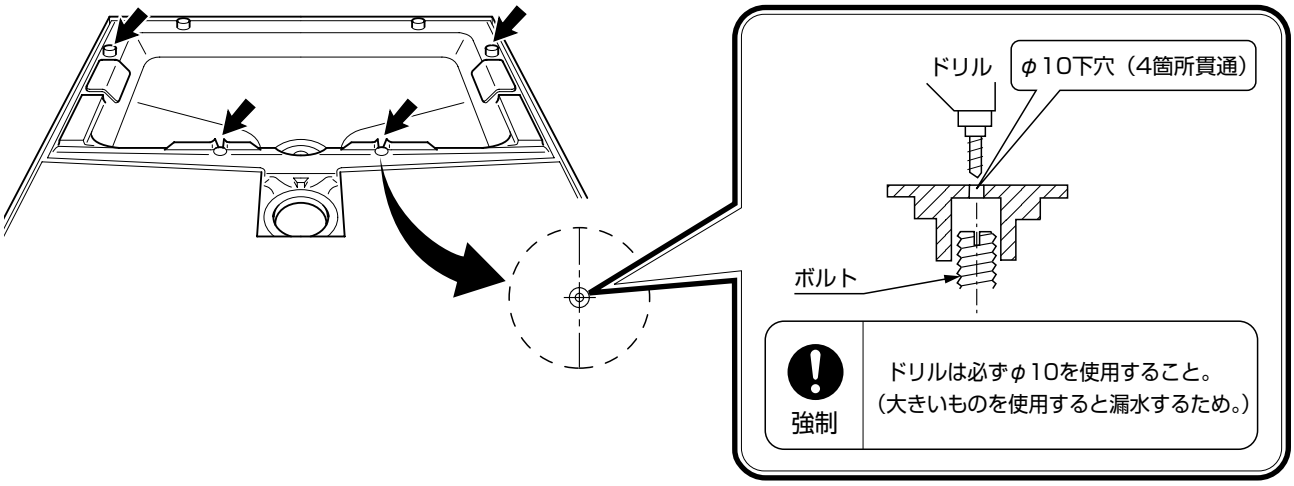
⊕/⊖ドライバー


水平器

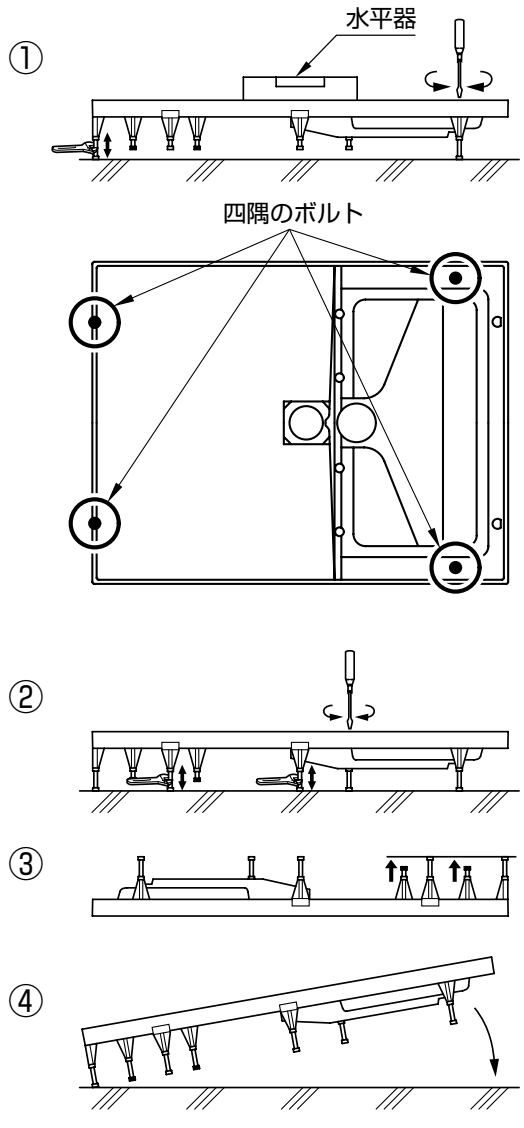
差し金

コーキングガン

4 下穴あけ



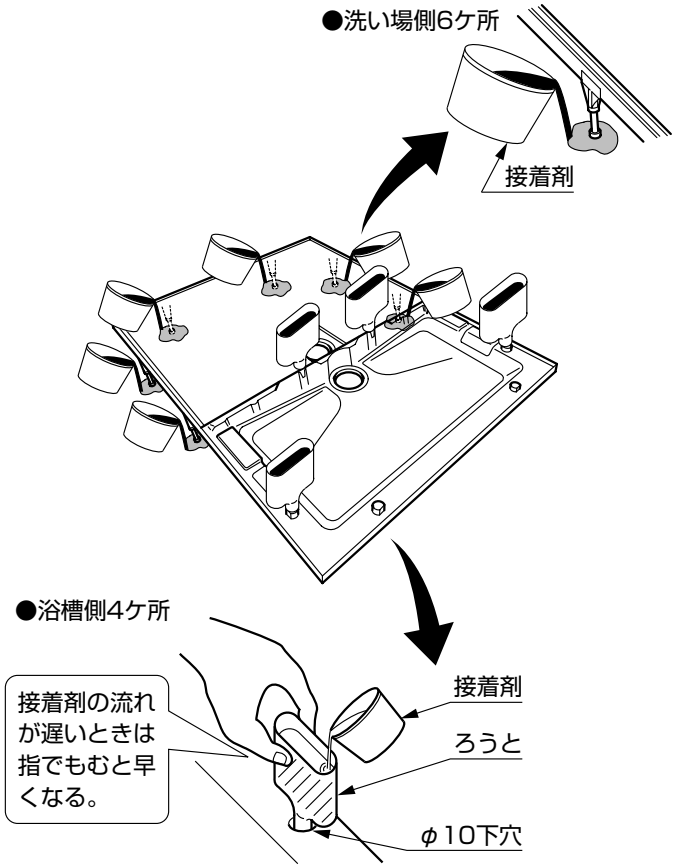
5 レベル出し



① 床パン四隅のボルトを調整しレベルを出す。
② レベルに注意しながら残りの6本を接地させる。
③ 一度床パンを持ち上げ、洗い場中央のゴムキャップ付きボルトを、他のボルトと同じ出寸法に合わせる。
④ ロックナットを締付けてから、元の位置に接地させる。

床パン上を歩きまわり、床鳴り・浮きによるコツコツ感、フワフワ感がないか確認する。

6 固定



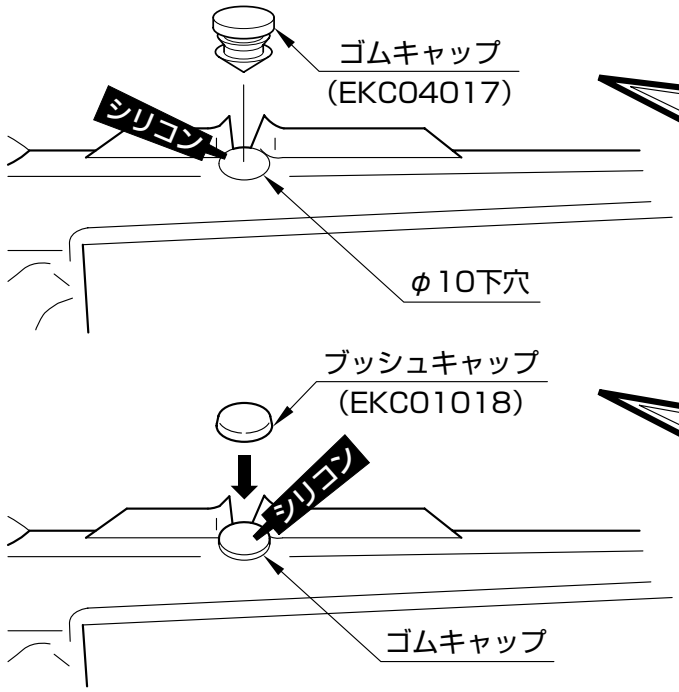
- 接着剤は均等にかけて残さないこと。
- 接着剤が床パンに垂れないように注意すること。
  （床パンにこぼしたときは、完全硬化した後に取除くと簡単に取れる。）

洗い場中央のゴムキャップが取付いている支持脚には接着剤は不要です。

⚠ 注意　防振脚の場合は上から垂らさずスラブ面に垂らした後、床を据付けること。

⚠ 注意　接着剤は設置必要寸法よりはみ出さないよう注意すること。

7 穴ふさぎ



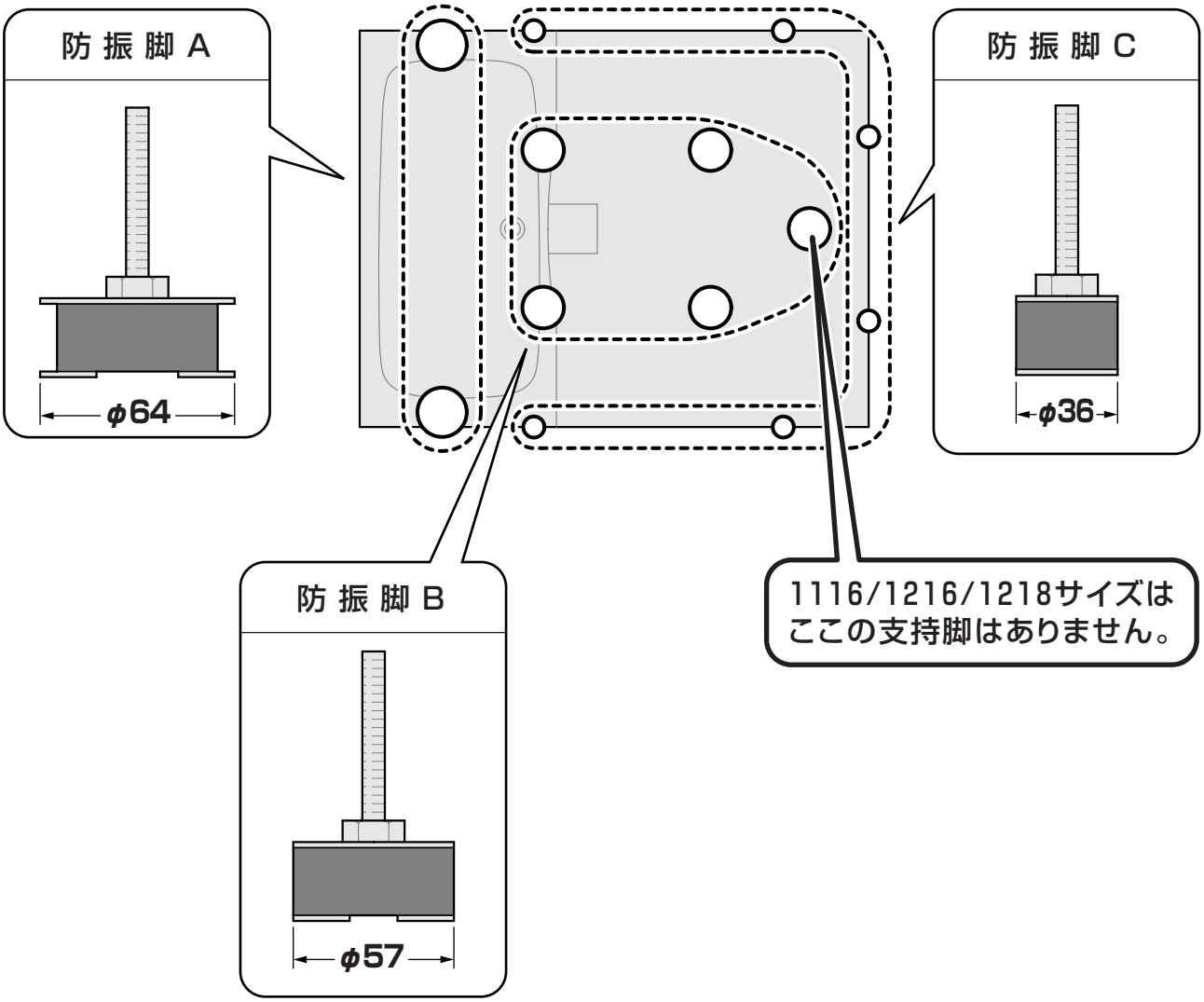
強制　ゴムキャップを忘れないで床に取付けること。（漏水するおそれがあります）

重 要

ゴムキャップは指で強く押し込み、周りにシリコンを塗布してブッシュキャップをかぶせる。

防振脚の取付

支持脚の位置によって防振脚の種類が異なります。



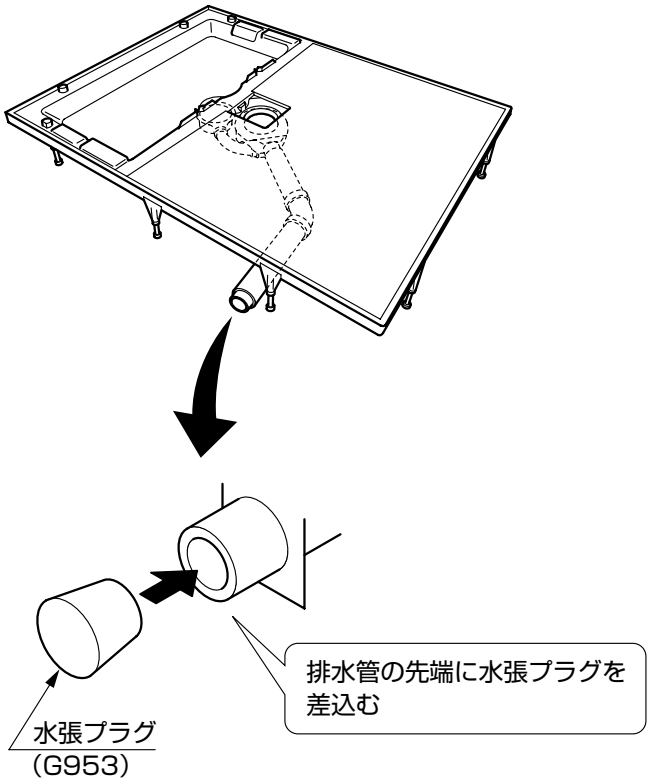
⚠ 注意

床接着剤（ルビロン）はあらかじめ所定の位置に垂らしておいてから床パンを設置してください。
上から垂らして防振脚を覆わないでください。

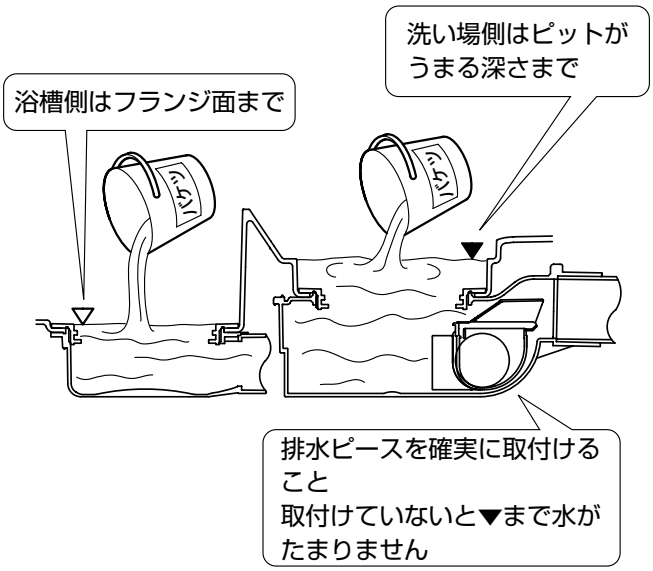
水張りテスト

1 水張りテスト

※水張プラグは標準セット部品ではありません。



床接着剤が硬化するまで養生し、トラップの水張りテストを行う。



トラップ水張りは、▽と▼のレベルまで、水を溜めた状態で30分間放置する。

テスト中、洗い場側から浴槽側へ水が少量移動しますが、異常ではありません。

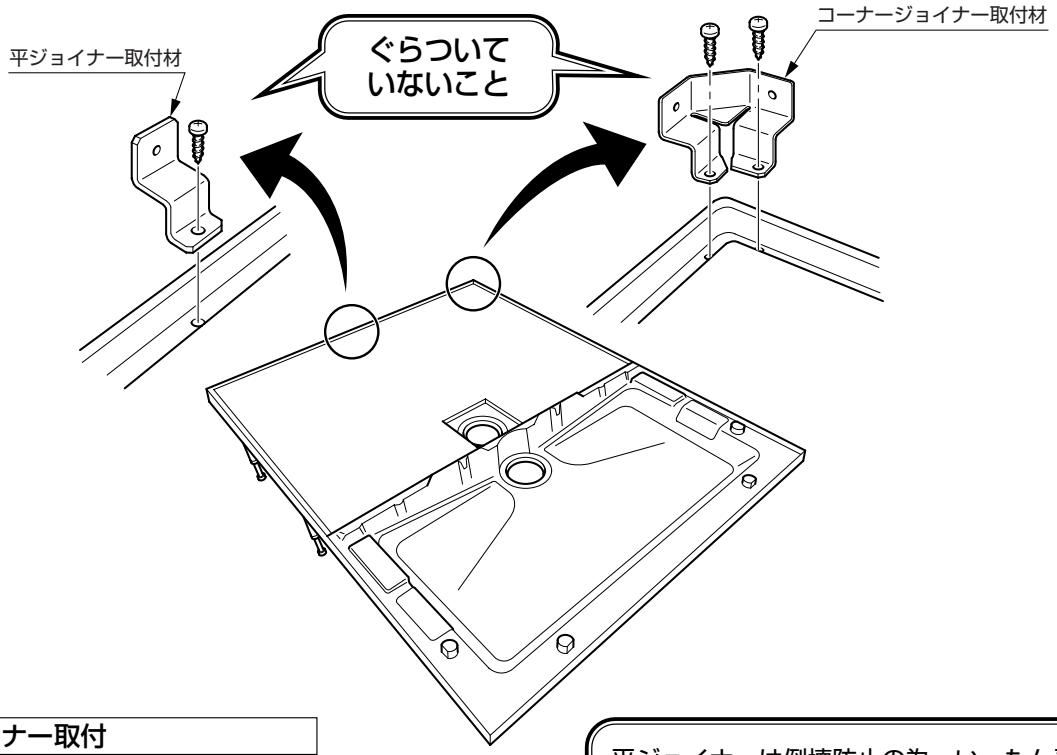
漏水については床パンの裏面を確認すること。

確認後、必ず栓を抜き取り水処理を行うこと。

ジョイナー組立

1 ジョイナー取付材取付

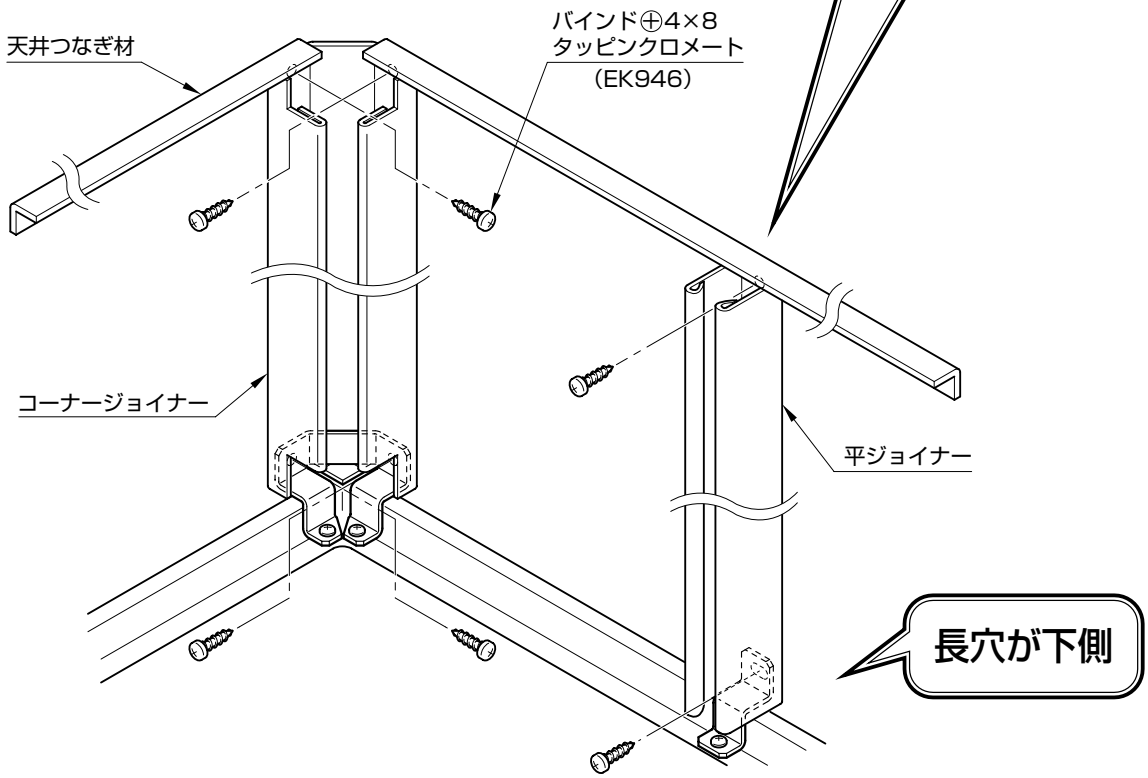
・コーナージョイナー、平ジョイナーを組立てる場所に各取付材を取付ける。



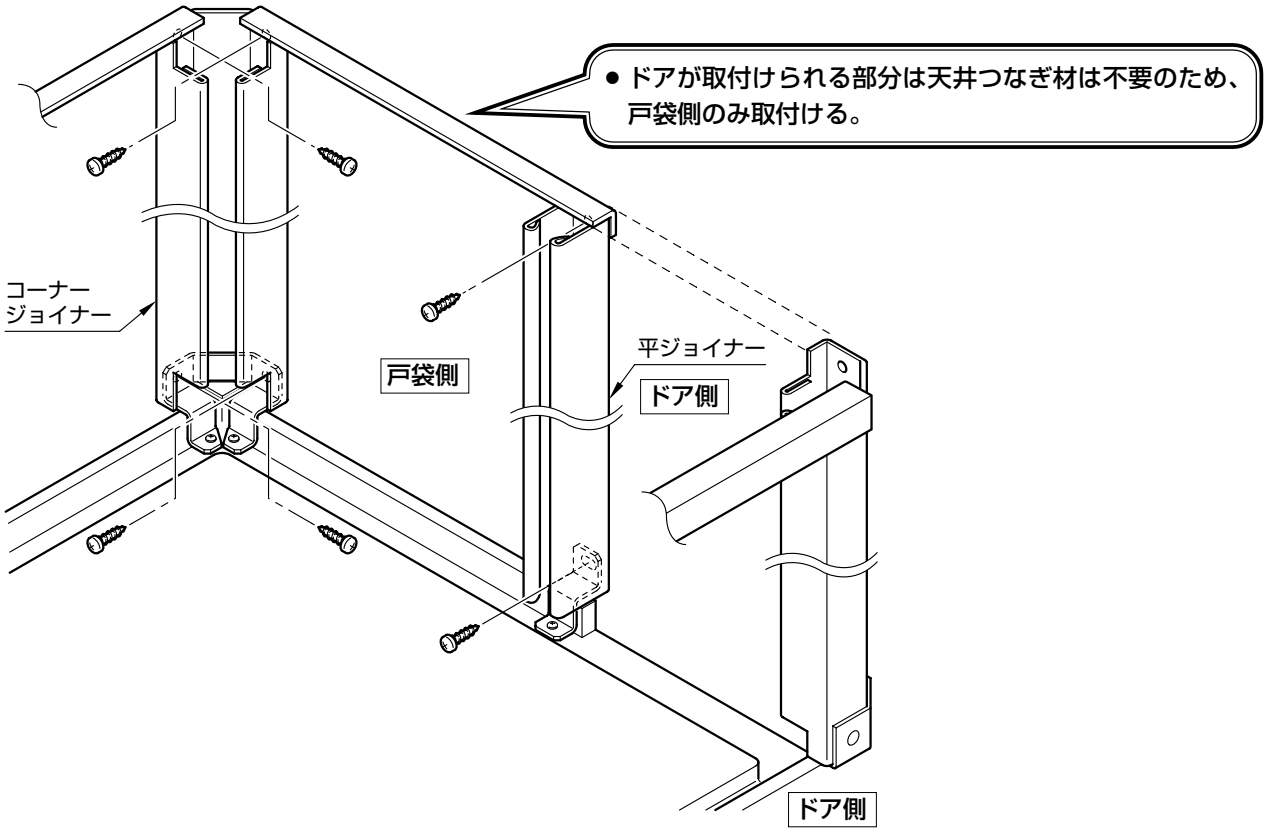
2 ジョイナー取付

①コーナージョイナーをコーナージョイナー取付材に固定。
②コーナージョイナー間に天井つなぎ材を固定。
③平ジョイナーを固定。

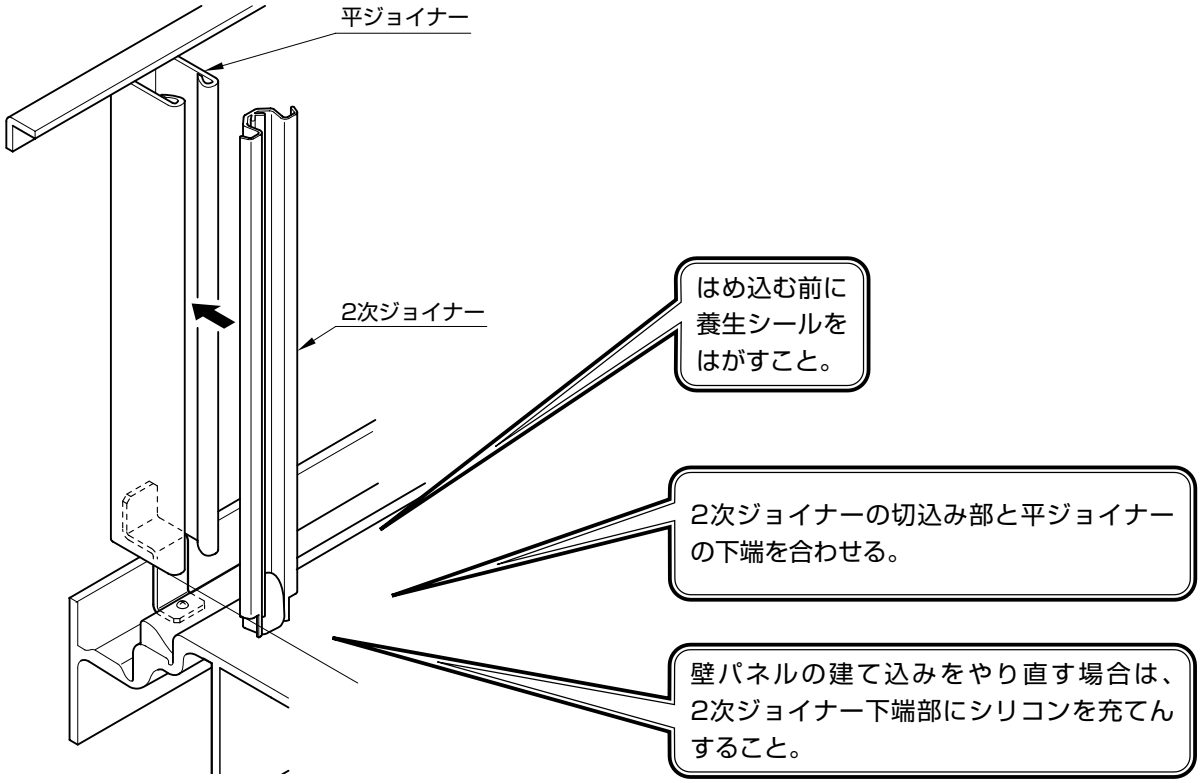
平ジョイナーは倒壊防止の為、いったん平ジョイナー取付材に載せてから、天井つなぎ材→平ジョイナー取付材の順に固定する。



【2枚引戸の場合】


● ドアが取付けられる部分は天井つなぎ材は不要のため、
戸袋側のみ取付ける。
コーナー
ジョイナー
戸袋側
平ジョイナー
ドア側
ドア側

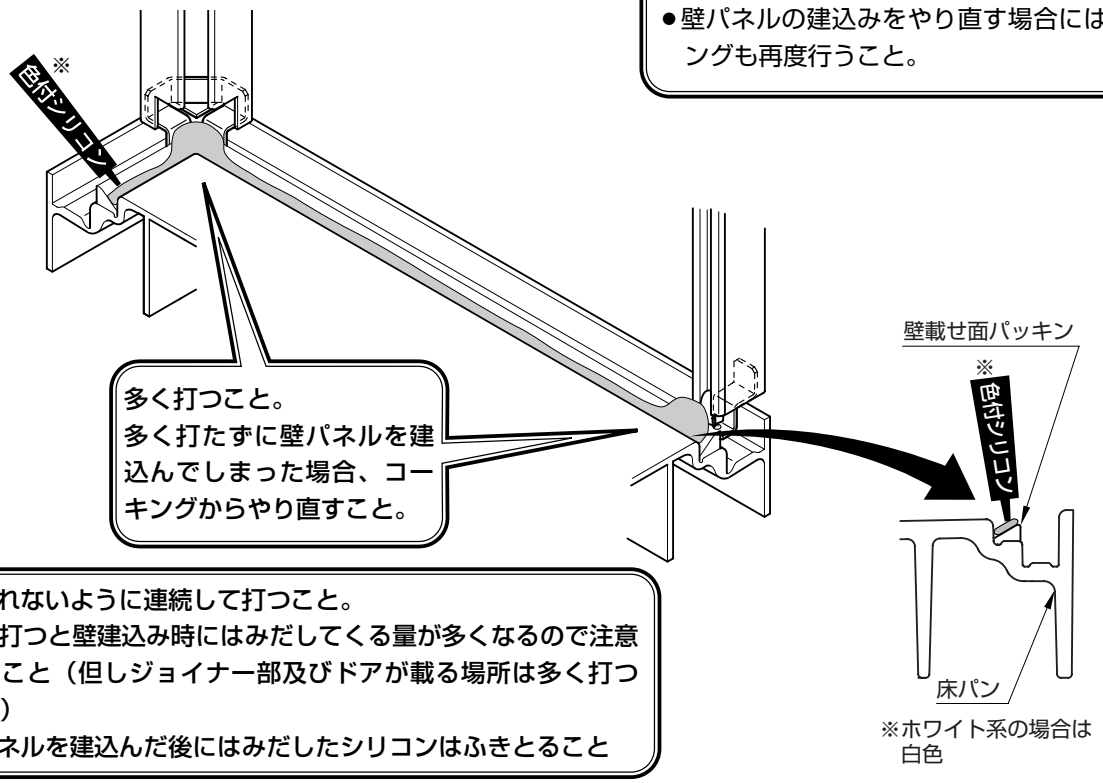
3 2次ジョイナー取付



4 1次コーキング

壁載せ面のパッキンの上面へ床パン全周にわたりシリコンをうつ。

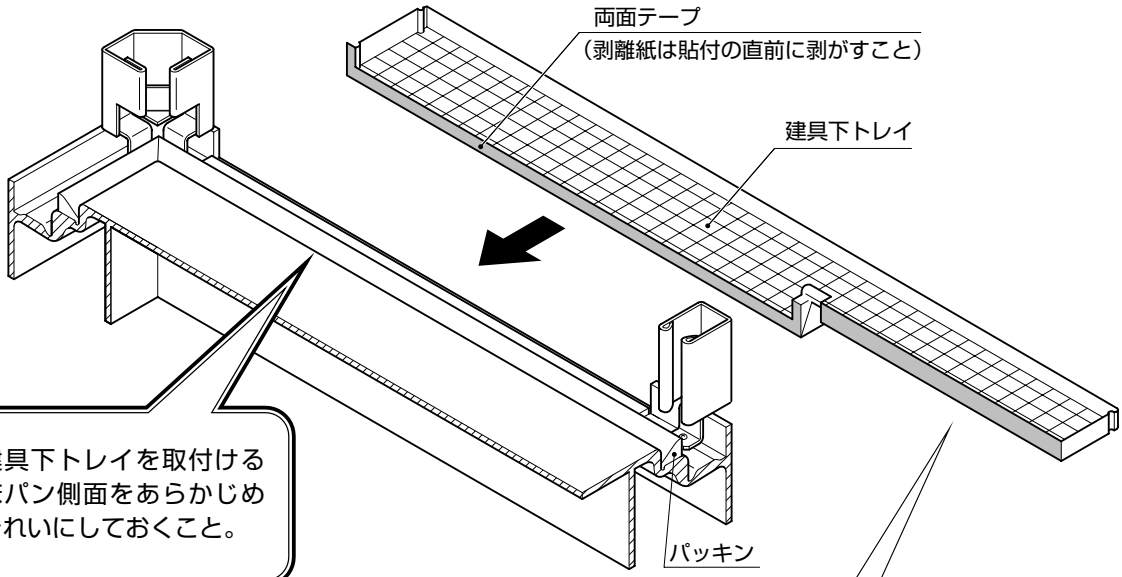
- 壁パネルの建込みはシリコンが固まらないうちに行うこと。
- 壁パネルの建込みをやり直す場合にはコーキングも再度行うこと。



- とぎれないように連続して打つこと。
- 多く打つと壁建込み時にはみだしてくる量が多くなるので注意すること（但しジョイナー部及びドアが載る場所は多く打つこと）
- 壁パネルを建込んだ後にはみだしたシリコンはふきとること

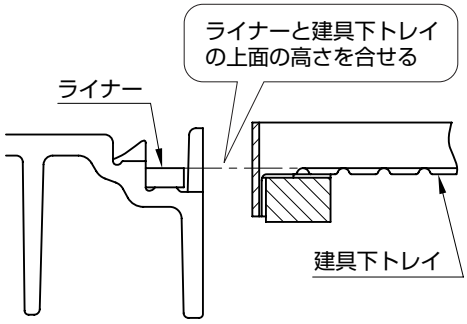
建具下トレイ取付（ジョイナー組立直後　2枚引戸の場合のみ）

入口部分の床の形状に合わせて建具下トレイを貼付ける



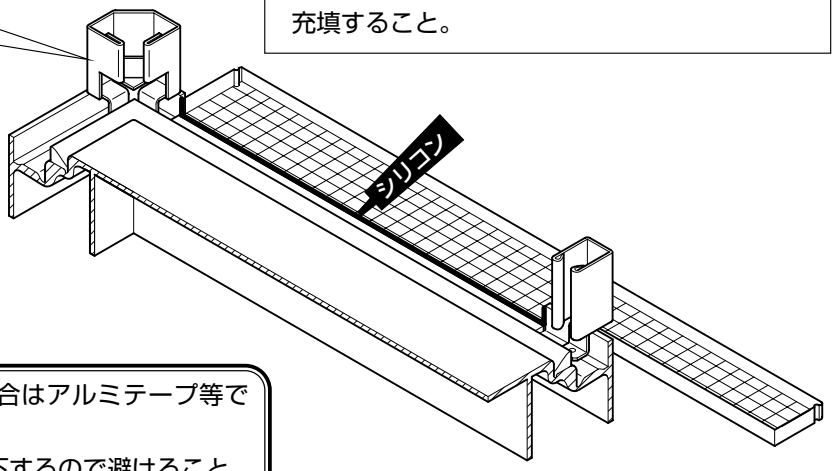
注 意　建具下トレイを取付ける床パン側面をあらかじめきれいにしておくこと。

床パンにしっかりと密着させること。



はみ出した余分なシリコンは拭き取る。

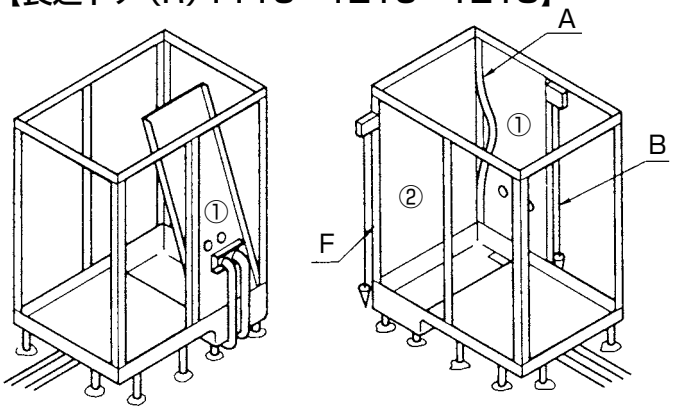
床パンと建具下トレイの継ぎ目にシリコンを充填すること。



- 建具下トレイを誤って破損させた場合はアルミテープ等で補修すること。
- 両面テープの貼り直しは粘着力が低下するので避けること。

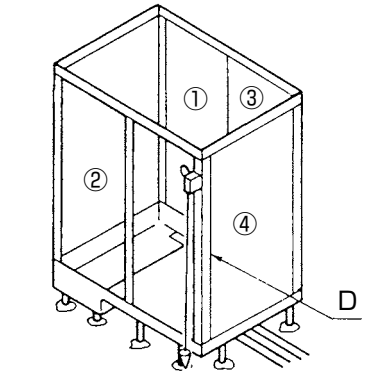
壁パネル組立

【長辺ドア(R)1116・1216・1218】



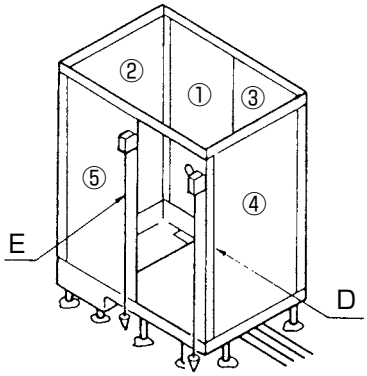
まず、①②のパネルを建込み、コーナー目地を上下端(15～20cm)仮打ちし、B部平ジョイナー及びF部コーナージョイナーの倒れを下げ振りにて調整（1mm以内）する。調整後、A部のコーナー目地を下から完全に打込む。

以降コーナー目地は、上下端のみ仮打ちする。ドア枠倒れ調整後に完全に打込む。



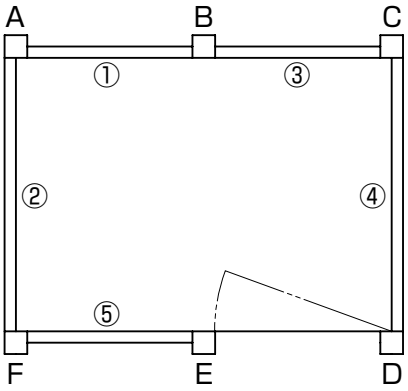
③④のパネルを建込みD部コーナージョイナーの倒れを調整する。

平ジョイント部は後ろから入れるパネルを斜めにしてまず下端をかん合させる。

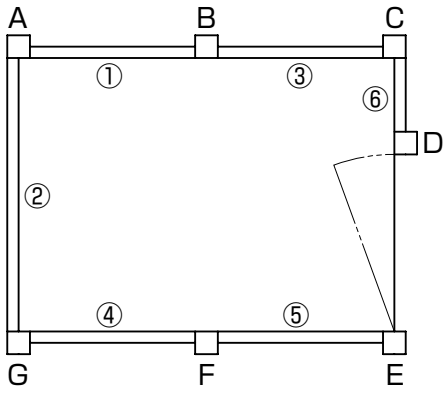


⑤のパネルを建込みE部コーナージョイナーの倒れを調整し、ジョイナーD･Eの倒れを最終確認する。

壁パネル組立てをやり直す時は、再度床パン壁のせ面及び2次ジョイナー下端にシリコンを塗布すること。

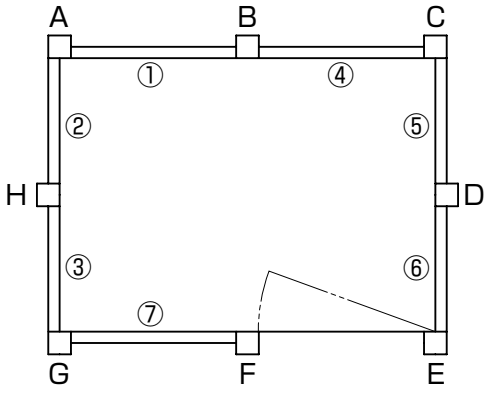


【短辺ドア(R)1116・1216・1218】



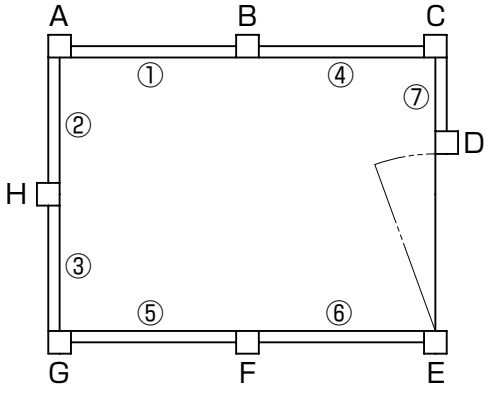
①②のパネルを建込み、ジョイナーB･Gの倒れを調整する。
③のパネルを建込む。
④のパネルを建込み、ジョイナーFの倒れを調整する。
⑤のパネルを建込み、ジョイナーEの倒れを調整する。
⑥のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整し、ジョイナーD･Eの倒れを最終確認する。

【長辺ドア(R)1317・1416・1418・1618】



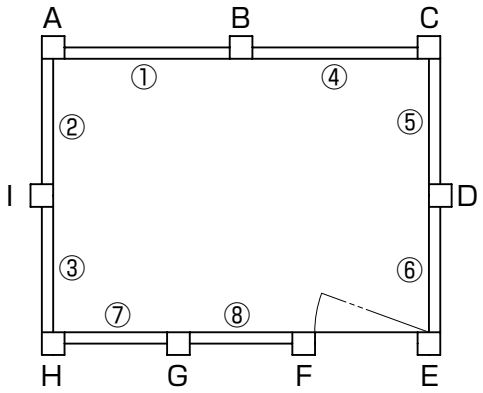
①②のパネルを建込み、ジョイナーB･Hの倒れを調整する。
③のパネルを建込む。
④⑤のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整する。
⑥⑦のパネルを建込み、ジョイナーE･Fの倒れを調整する。

【短辺ドア(R)1317･1416･1418･1618･1620】



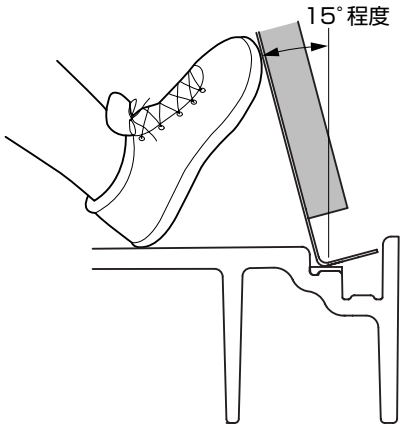
①②のパネルを建込み、ジョイナーB･Hの倒れを調整する。
③④のパネルを建込む。
⑤のパネルを建込み、ジョイナーFの倒れを調整する。
⑥のパネルを建込み、ジョイナーEの倒れを調整する。
⑦のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整し、ジョイナーD･Eの倒れを最終確認する。

【長辺ドア(R)1620】



①②のパネルを建込み、ジョイナーB･Iの倒れを調整する。
③のパネルを建込む。
④⑤のパネルを建込み、ジョイナーDの倒れを調整する。
⑥のパネルを建込み、ジョイナーEの倒れを調整する。
⑦のパネルを建込み、ジョイナーGの倒れを調整する。
⑧のパネルを建込み、ジョイナーFの倒れを調整し、ジョイナーE･Fの倒れを最終確認する。

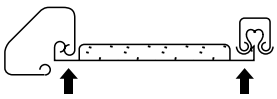
壁パネル建込要領



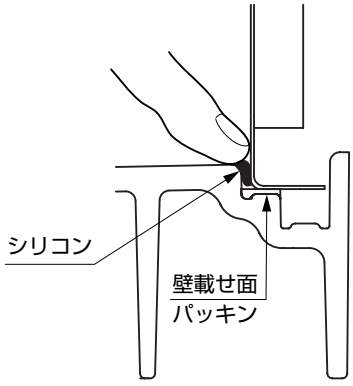
パネルを手前に倒して、床に載せパネル下部を足先で押え下側から入れる。

壁パネルを十分落とし込むこと。

パネルをゆっくり建起こして、パネル両端をジョイナーにはめ合わせる。



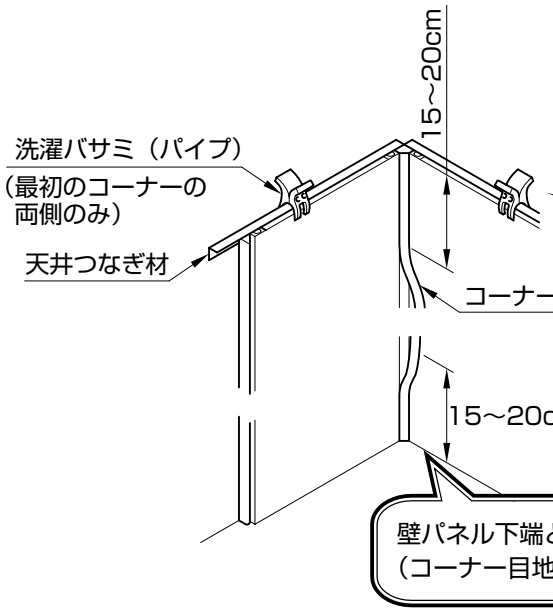
パネルが入りにくい場合は下側から手のひらで軽くたたく。



壁パネルと床パンの間に見えるシリコンをできるだけぬぐいとる。

シリコンが固まる前にぬぐいとること。
ぬぐいとらないと2次コーキングがきれいに仕上げられない。

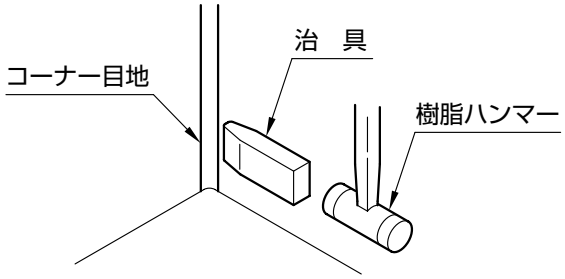
コーナージョイント部組立要領



2枚のパネル、コーナー目地の上下端を合わせ当て木をして、コーナー目地を打込み仮止めする。
仮止めは上下端15～20cm。

最初のコーナーを組立てる際は洗濯バサミ（パイプ用）を使うとパネルが倒れる心配がない。

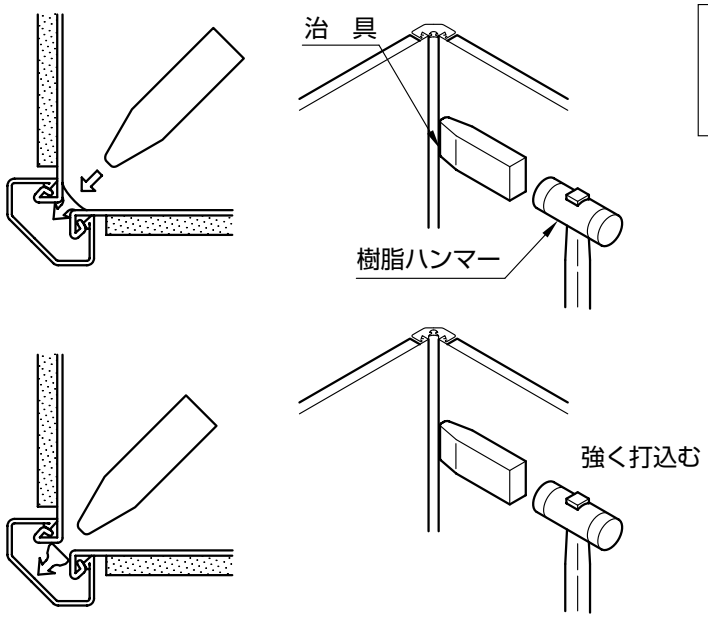
壁パネル下端とコーナー目地下端を合わせること。
（コーナー目地を床パンの壁載せ面まで差込むこと）



コーナー目地を完全に打込むときは下から打込む。上から打込むとたるんだ分が入らないことがある。

目地の浮きがないこと。

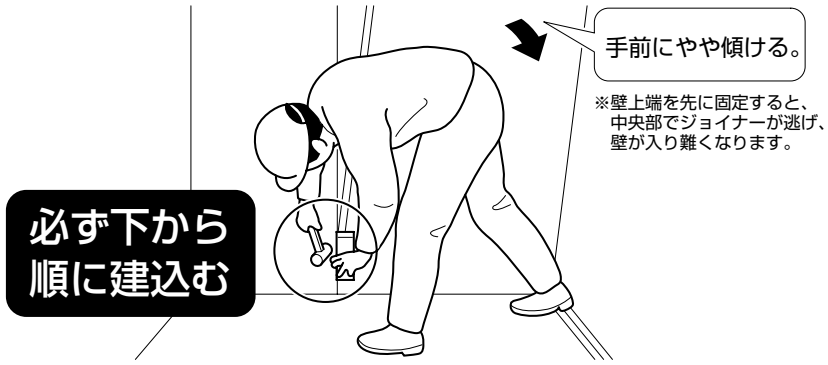
■コーナー目地の外し方



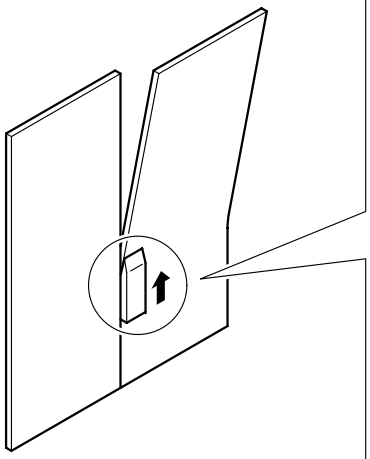
治具（当て木）を使ってコーナー目地を強く打込んで、コーナージョイナー内に入れ込み、コーナー目地をジョイナー上から取出す。

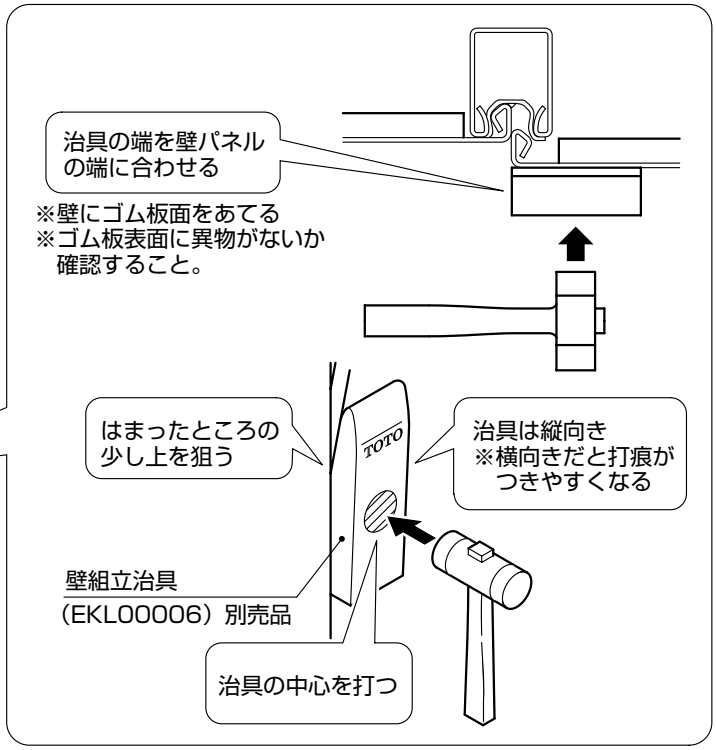
平ジョイント部組立要領（治具使用）

1 建込み要領

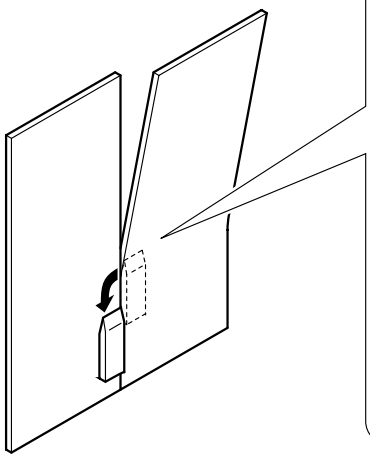


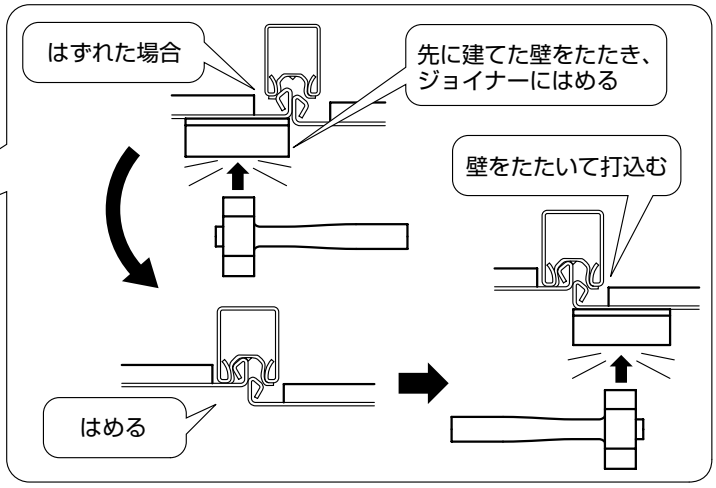
2 打込要領



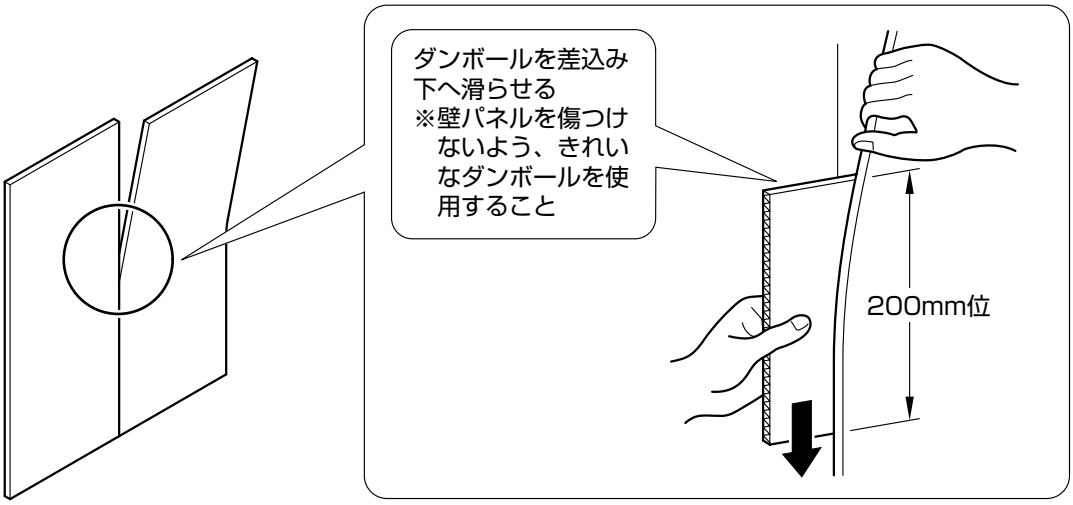


注 ジョイナーが後ろへはずれた場合の対処

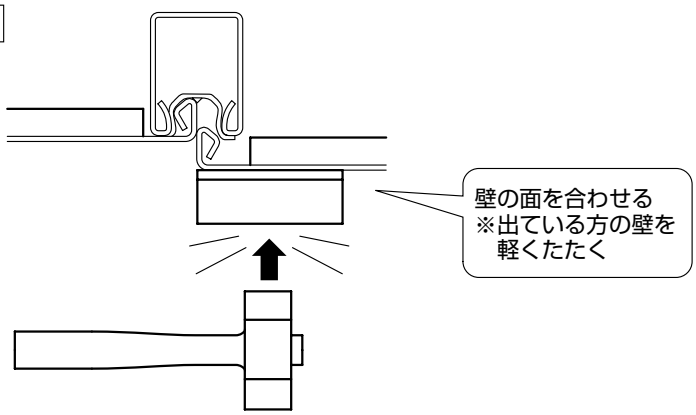




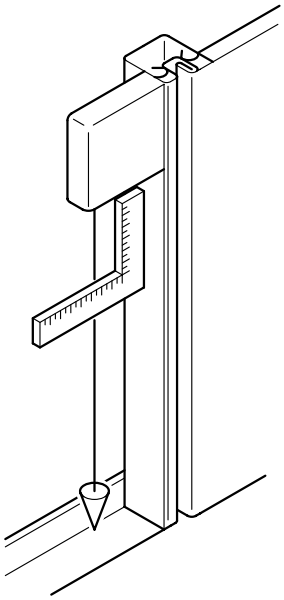
注 途中で壁をはずす場合



3 調整



■ジョイナーの倒れ確認要領

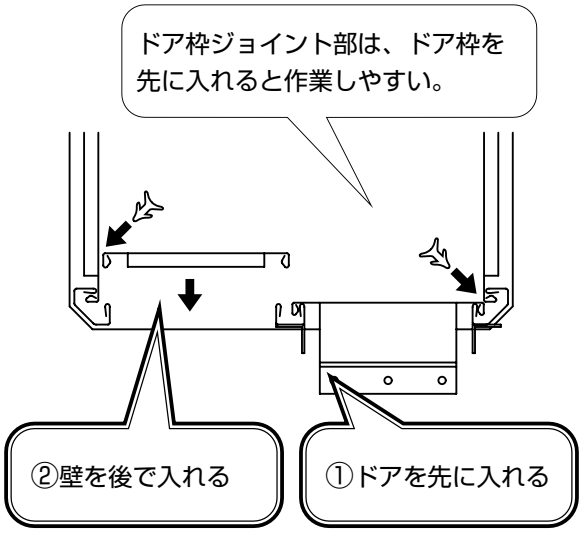


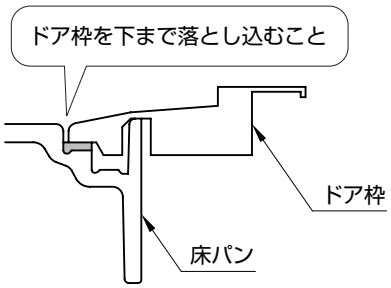
ジョイナーの倒れを下げ振り等で調整する。

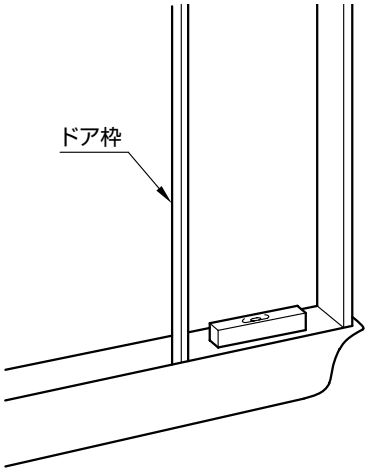
倒れは1mm以内

ドア枠の建込み

1 ドア枠建込み

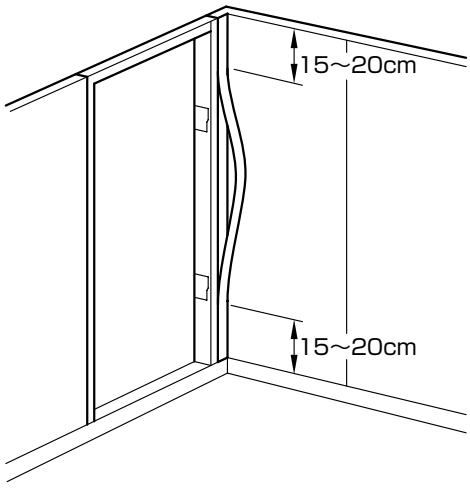






ある程度ドア枠をかん合させドア下枠のレベルを調整する。
レベル調整後ドア枠を完全に建込む。

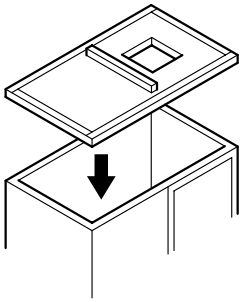
2 コーナー目地仮打ち



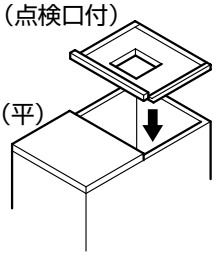
コーナー目地を下端からあて木をして仮打ちをする。仮打ちは上下端（15～20cm）

天井パネルの取付

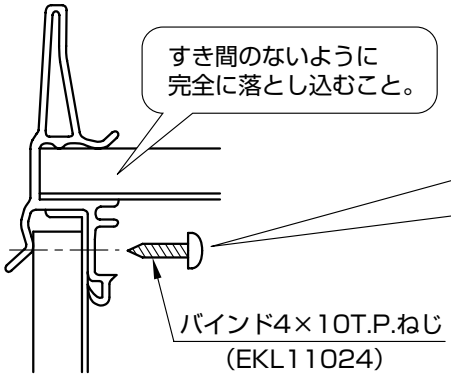
1 天井パネルをはめ込む



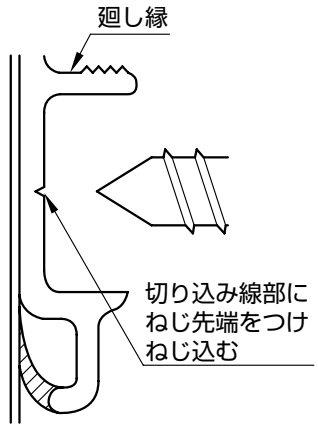
【分割天井の場合】
はめ込みは平側から行い、
接合部に段差のないように
完全にかん合させる。



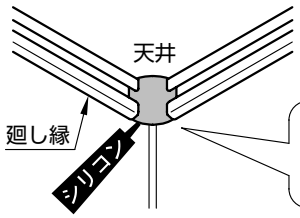
すき間のないように
完全に落とし込むこと。



壁パネル1枚あたり、2ヶ所固定する。
（壁パネルの端から100mm内側に打つ）

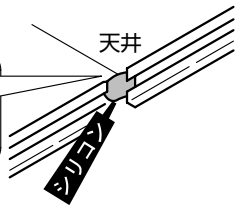


2 シリコンを充てん



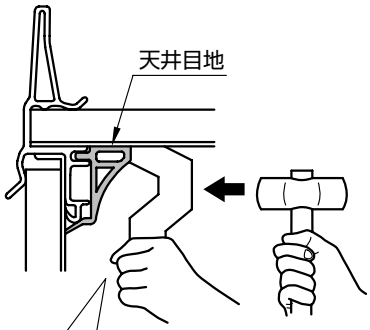
四隅の天井パネルと壁パネル
のすき間に十分充てん。

【分割天井の場合】

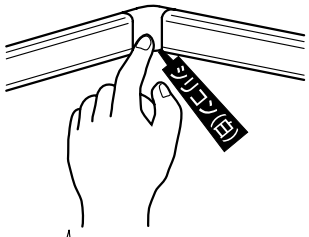


接合部のすき間
にもシリコンを
十分に充てん。

3 天井目地の打込

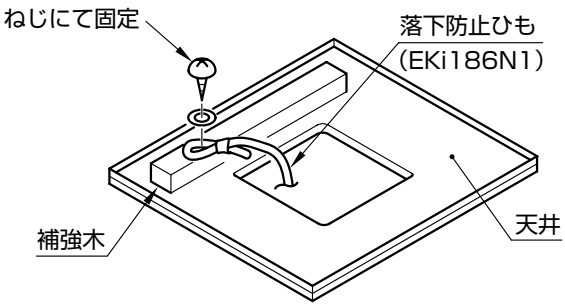


組立治具（EKL953-別途手配）
を使用して天井目地を打込む。

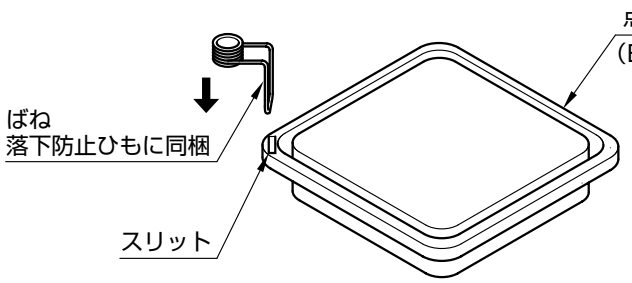


天井目地の四隅のすき間はシリコン
を充てんして、指で整える。

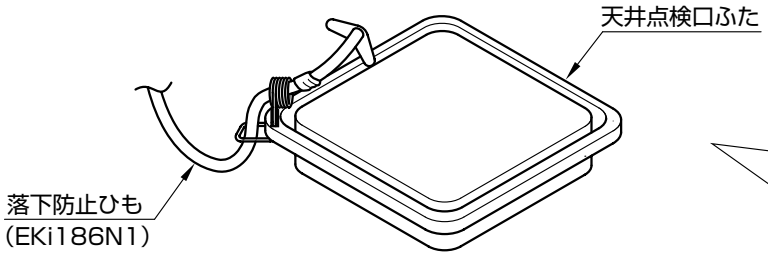
4 点検口ふた取付



①ひものループを付属のワッシャ、ねじにて天井裏の補強木に止める。



②落下防止ひものばねを天井点検口ふたのスリット部に差込む。
(パッキンは押し破る)

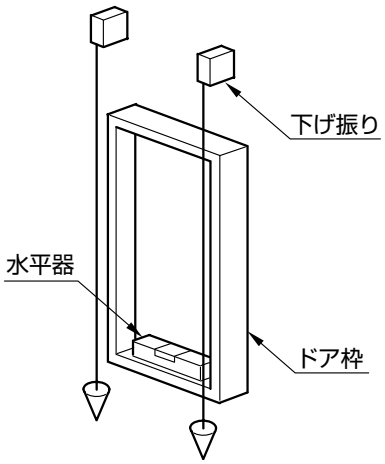


③ばねに落下防止ひもを通して天井本体に点検口を納める。

ドア枠の倒れ調整・固定

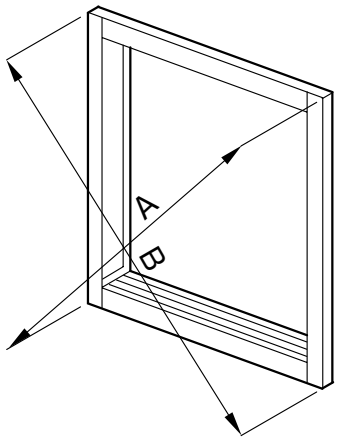
1 ドア枠倒れ調整

ドア枠の倒れを調整する。



■ドア枠建込み許容差

平面位置高さ	±2mm以内
倒れ・前後左右	±2mm以内
ひねり(A-B)	2mm以内

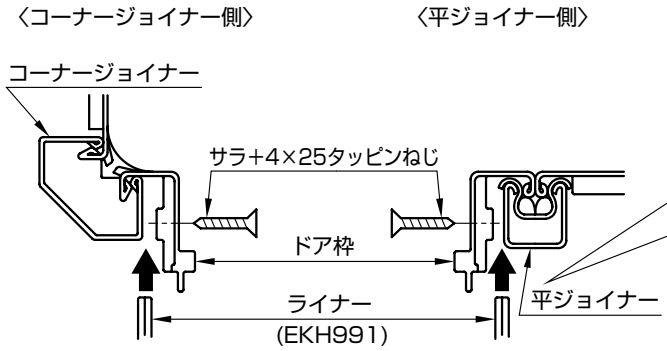


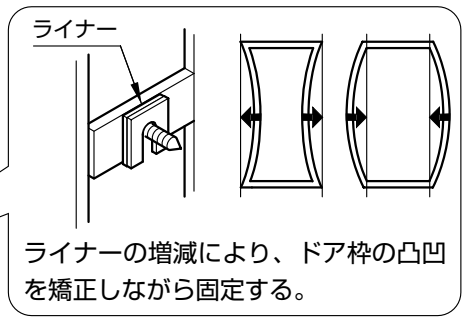
2 コーナー目地打込

ドア枠が調整できたら、仮打ちしてあるコーナー目地を下から完全に打込む。

3 ドア枠固定

ドア枠を固定する。





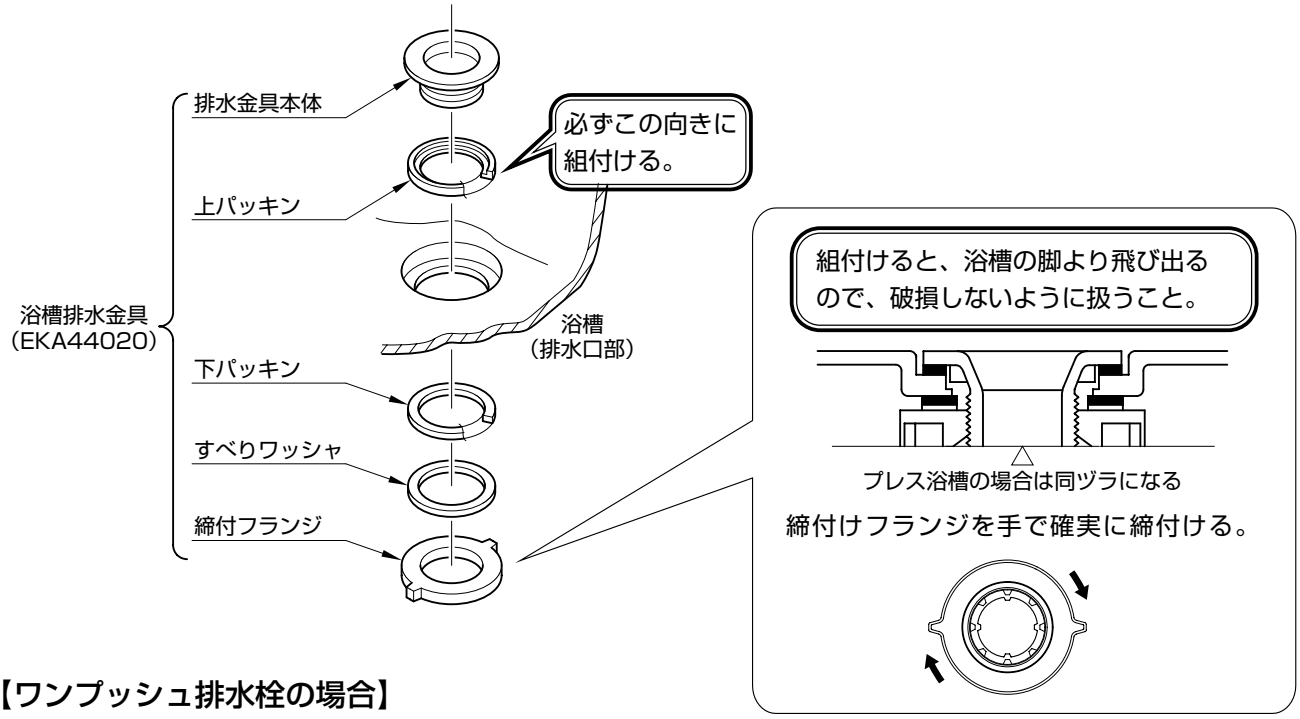
ライナーの増減により、ドア枠の凸凹を矯正しながら固定する。

浴槽設置

1 浴槽排水金具取付

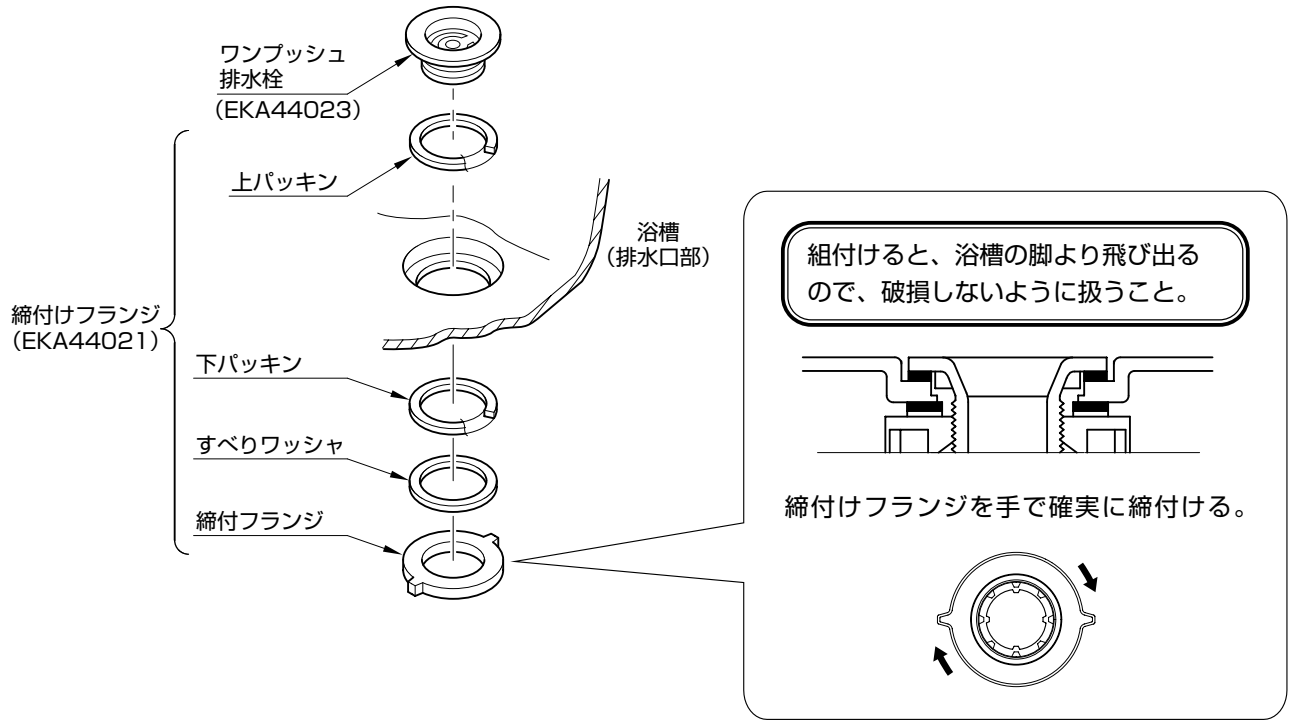
【ゴム栓の場合】

排水金具をいったんばらし、浴槽の排水口部に組付ける。(上パッキンと下パッキンの間ではさむ。)

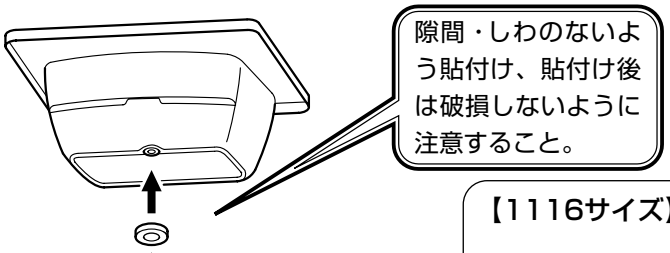


【ワンプッシュ排水栓の場合】

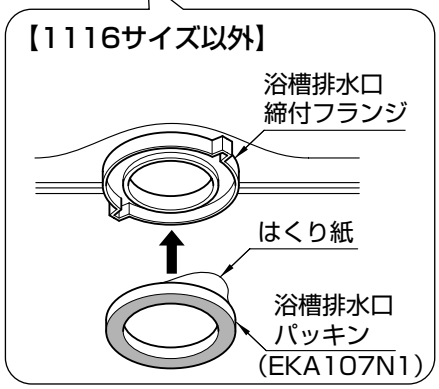
浴槽の排水口部に組付ける。(パッキンは正しく組付けること。)

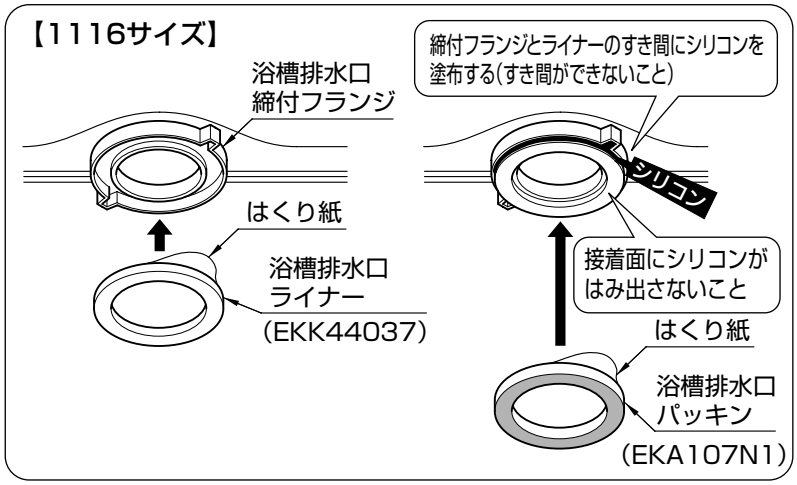


2 排水パッキン貼付



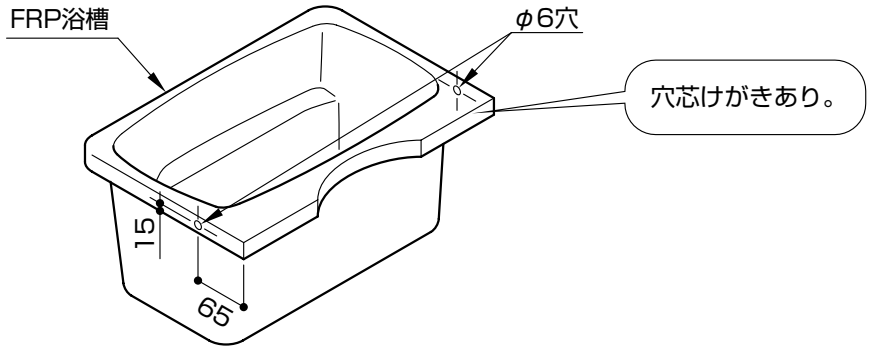
浴槽に組付けた締付けフランジの底面にパッキンを貼付ける。



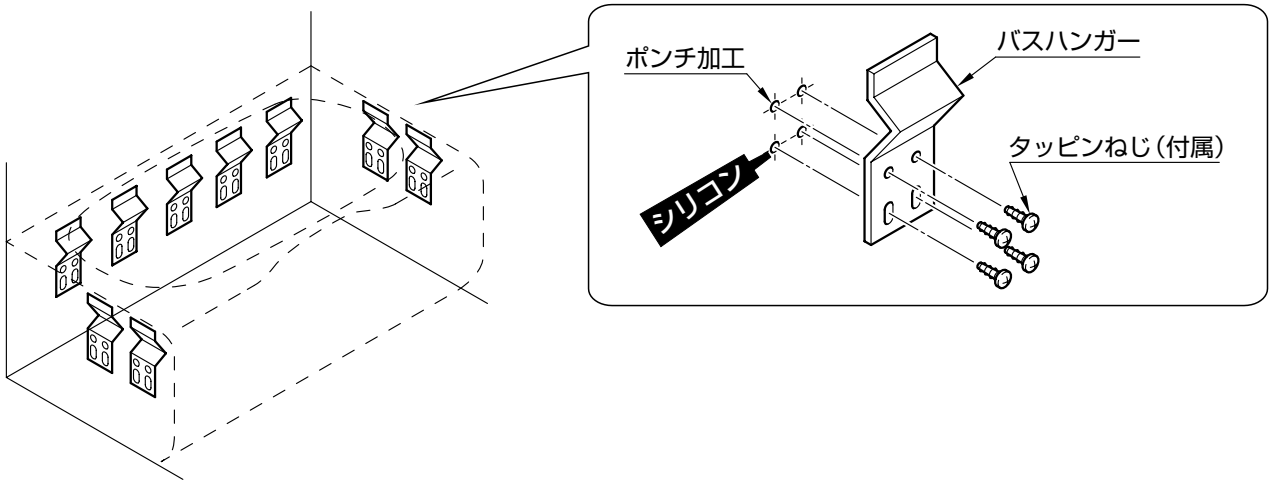


3 浴槽固定用ねじ穴あけ

※FRP浴槽の場合のみ。

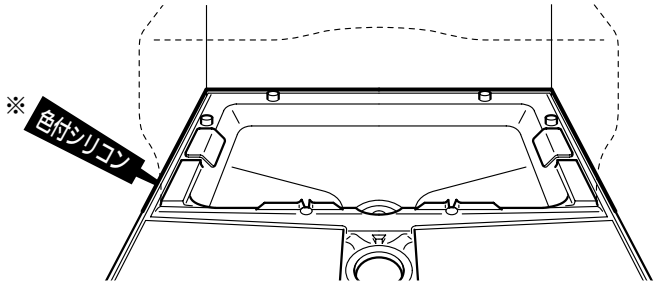


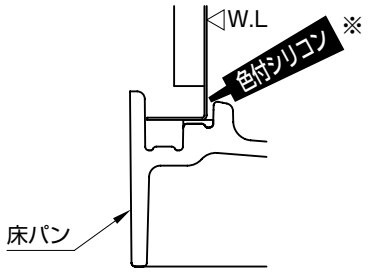
4 バスハンガー取付



5 浴槽下2次コーキング

浴槽下にかくれる部分の壁パネル下端に、2次コーキングを施す。

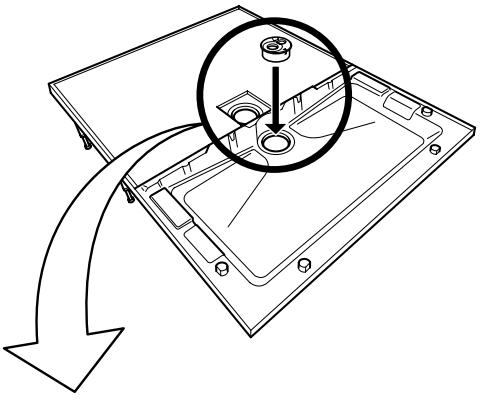


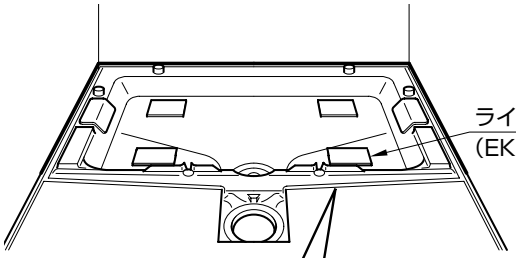


※ホワイト系は白色

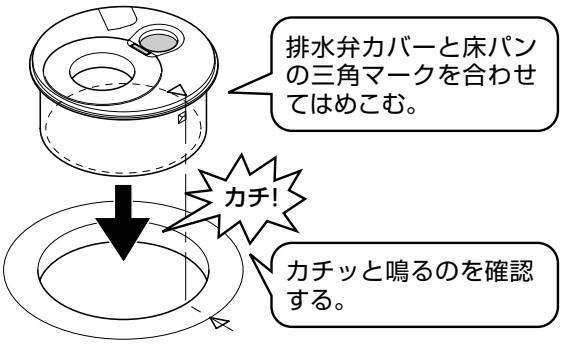
6 排水弁カバー取付、ライナー貼付（1116のみ）

※1116サイズのみ

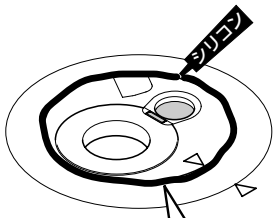




床パンのけがき位置に合わせてライナー(□100×t10)を4ヶ所貼付ける



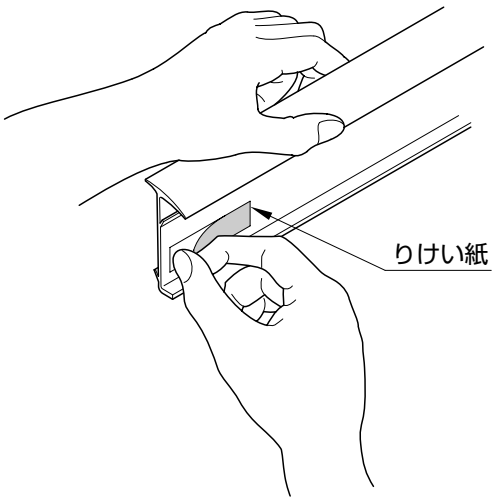
シリコンは必ず打つこと



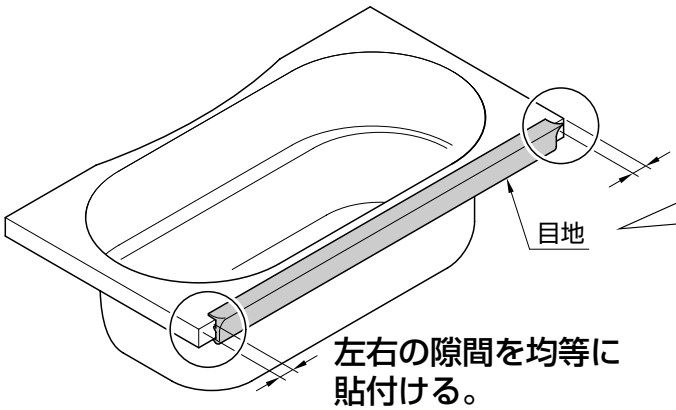
はみ出しはきれいにふきとること

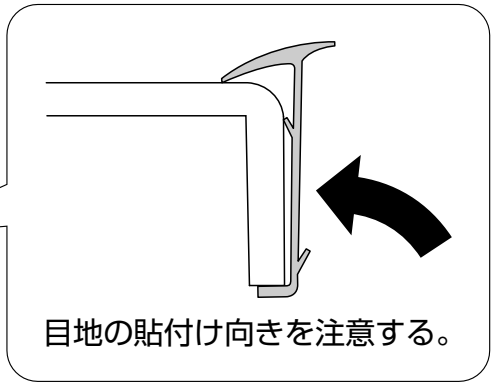
7 長辺側目地の取付

①長辺側目地の両面テープのりけい紙を剥がす。（3ケ所）



②左右の隙間が均等になるように目地を浴槽リムへ挟み込み固定する。



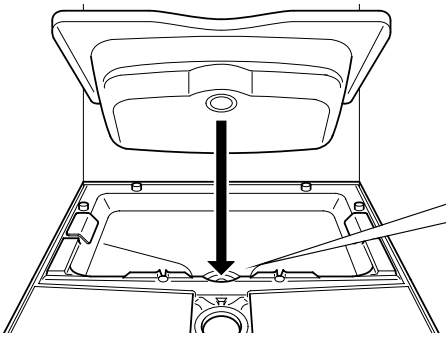


8 浴槽搬入

①浴槽の搬入

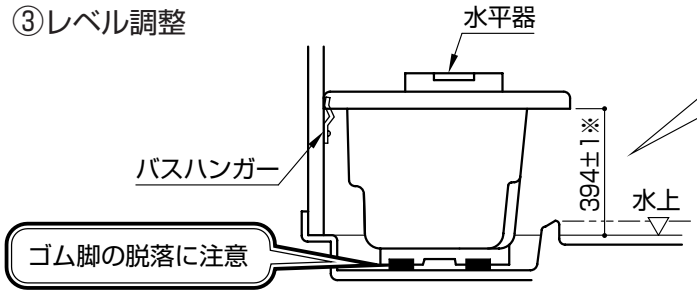
ドア枠、壁などに絶対にキズ付けないこと。

②据付



排水パッキンと排水弁カバーの穴を合わせること。

③レベル調整

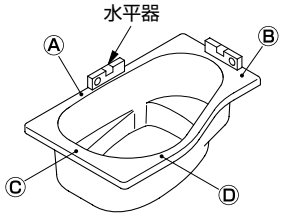


浴槽上端のレベルを確認して、必要に応じて浴槽脚部の下にライナーを入れる。
寸法が出ていないとエプロン目地が取付けられないことがある。

※1116サイズのみ404±1

- リム面は必ず水平にすること。
- がたつきのないことを確認すること。

三角形浴槽の場合

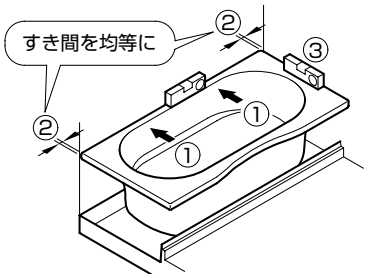


三角形浴槽の場合、Ⓐ と Ⓑ の辺で水平器をあててレベルを見る。

Ⓒ と Ⓓ の辺は斜めになっているので、水平レベル基準辺にはしないこと。

9 浴槽目地取付

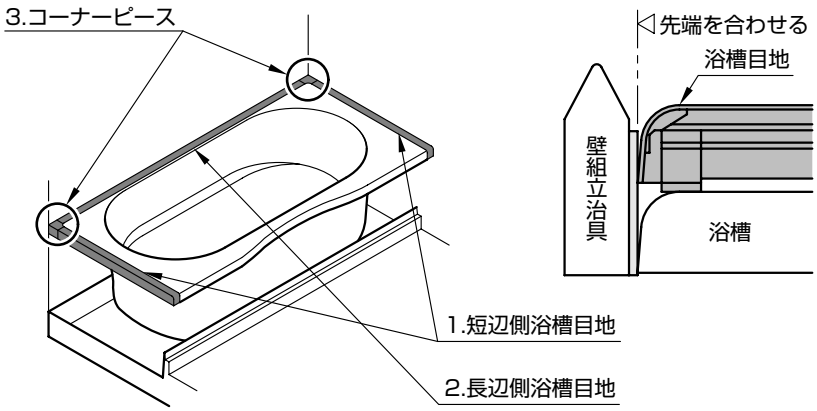
■浴槽位置調整



①長辺側のすき間が小さくなるように、浴槽を壁に押し当てる。
②左右のすき間が均等になるように、浴槽位置を調整する。
（すき間が広いと目地の浮き、コーナーピースねじれの原因となります）
③リム面は必ず水平にして、がたつきがないことを確認する。

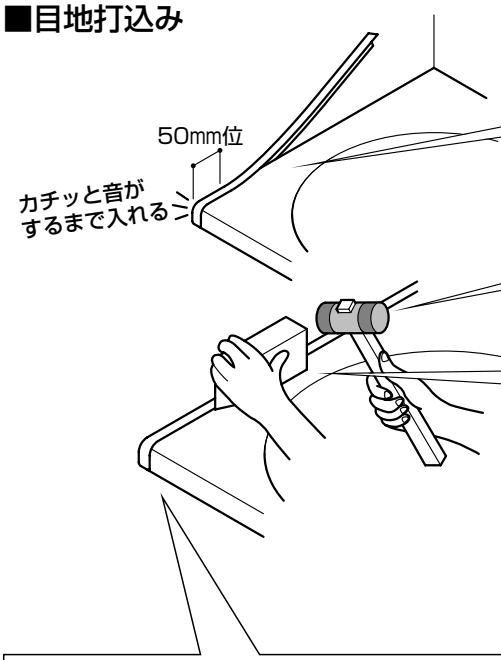
9－1 短辺側目地取付

■先端の位置決め



①上図のように壁組立治具等を浴槽先端に垂直にあてがう。
②そこに浴槽目地の先端を合わせる。

■目地打込み



①まず先端から50mm位を押込む。

②残りの目地を打込む。

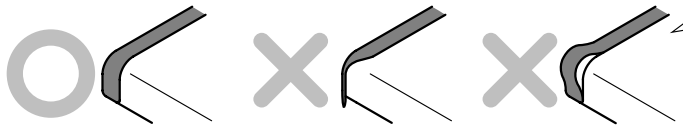
手で入らない時は、壁組立治具にて少しずつ打込む。

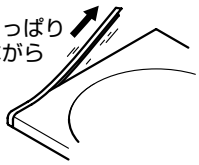
注 意

強くたたきますと目地が割れるおそれがありますので、軽くたたいてください。

※以下の項目を確認してください。

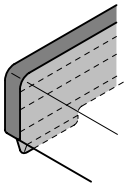
①浴槽と目地の間にすき間、入り込み過ぎがないこと。



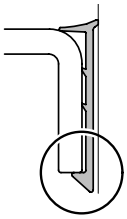


すき間がある場合は、浴槽目地を後方へ引っぱるとすき間がなくなります。

②目地が確実に入っていることを確認する。



③浴槽リム下端に目地の爪が確実に掛かっていること。掛かっていないと浮きの原因になります。

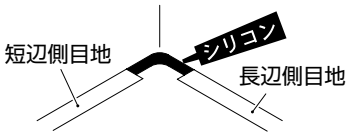


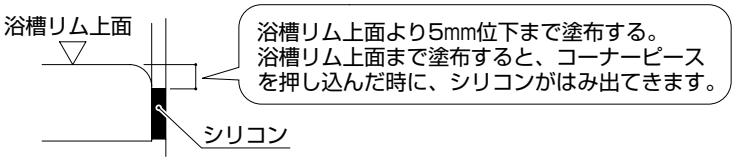
④はみ出したシリコンはきれいにふき取ってください。

9−2 コーナーピース取付

■シリコン塗布

※浴槽のコーナー2ケ所にて下記にてシリコンを塗布する（白）

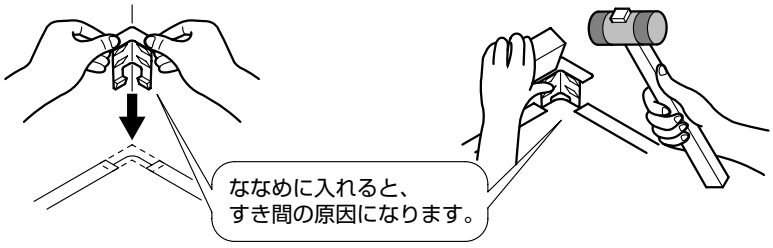




■コーナーピース取付

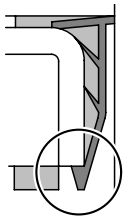
※コーナーピースを指で
まっすぐ押込む。

※指で押込めない場合は、
壁組立治具で軽くたたく。

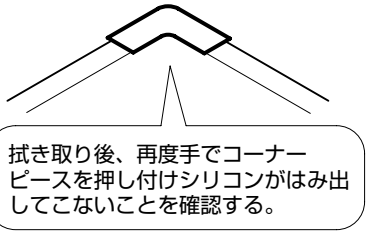


※以下の項目を確認してください。

①浴槽リム下端に、コーナーピースの
爪が確実に掛かっていること。

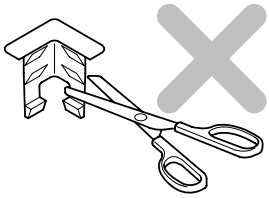


②シリコンがはみ出してしまった場合
はきれいにふき取る。



注 意

コーナーピースの脚は絶対にカットしないでください。浮き上がりの原因となります。



目地の取外し方

①バスエプロンを外してください。

②浴槽をバスハンガーから外れる程度まで持ち上げて浴槽目地を外してください。

※浴槽を持ち上げる際、壁を傷つけないよう注意してください。

※浴槽に付着したシリコンはカッターなどで取除いてください。

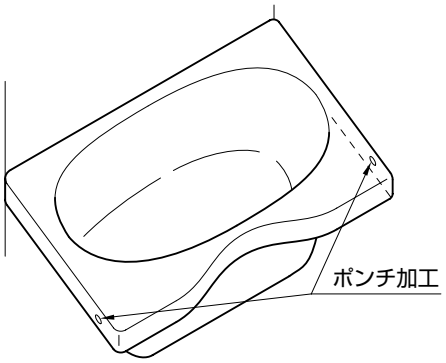
9 浴槽固定

注 意

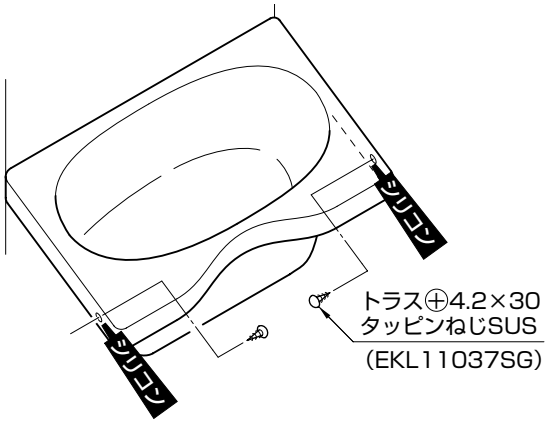
固定する前に、エプロンを正規の方法で取付けてみて、スムースに着脱できるか確認すること。
(「浴槽エプロン取付」(P37) 項参照)

【FRP浴槽】

①ポンチ加工

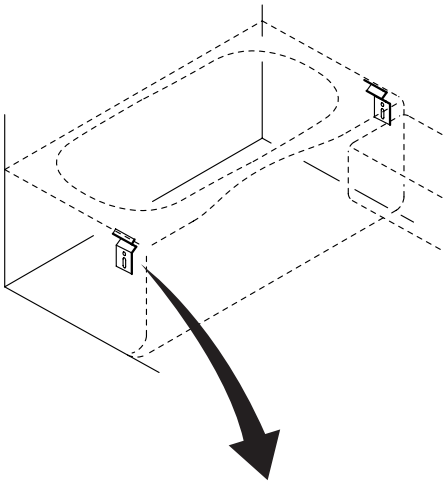


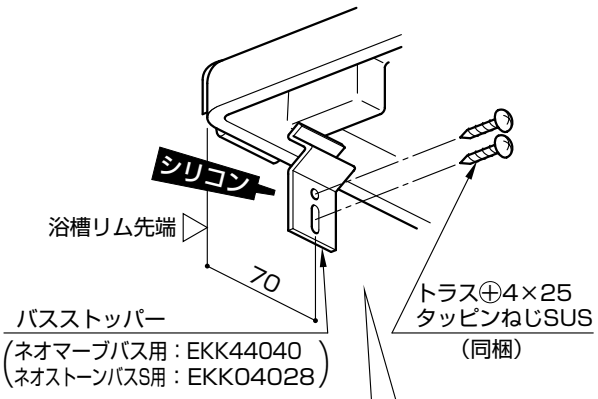
②シリコン充てんおよびねじ固定



【FRP浴槽以外】

バスフックを取付ける。





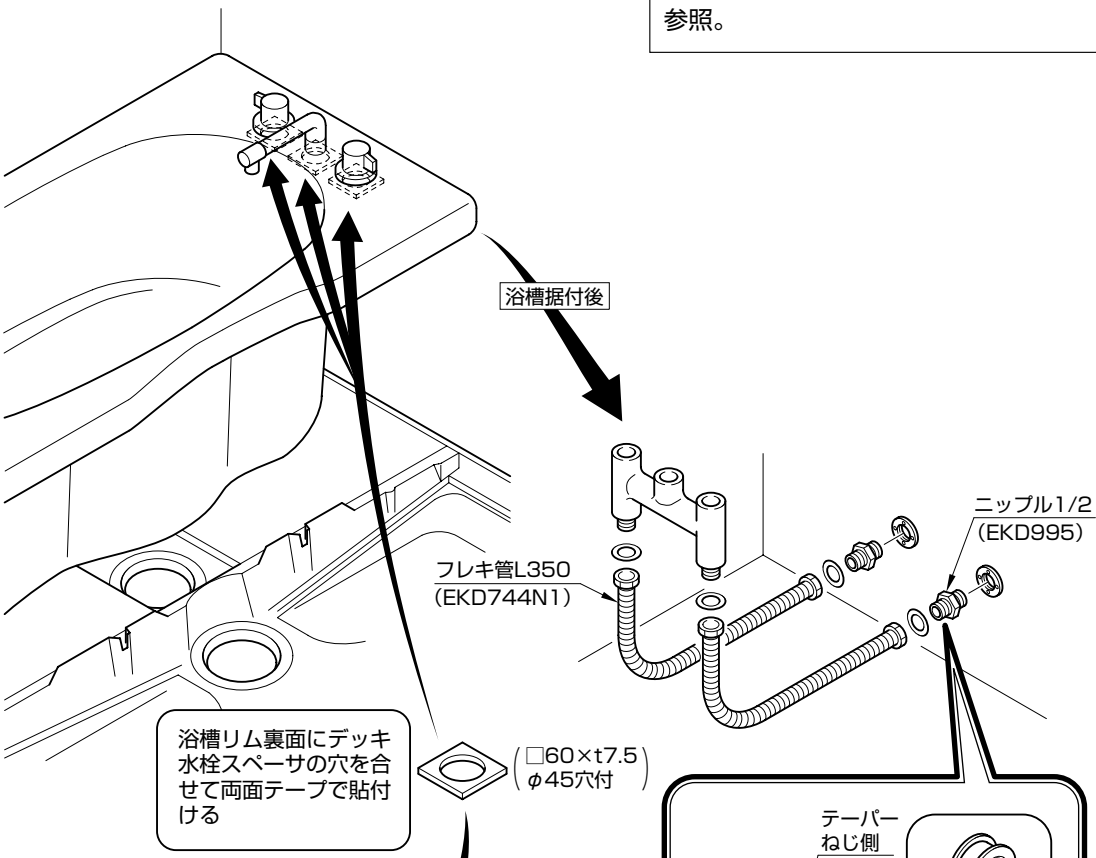
下から押し付けるように取付ける。
(長穴で仮固定後、丸穴で固定)

浴槽デッキ水栓取付

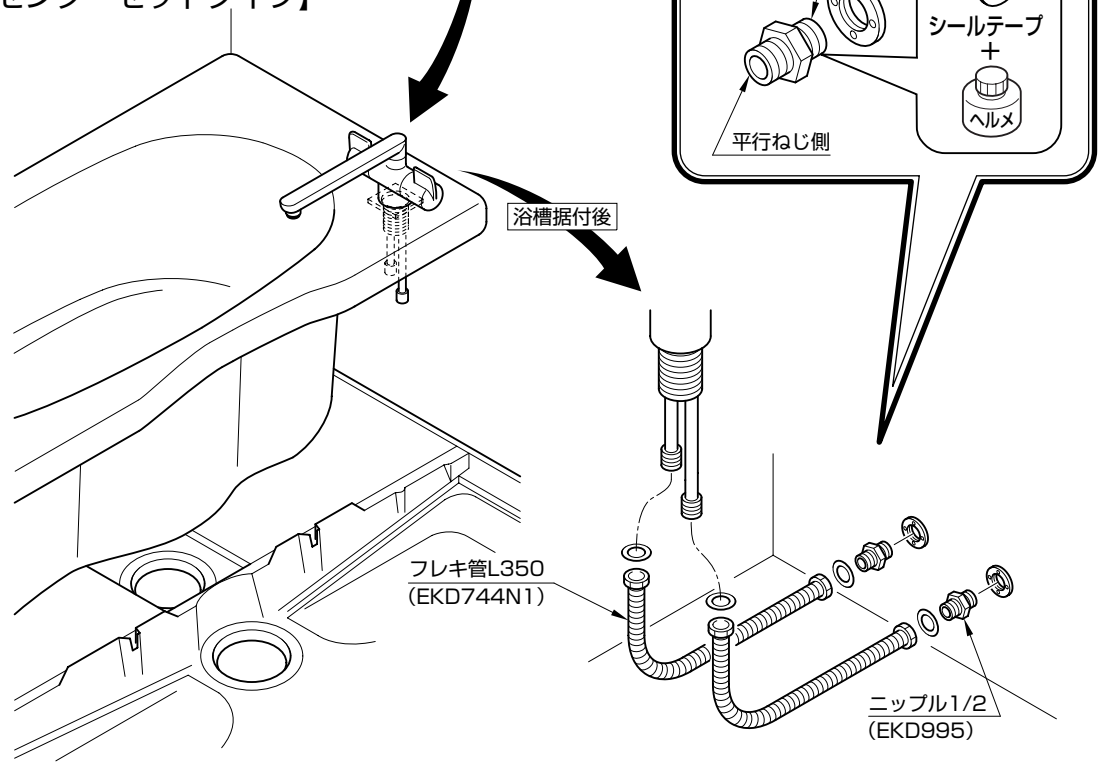
■デッキ水栓仕様の場合のみ

【コンビネーションタイプ】

水栓金具取付け、調整要領は「取扱説明書」を参照。

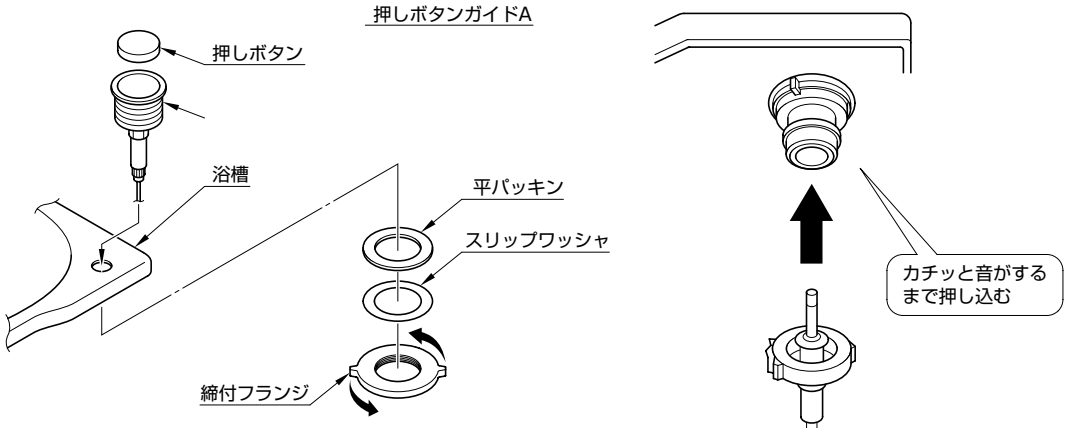


【センターセットタイプ】

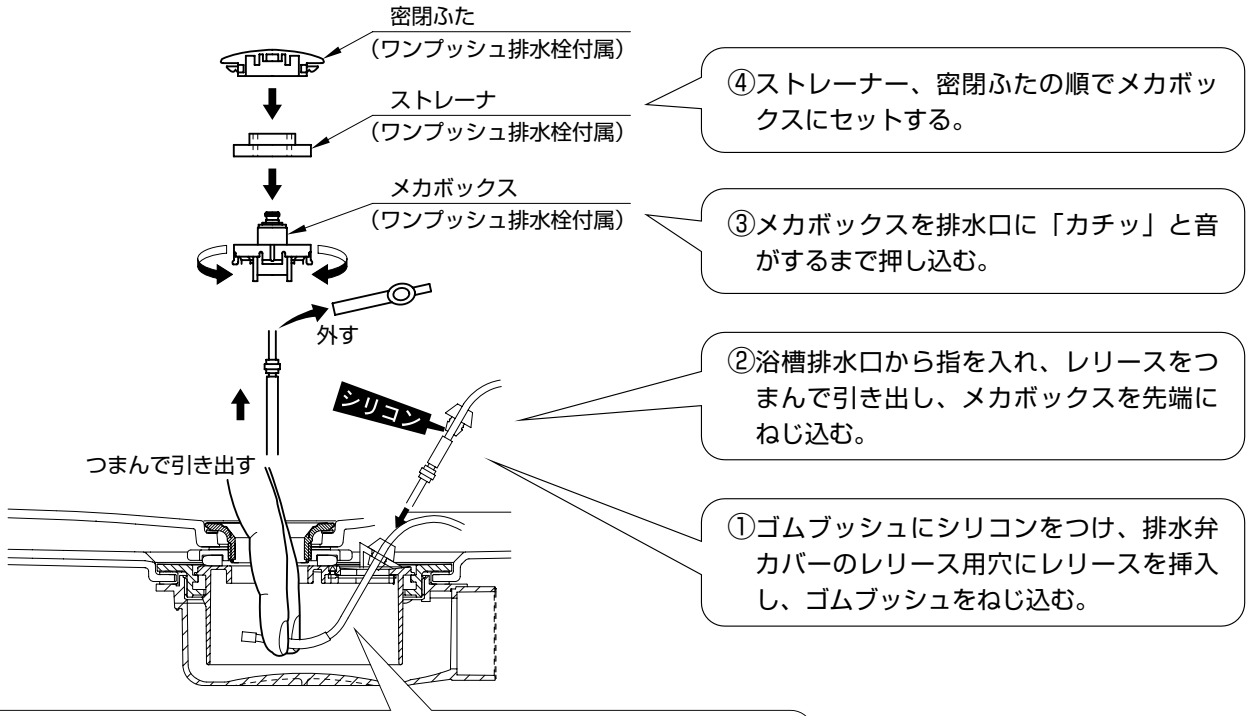


ワンプッシュ排水栓取付

1 押しボタン取付

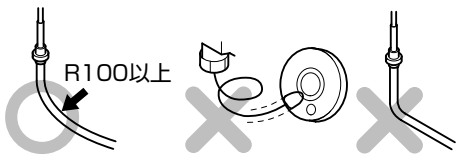


2 レリース挿入

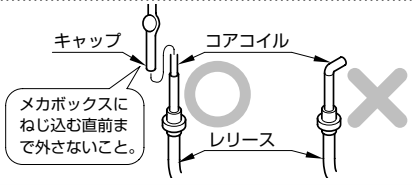


⚠注意

レリースの曲げはゆるやかに取り廻すこと。
動作不良の原因となります。



コアコイルは絶対に折曲げないよう注意のこと。
動作不良の原因となります。

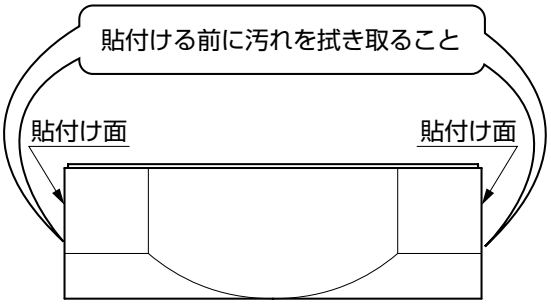


3 作動確認

押しボタンを押して密閉ふたの作動を確認する。

エプロンパッキンの貼付

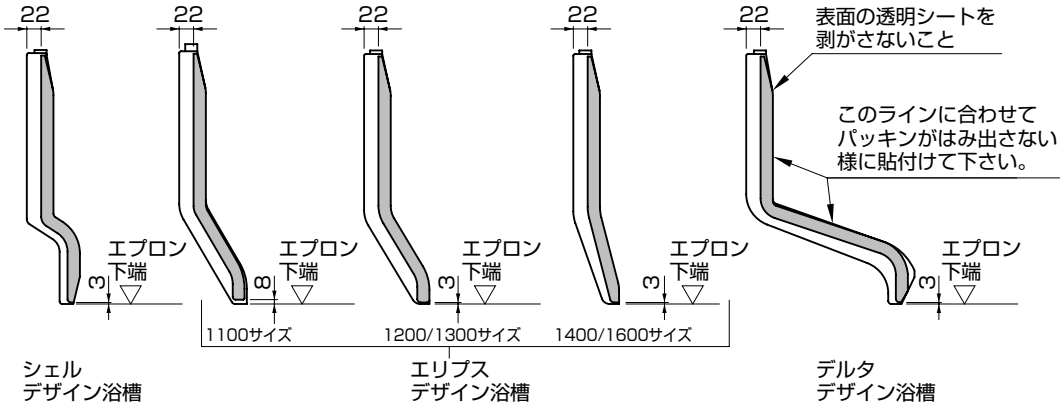
1 エプロンパッキンの貼付



※エプロンパッキン破損防止の為、浴槽にエプロンを取付ける直前に貼付けてください。
（パッキン貼付後はエプロンを立てて保管しないこと）

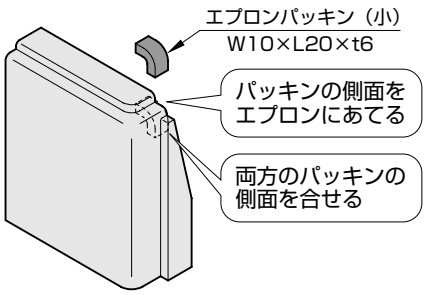
エプロンパッキン貼付け位置図

・図は右側を示す。左側は逆勝手。

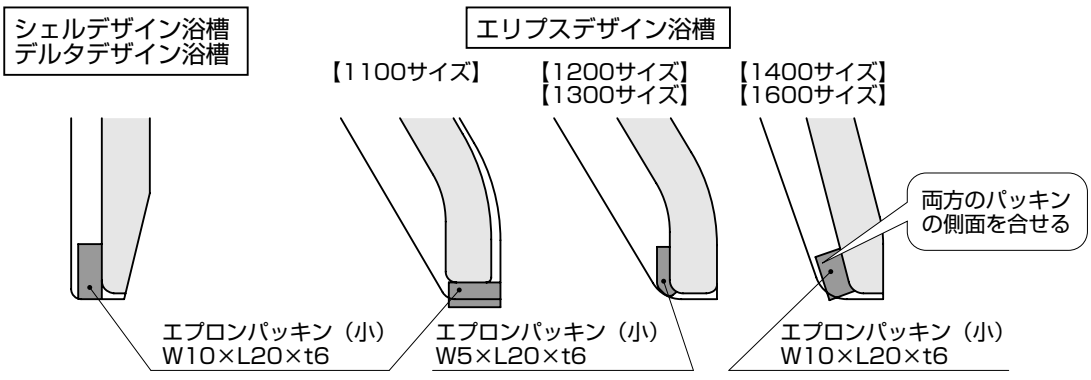


2 エプロンパッキン（小）貼付

上側



下側



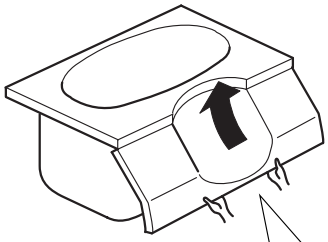
浴槽エプロン取付け・取外し

取付方法

1 エプロン取付

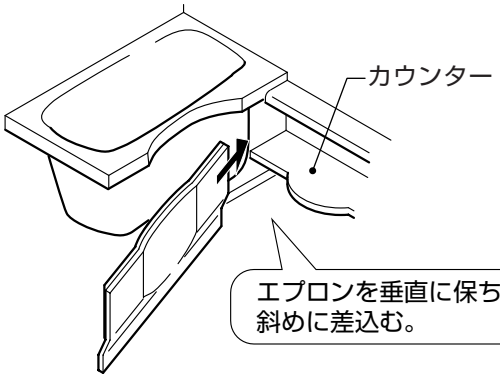
エプロンを浴槽リム下にはめ込み、持ち上げてエプロン上部を浴槽リム下部へ押し付けておきます。

【カウンター付仕様でない場合】



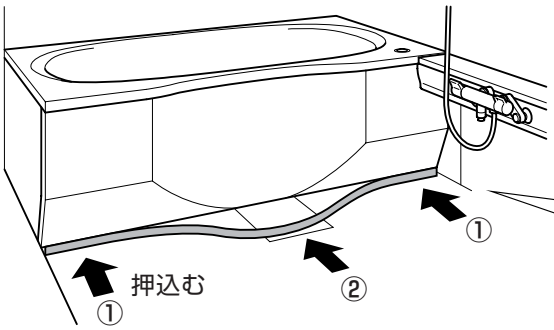
エプロンを浴槽リムと水平に差込む。

【カウンター付仕様の場合】



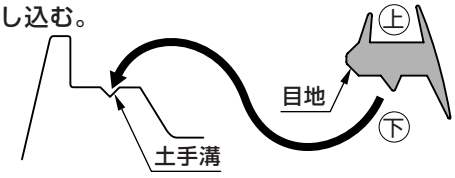
エプロンを垂直に保ちながら斜めに差込む。

2 エプロン目地取付



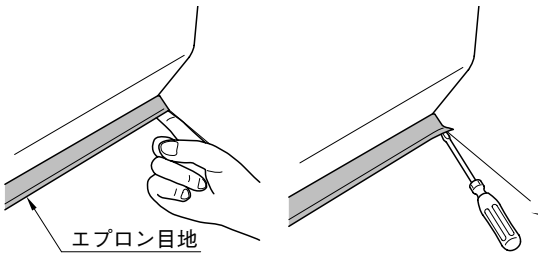
目地と壁にすき間ができないように両端から目地を差し込み、仮固定します。トラップ付近から壁（両端）に向かって目地を差し込む。

床パン土手部の溝に入るまで押し込む。



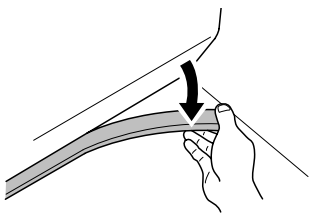
取外し方法

1 エプロン目地取外し



エプロン目地の端に指を入れてヒレをめくりあげ、ヒレを引っ張らないように少しずつ引抜く。無理矢理引っ張ると、延びたり変形するので注意する。

指が入りにくい場合はドライバー等を使用する。



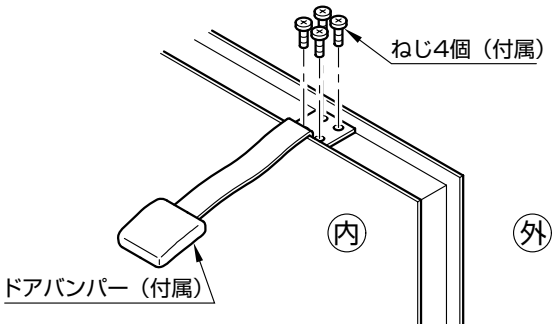
エプロン目地の端をつかんでエプロン目地を端から外していく。

2 エプロン取外し

エプロンを下にずらして、水平（または下から）に引き抜く。
カウンター付の場合は、エプロンを垂直に保ちながら斜めに引き抜く。

開き戸

1 ドアバンパーの取付

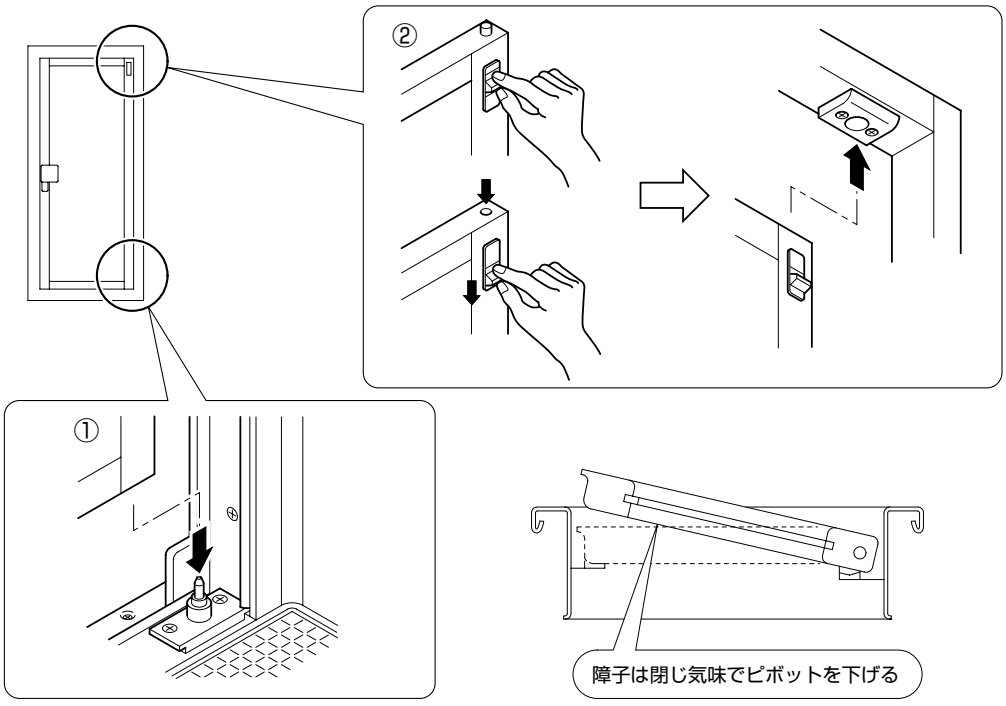


ドア上部にドアバンパーを付属のねじで取付ける。

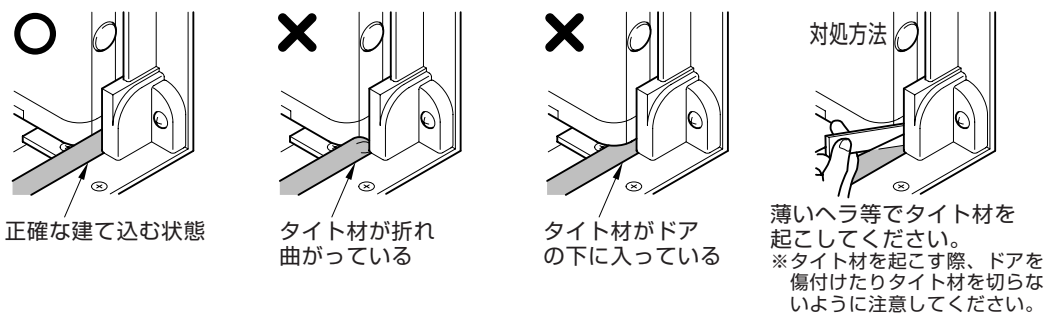
2 ドア本体取付

①ドア下枠の台座穴に、ドア本体下端のピボットを差込む。

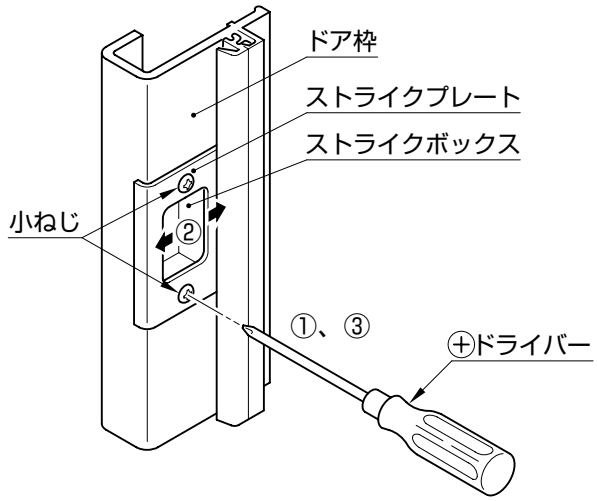
②吊天井部のつまみを下げながら、上枠の台座穴にドア本体上端のピボットを差込む。



⚠注意 ドア立て込みの際、下枠タイト材をドアで踏まないでください。
水密性能が損なわれます。

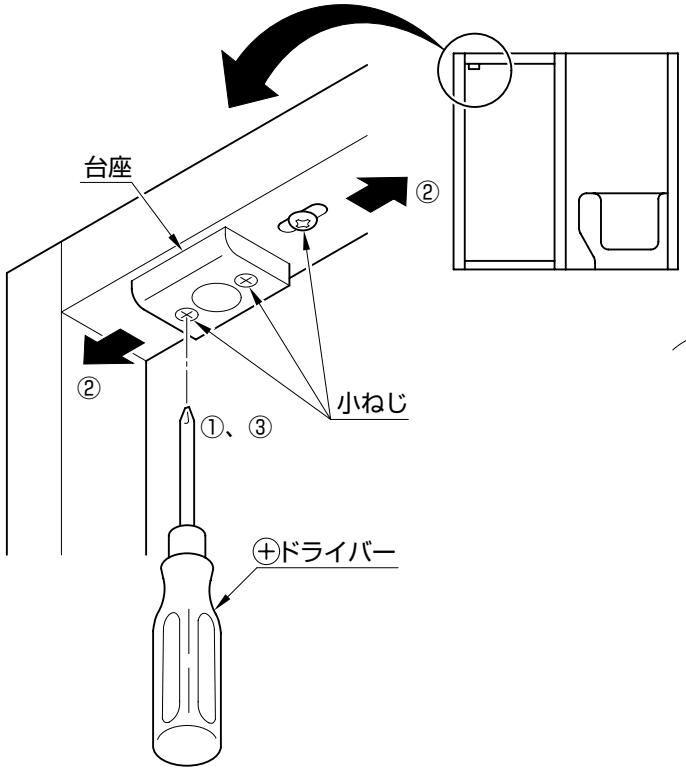


3 ストライクボックスの調整



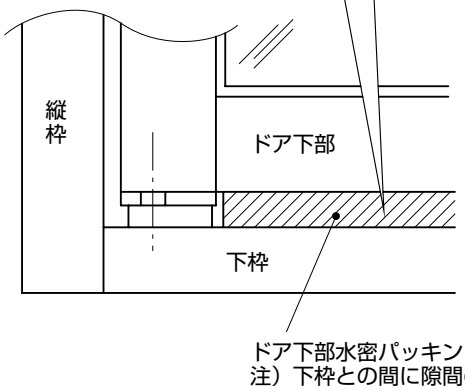
ドアが、がたつく又は閉まりにくい場合は、下記の要領で調整する。
① ストライクボックスが動く程度に小ネジをゆるめる。
② ストライクボックスを前後に少しずつ動かし、閉まりの良い位置に合わせる。
③ 小ねじを⊕ドライバーで締める。

4 ドア本体建ち調整

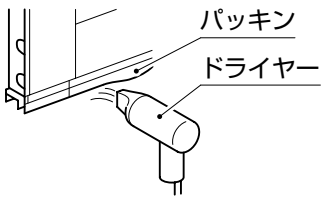


注 意
建具の建ち調整は水密上非常に重要です。必ず確認・必要であれば調整してください。

ドア下部の水密パッキンが下枠に均等に軽くラップする状態に調整すること。



ドア本体の左右倒れ調整が必要な時は、下記の要領で調整する。
① 台座が動く程度に ⊕ ドライバーで小ねじを3カ所ゆるめる。
② 台座を左右に少しずつ動かす。
③ ドア本体をセットし、倒れを調整する。
④小ねじ3カ所を ⊕ドライバーで締める。

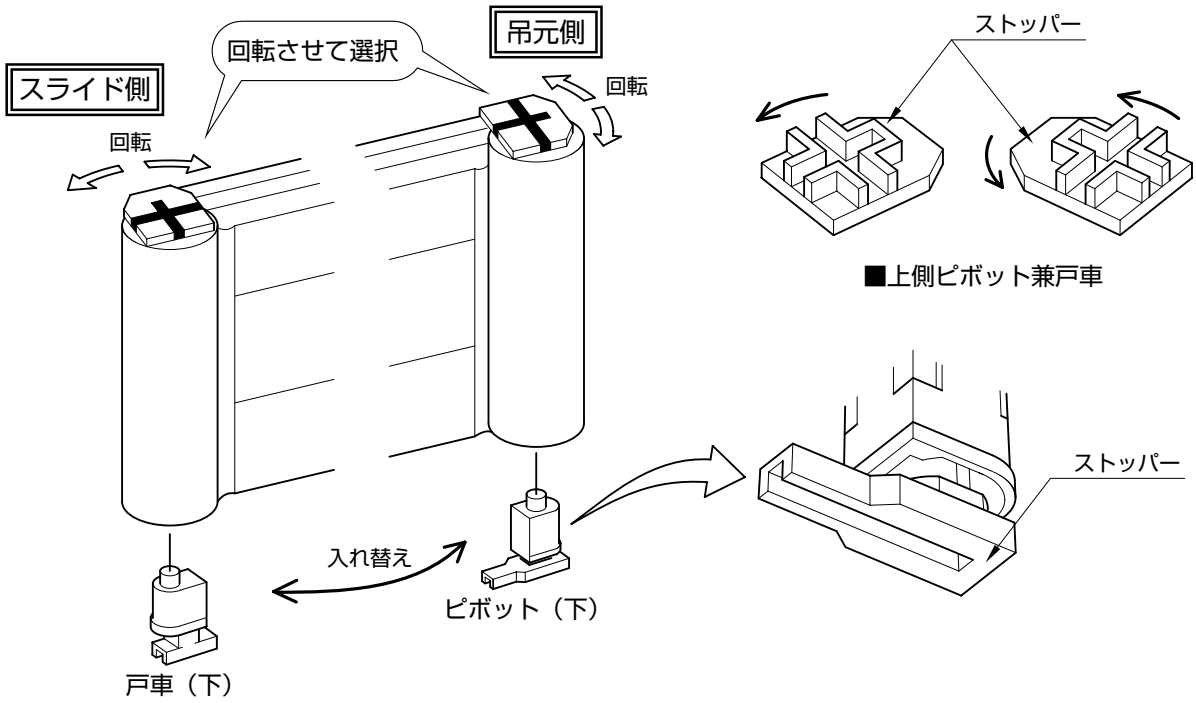


パッキンが波うちしたり、クセがついたりした場合は、ドライヤーの温風を当ててクセを取り除いてください。

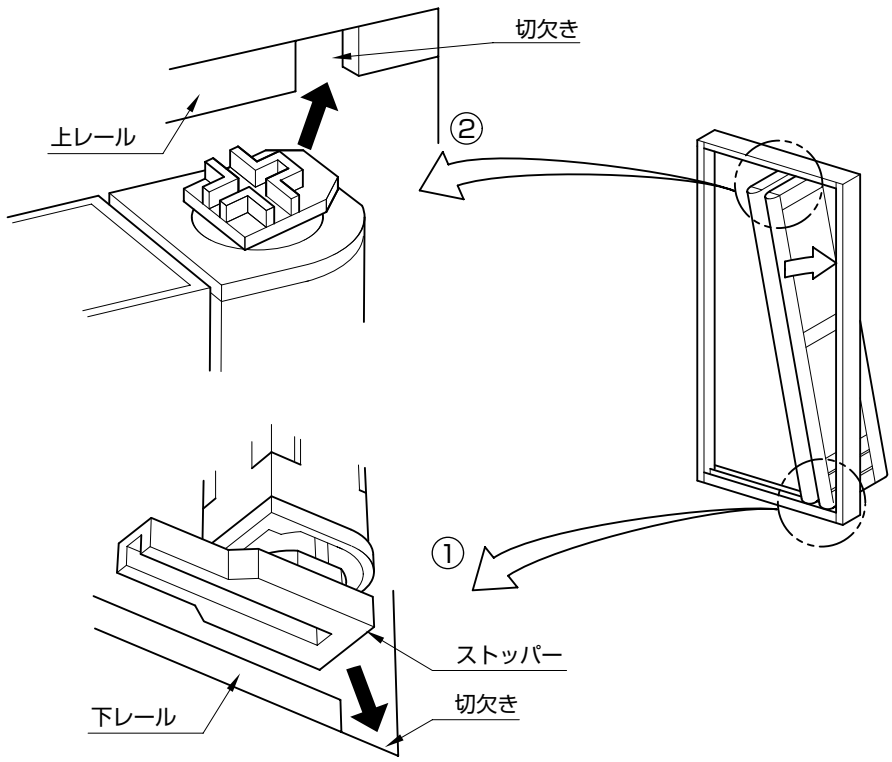
折戸

1 吊元選択

吊元に応じて上側ピボットは回転させて、下側ピボットは差し替えて吊元選択する。



2 吊元固定

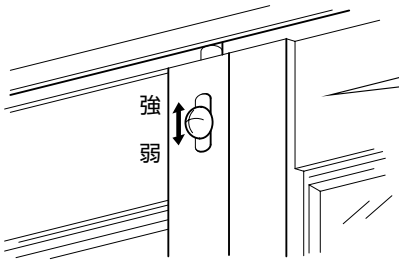


① 下側ピボット吊元側ストッパーを下枠切欠に引っかけ、下戸車をレールにはめる。
② そのまま立ておこすようにして上ピボットのストッパーを上枠切欠に引っかけ上戸車をレールにはめる。

3 上ラッチ調整

注 意

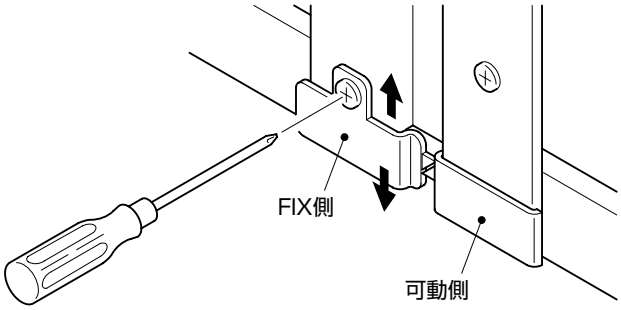
建具の建ち調整は水密上非常に重要です。必ず確認・必要であれば調整してください。



ラッチ調整が必要な場合は、ねじをゆるめて上下に調整する。

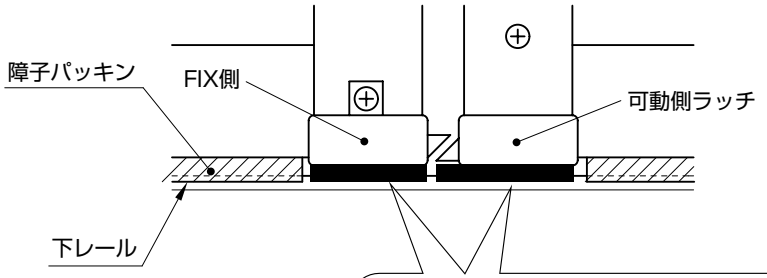
必ず開閉確認をすること。

4 下可動ラッチ調整



折戸を閉じた状態で、折戸中央召し合わせ部の下側のパッキンと下枠レールとの間に大きな隙間がないように、Fix側のねじをゆるめて上下に調整する。

必ず開閉確認をすること。



召し合わせ部の下に大きな隙間のないこと。

2枚引戸

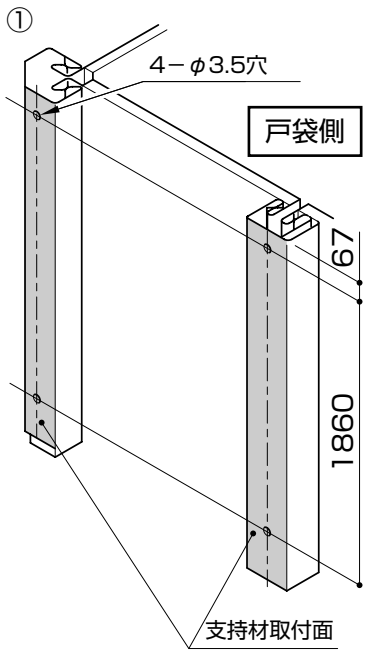
1 2枚引戸支持材取付

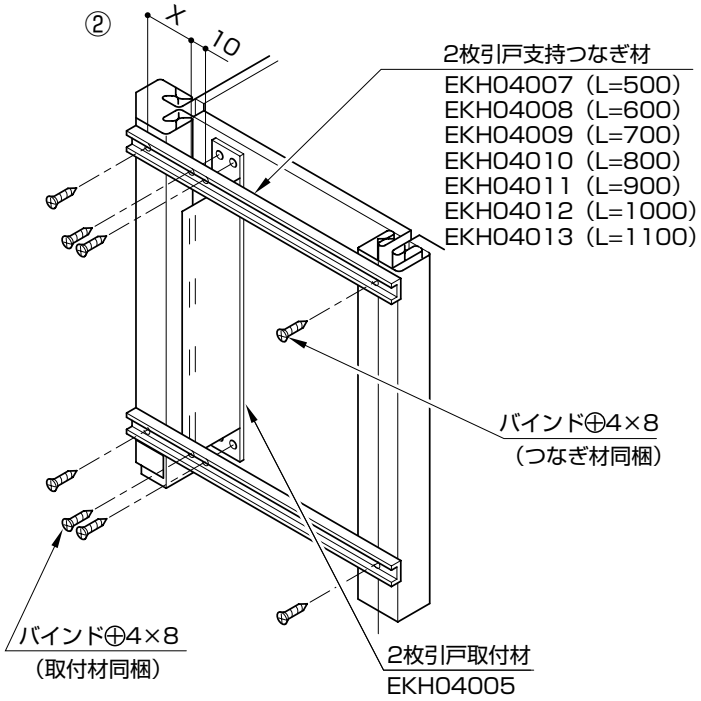
① 戸袋側の平、コーナージョイナーにφ3.5の下穴を開ける。
（平ジョイナー側は、ドア枠ジョイナーにも貫通穴をあける。）
② 下穴にそって、1.2枚引戸支持つなぎ材　2.2枚引戸取付材の順に取付ける。

■X寸法表

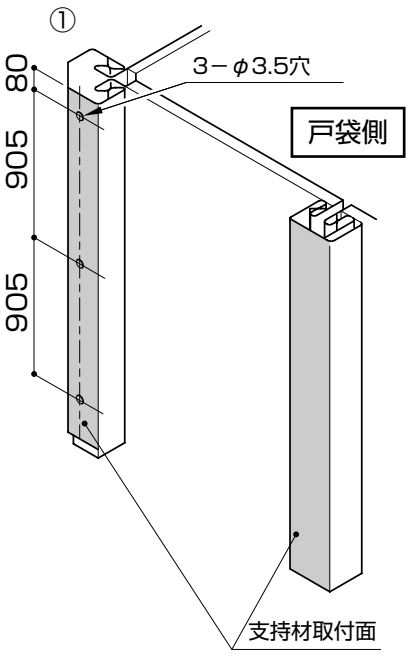
辺の長さ	ドア枠の幅	X
1300	800	88
1400	800	188
1400	900	16
1600	800	388
1600	900	216
1700	800	488
1800	800	588
1800	900	416
2000	900	616

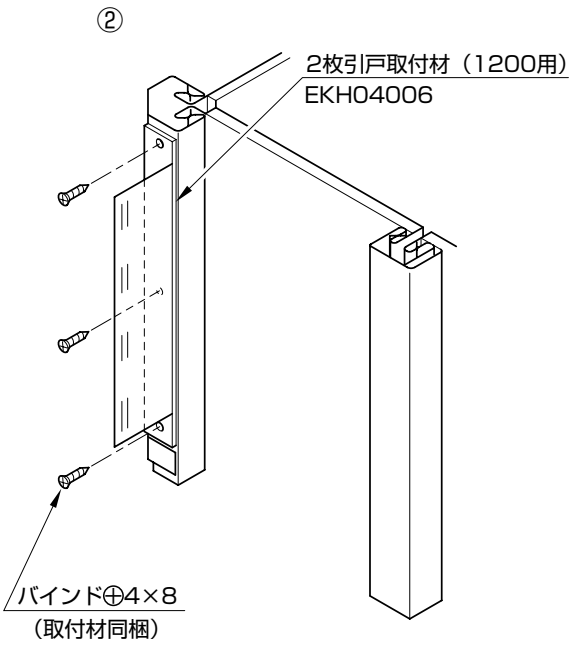
1200短辺以外





1200短辺の時





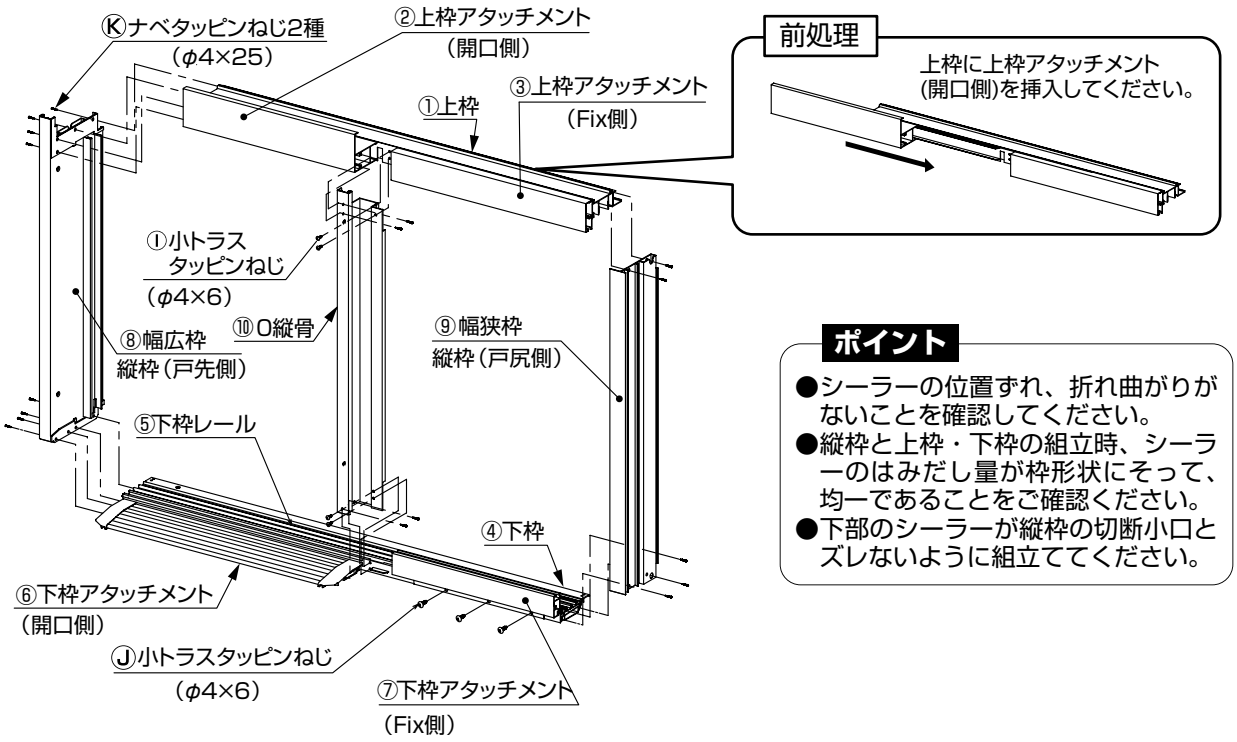
2 枠の組立

■枠の組立には2種類のねじを使用してください。
（短いねじについては縦骨・下枠アタッチメント組立用です。）

※ **縦骨** → **両縦枠** の順に組立ててください。

お願い

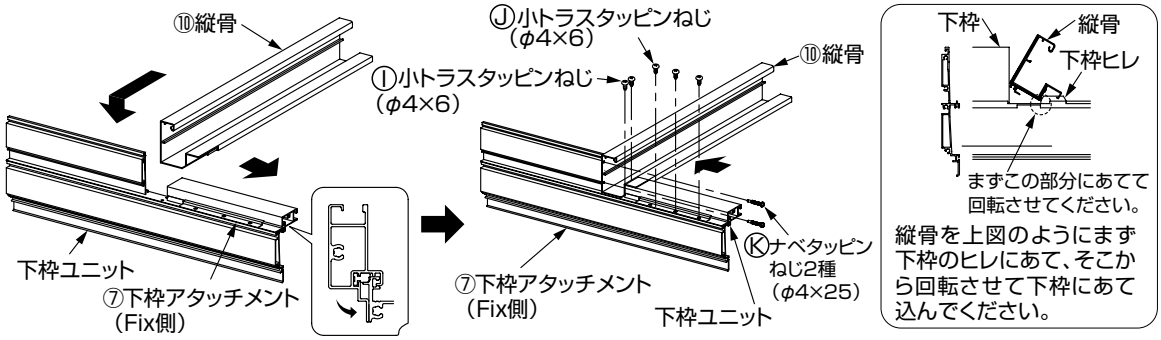
- シーラー等の水密部品は説明書に従って組立ててください。
  サッシからの漏水は家屋を傷め、施主様から賠償を求められることがあります。
- 組立は、所定のねじを使用して最後まで締め付けてください。
  締め付け不良は漏水や事故の原因になります。



ポイント

- シーラーの位置ずれ、折れ曲がりがないことを確認してください。
- 縦枠と上枠・下枠の組立時、シーラーのはみだし量が枠形状にそって、均一であることをご確認ください。
- 下部のシーラーが縦枠の切断小口とズレないように組立ててください。

①下枠に縦骨をあて込み、ねじⒾ→Ⓙ→Ⓚ順に組立ててください。



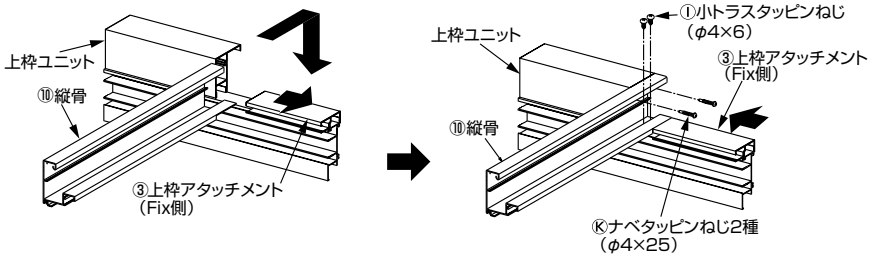
ポイント

縦骨が入れづらい場合は、**アタッチメントをずらしてからセット**してください。

ポイント

- 縦骨と下枠をねじⒾⓀにて組立後スライドさせたアタッチメントを元にもどし、ねじⒿにて下枠に取付けてください。
- 下枠アタッチメントは縦骨に押し当てて組立ててください。押し当てが弱いと漏水の原因となります。

②上枠に縦骨をあて込み、ねじⒾ→Ⓚ順に組立ててください。



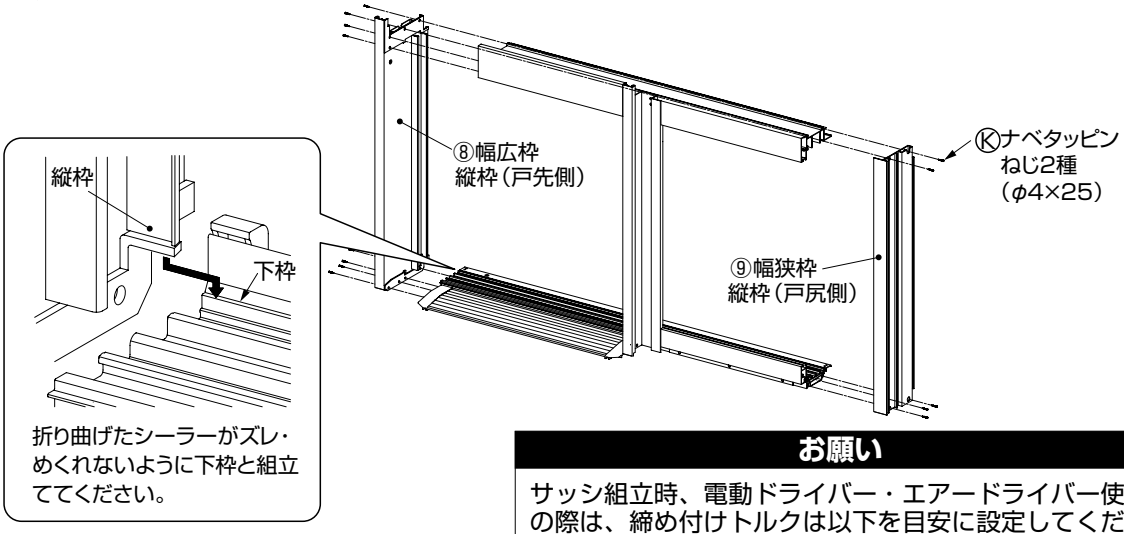
ポイント

縦骨が入れづらい場合は、**アタッチメントをずらしてからセット**してください。

ポイント

ねじ止めの後、スライドさせた**アタッチメントは元にもどして**ください。

③①～②の組立て終了後、縦枠（戸先側）、縦枠（戸尻側）を
ねじⓀにて適正なトルクでねじ止めしてください。

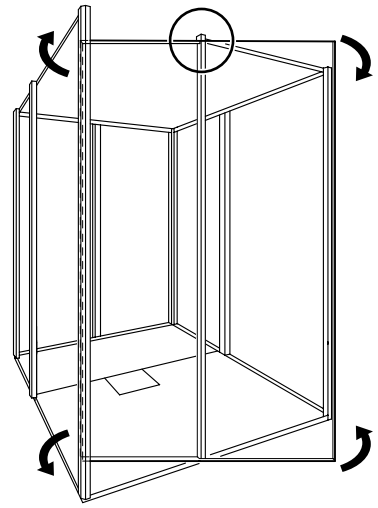


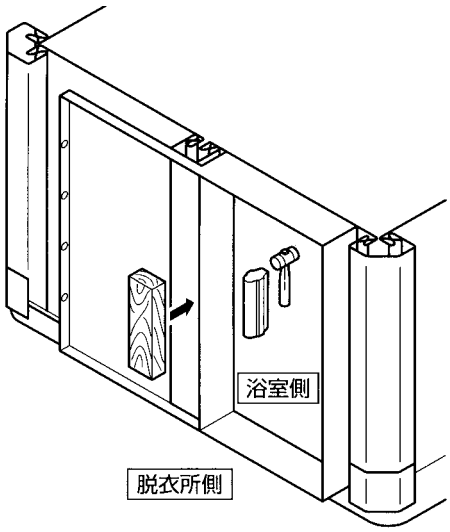
お願い

サッシ組立時、電動ドライバー・エアードライバー使用の際は、締め付けトルクは以下を目安に設定してください。
枠：2.0～2.5N・m（20～25kgf・cm）程度

3 枠建込み

枠をななめに傾け、中骨を平ジョイナーにかん合させて回転させながらコーナージョイナー側にかん合させる。
天井つなぎ材が切れていることを確認。





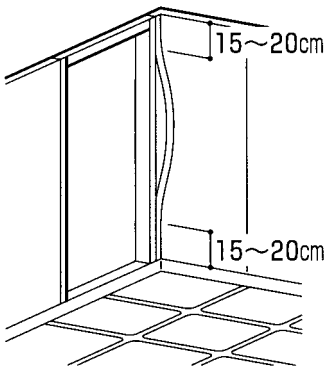
組立のポイント

ドア枠を取付ける場合には、脱衣所側より当て木をし、壁パネルを建込む。

（片引戸の場合、天井つなぎ材が切れているため、壁を立て込む時に壁が後ろに逃げるので確実に実施をしてください。）

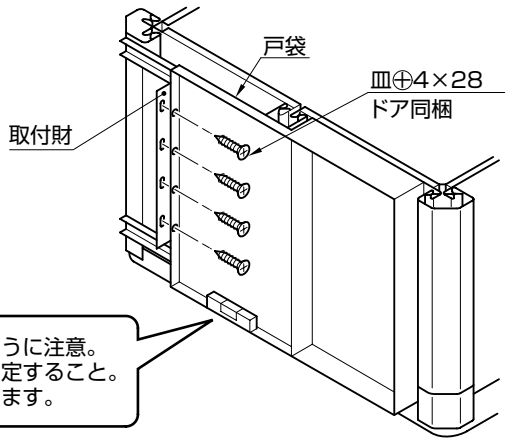
4 コーナー目地仮打ち

コーナー目地を下端からあて木をして仮打ちをする。
仮打ちは上下端（15～20cm）



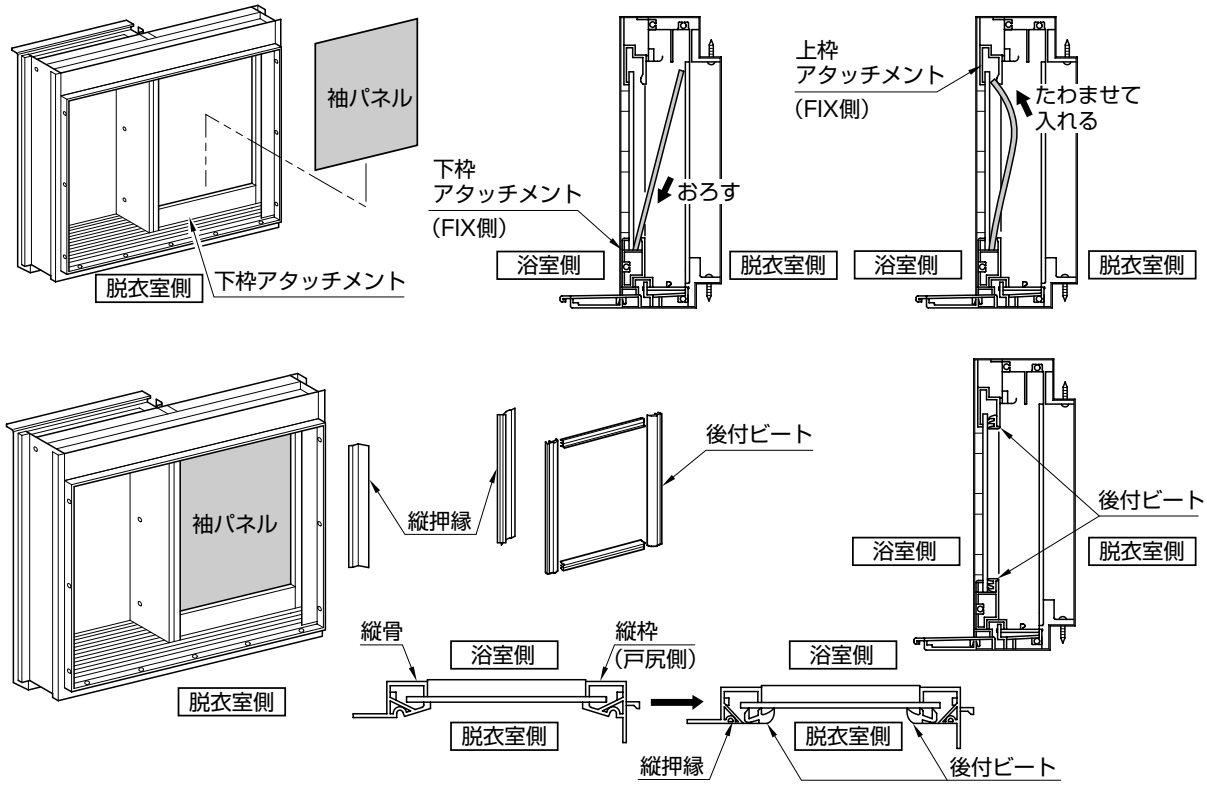
5 ドア枠の倒れ調整

戸袋のレベルを出し取付材へ固定する。



6 パネル収納取付

① 袖パネルを脱衣室側よりいれて、下枠アタッチメントへおろしてください。
②浴室側へ起こしてください。
③ 上押縁・縦押縁の順に脱衣室側より入れてはめ込み、後付ビートを縦→横の順で手で押さえて整えます。



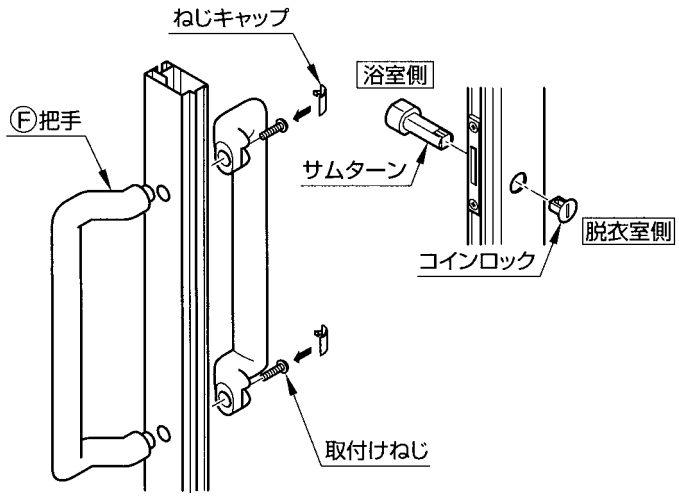
7 把手の取付

図のように把手をトラス小ねじ（φ5×20）で取付けます。

【錠部ツマミの取付】

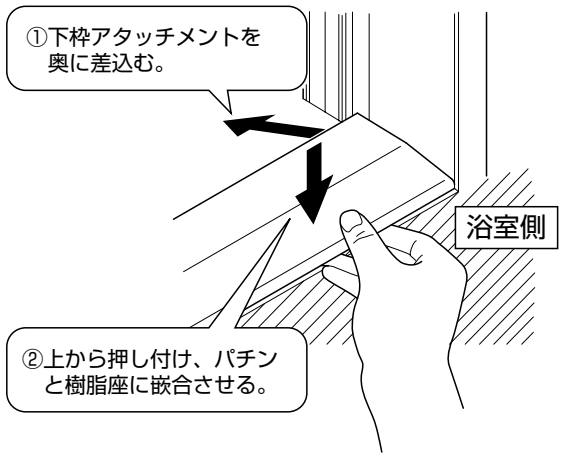
サムターンおよびコインロックを図の向きで、はめ込んでください。

●浴室側…サムターン
●脱衣所側…コインロック
となるように必ず取付けてください。
※誤って内外逆に取付けてしまった場合は、サムターンのツマミ部で覆ってからパンチで引抜いて再度、図の向きに取付けてください。



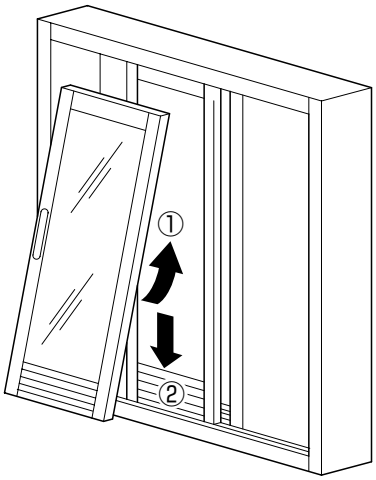
8 下枠アタッチメント取付

下枠アタッチメントはカチッと納まるまで確実に取付けてください。



9 障子の吊込み

下図のように障子を脱衣室側から吊込みます。



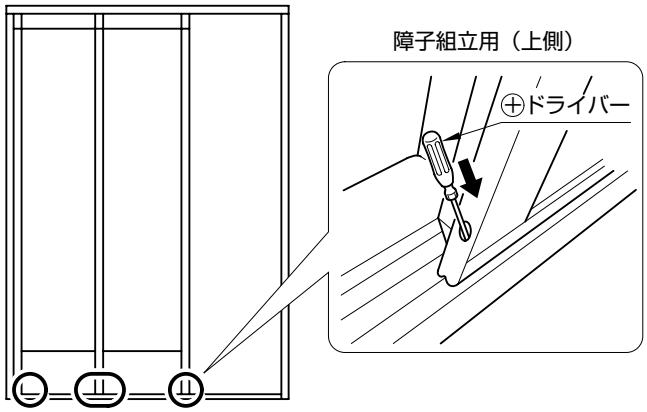
10 建付調整

戸車調整

建付けが悪い場合、戸車を上下することで調整してください。

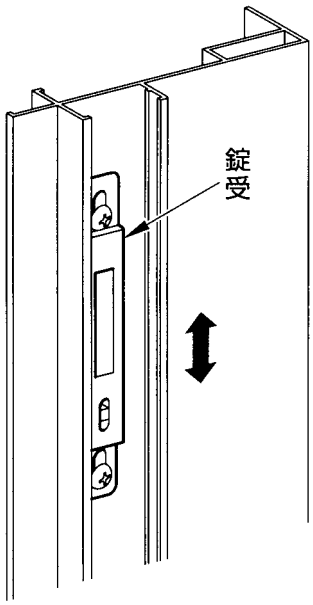
※⊕ドライバー(手回し)で戸車調整ねじを時計回りに回すと障子が上がります。

●電動ドライバーを使用するとねじ頭がつぶれ、戸車調整ができなくなりますので使用しないでください。



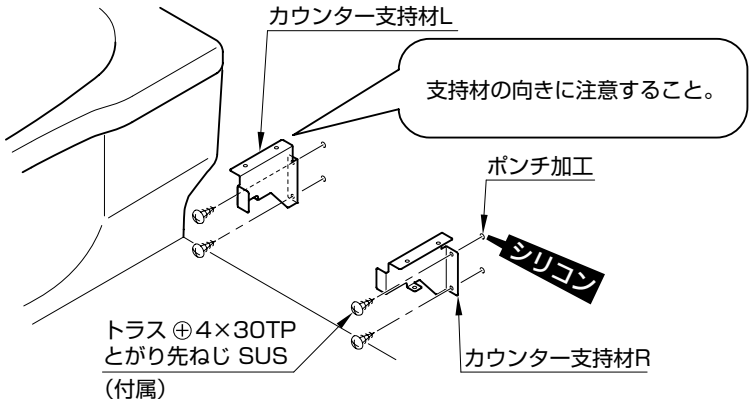
11 錠受調整

錠のかかりが悪い場合、錠受取付ねじを緩めて上下方向に調整し、再度ねじを締め直してください。

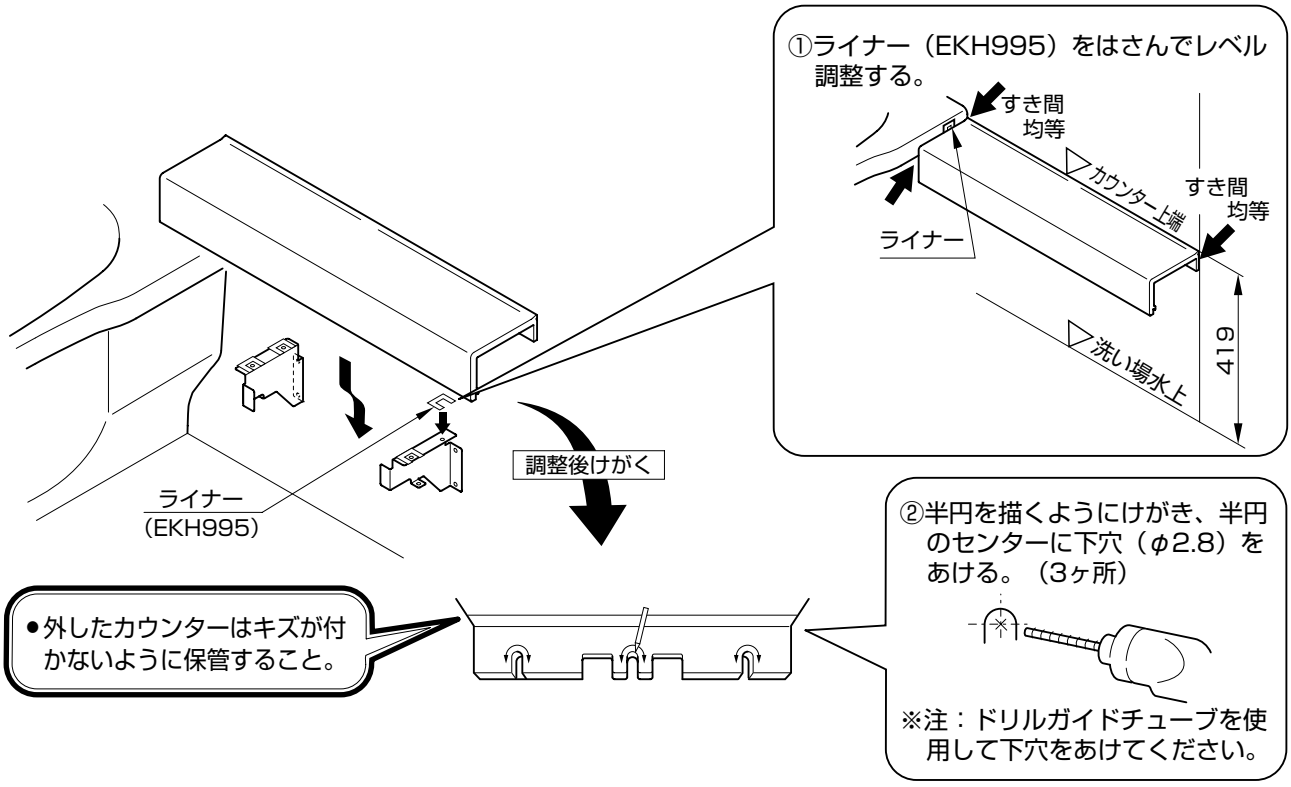


カウンター（Lw）取付

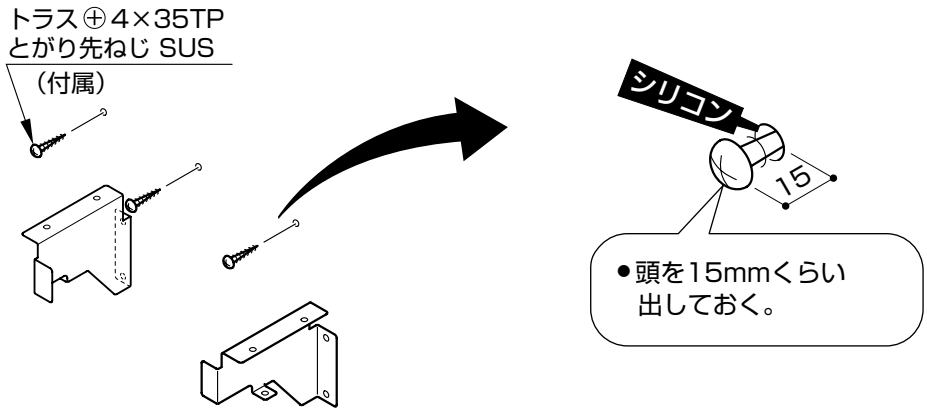
1 支持材取付



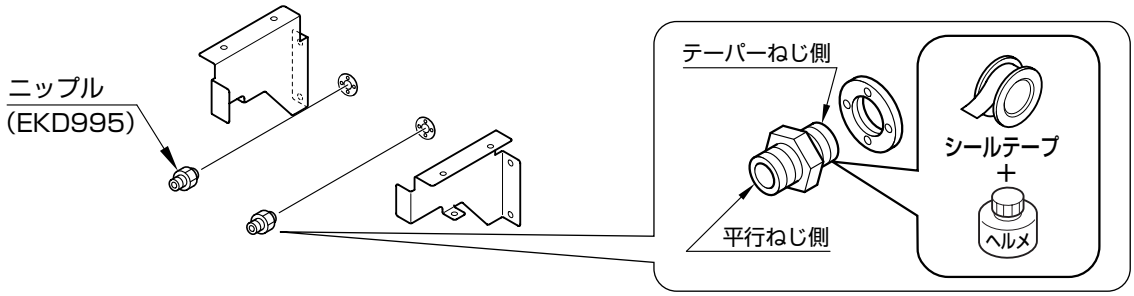
2 カウンター仮取付け･調整･取付用けがき･穴あけ



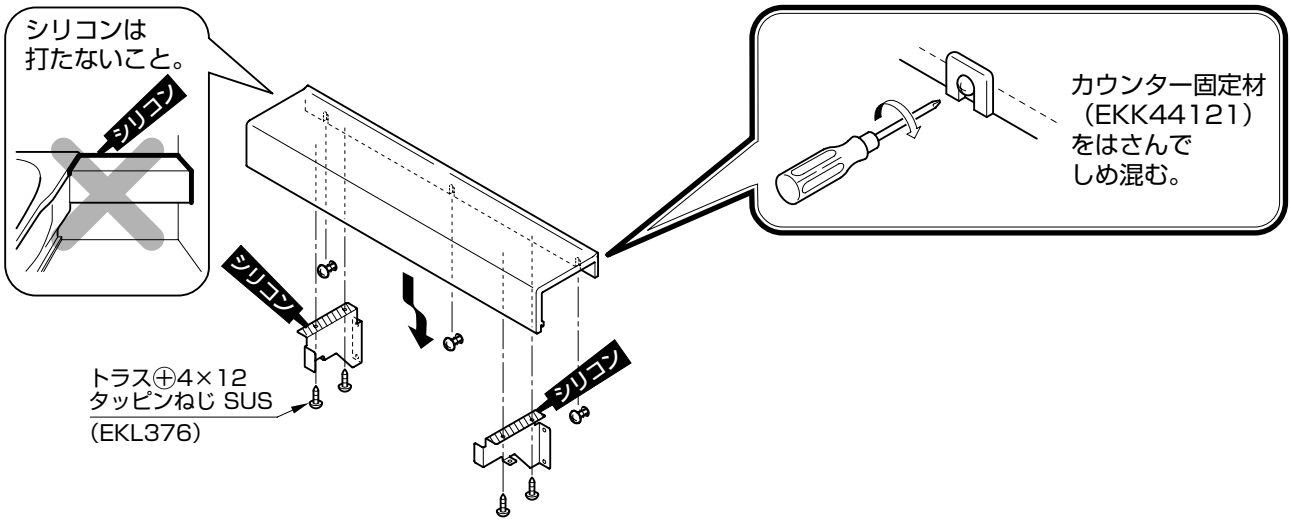
3 カウンター取付け用金具仮止め



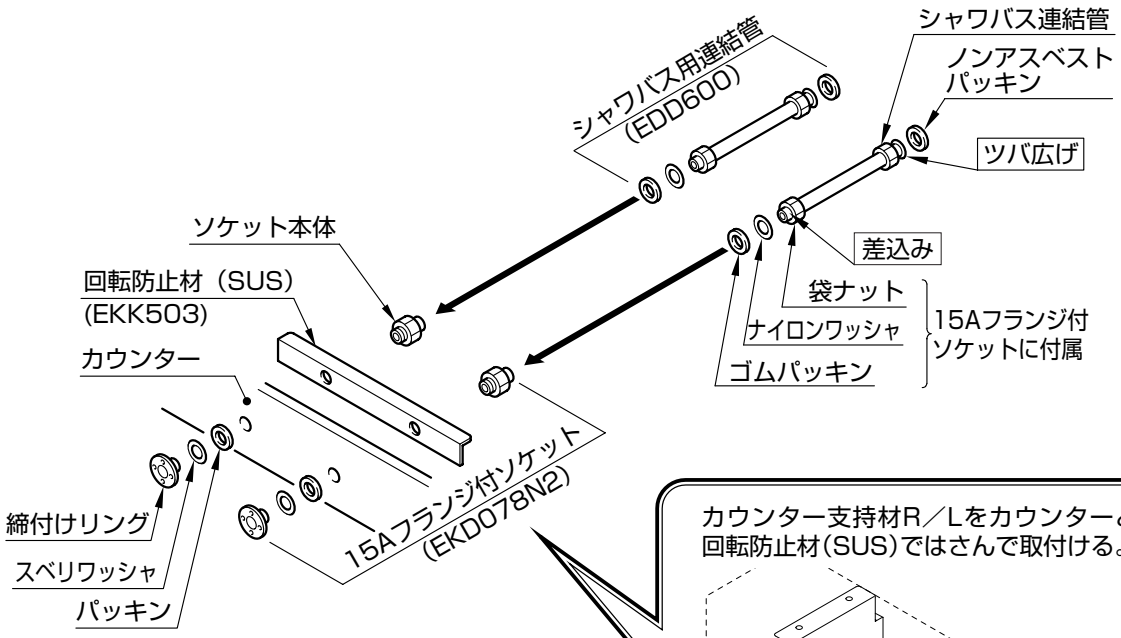
4 カウンター内部配管接続①

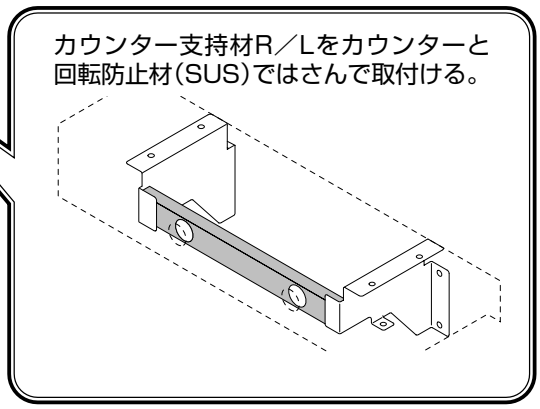


5 カウンター本固定

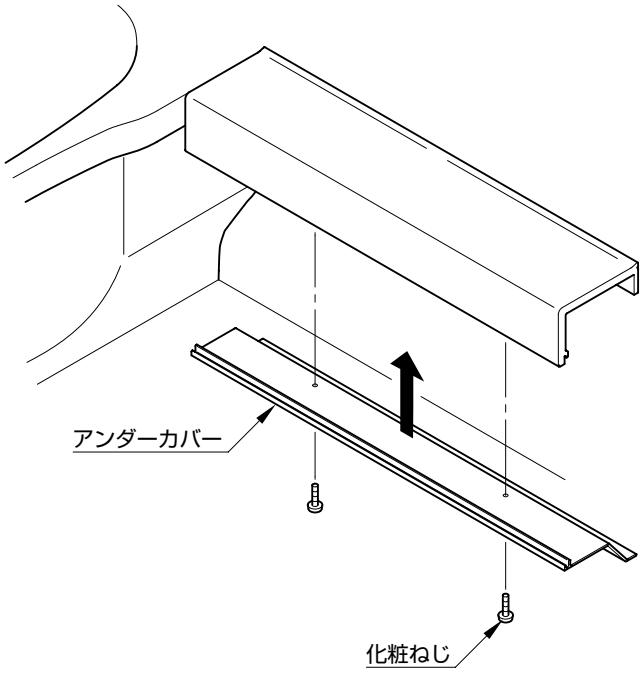


6 カウンター内部配管接続②





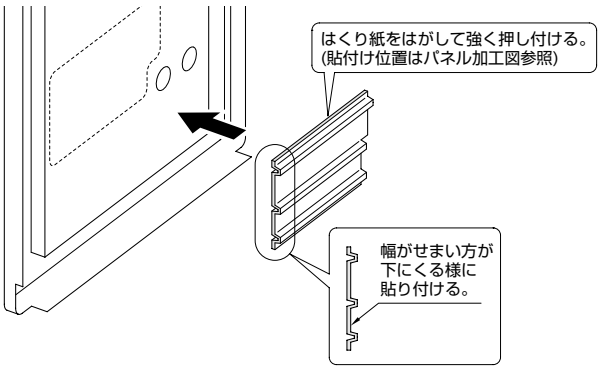
7 アンダーカバー取付



アンダーカバーの穴を通してカウンター支持材に化粧ねじを固定する。

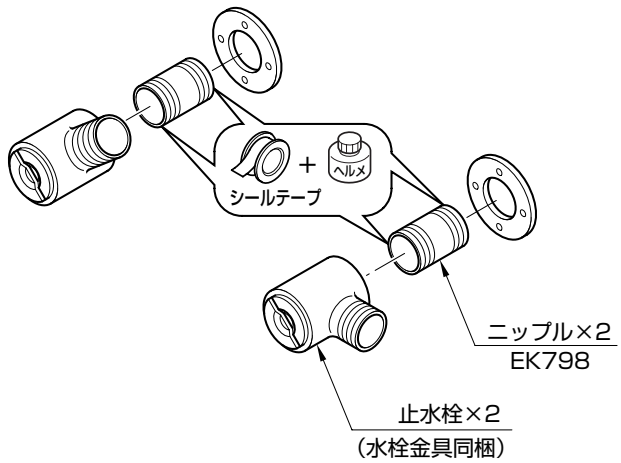
ダブルカウンター（TRu）
カウンター（T）] タッチスイッチ水栓付カウンター取付

1 壁裏補強材貼付

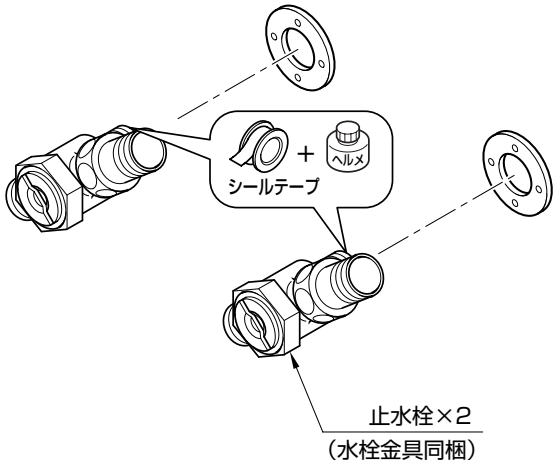


2 止水栓取付

【一般地タイプの場合】



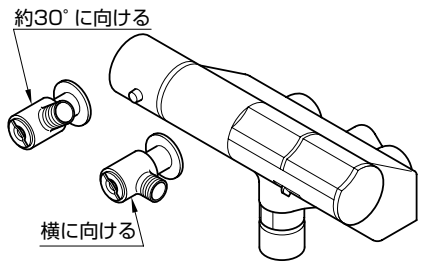
【寒冷地タイプの場合】



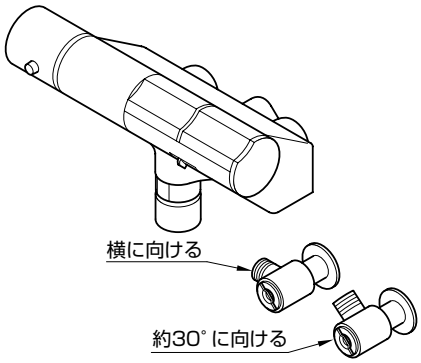
【一般地タイプの場合】

●止水栓の方向を下図の様に取付ける。

〈Rタイプ〉

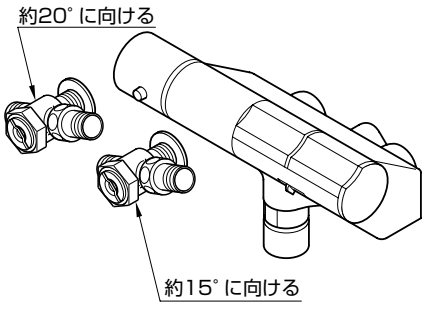


〈Lタイプ〉

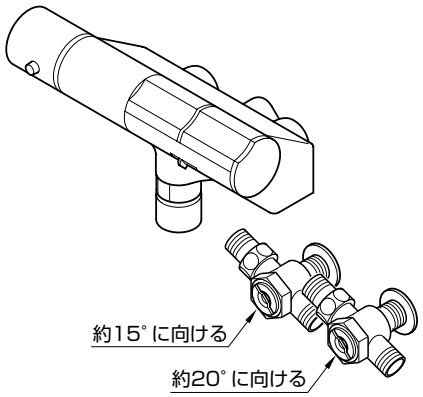


【寒冷地タイプの場合】

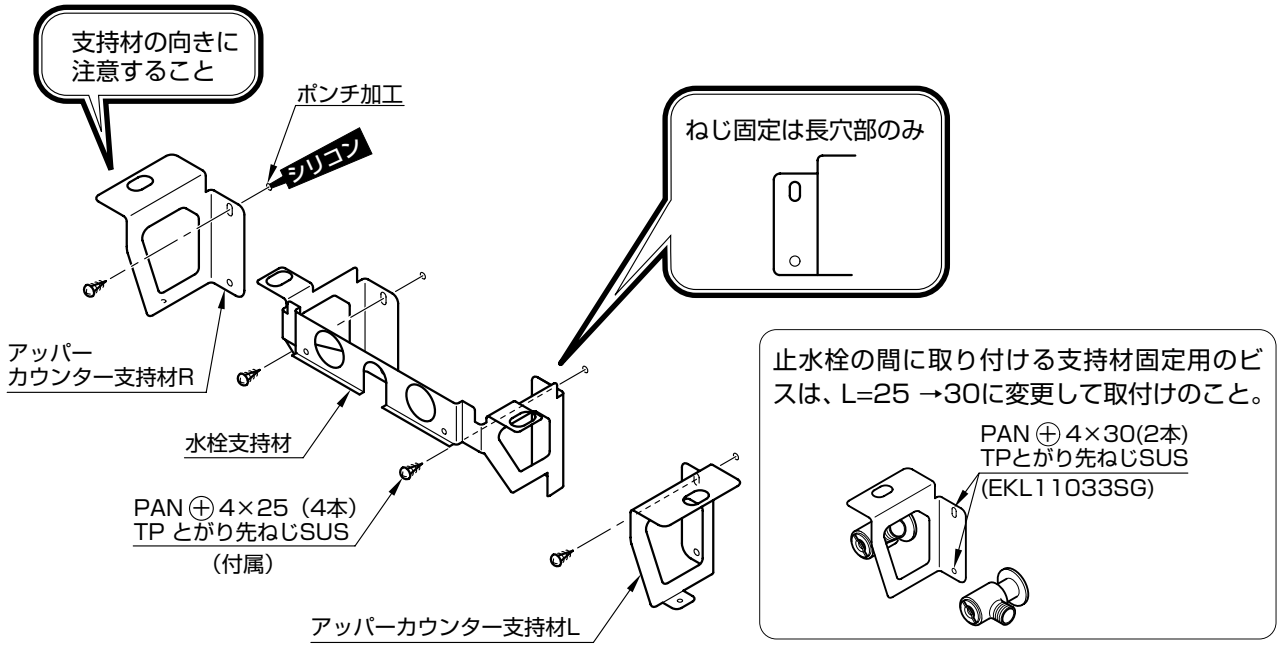
〈Rタイプ〉

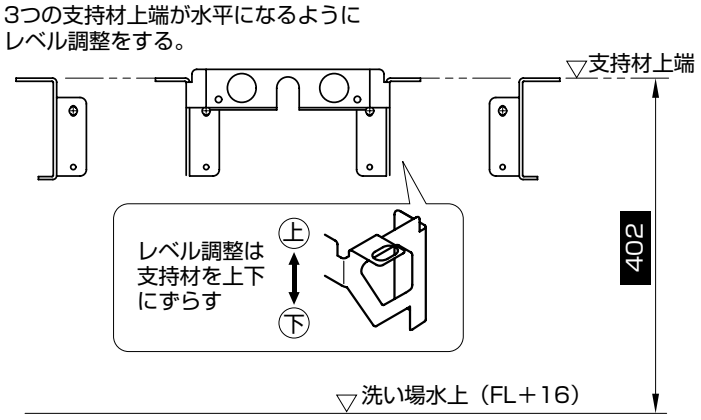


〈Lタイプ〉

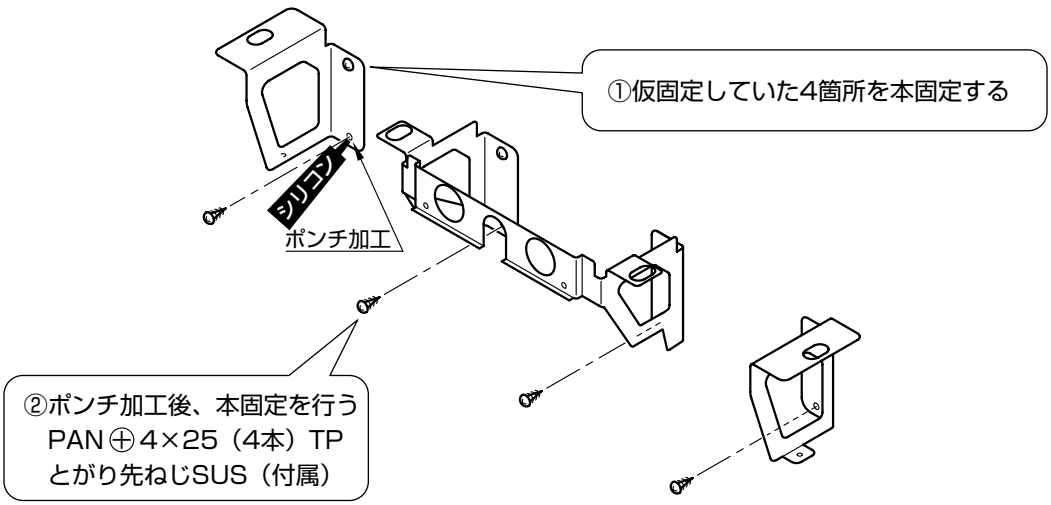


3 支持材仮取付、レベル調整

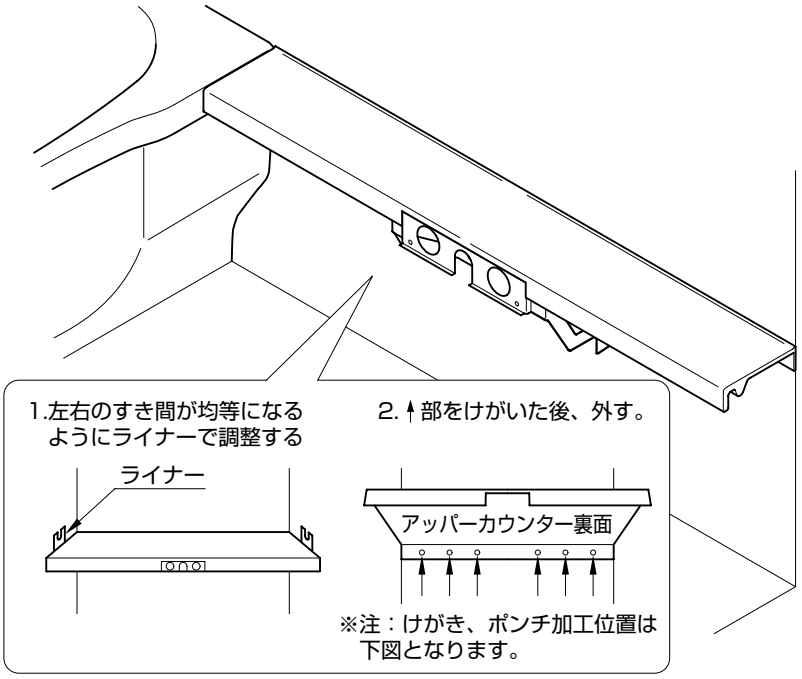




4 支持材本固定

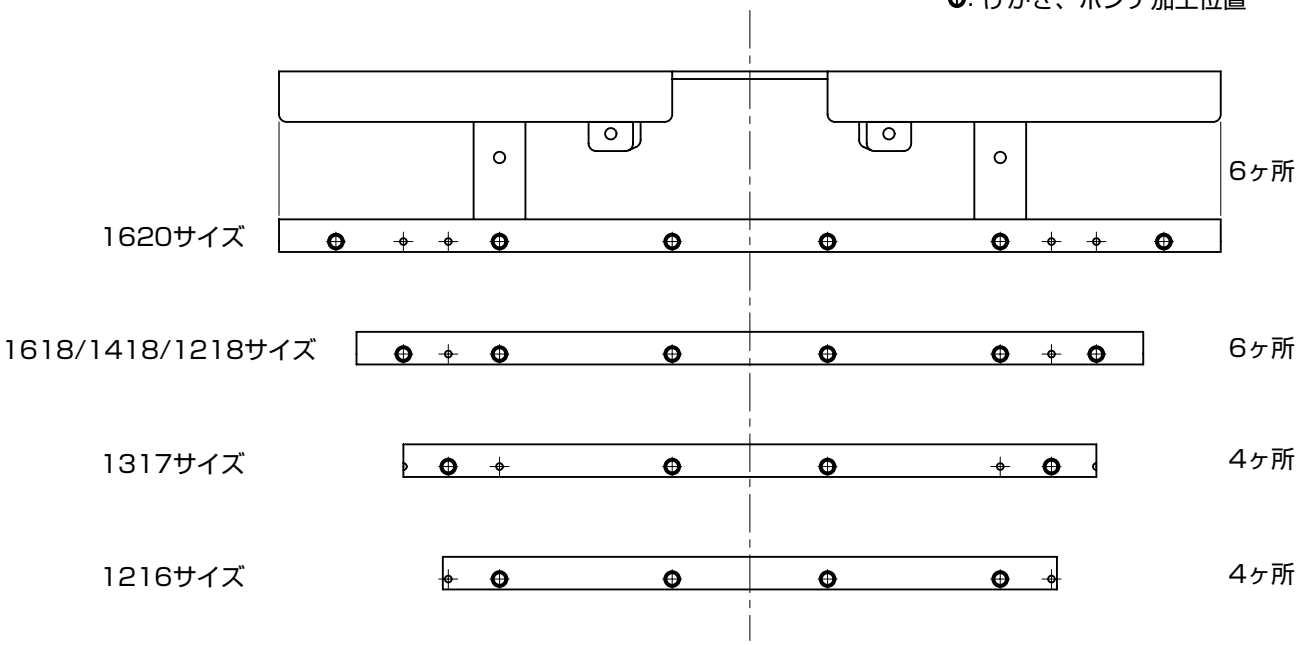


5 壁けがき・ポンチ加工



カウンター（T）／ダブルカウンター（TRu）けがき、ポンチ加工位置

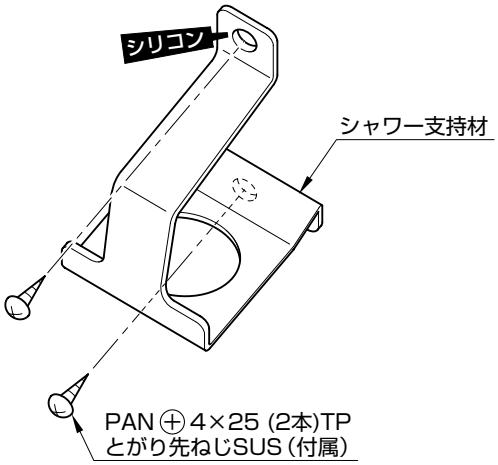
⊕: けがき、ポンチ加工位置



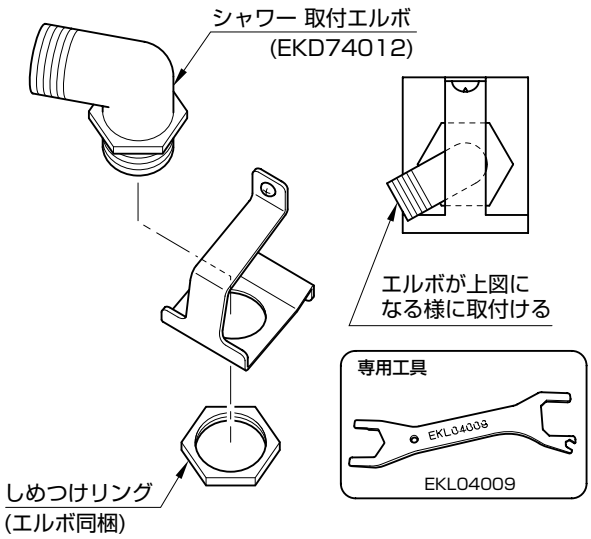
1416サイズは、穴位置とけがき、ポンチ加工位置は同じです。

6 シャワー支持材取付

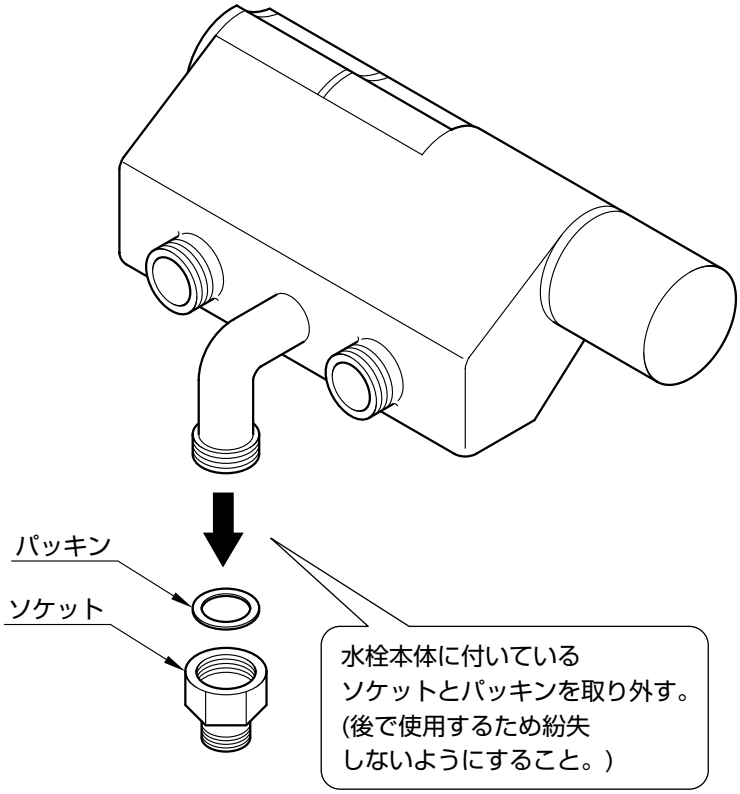
ポンチ加工部にシリコン塗布後取付のこと。



7 シャワーエルボ取付



8 ソケット・パッキン取外し

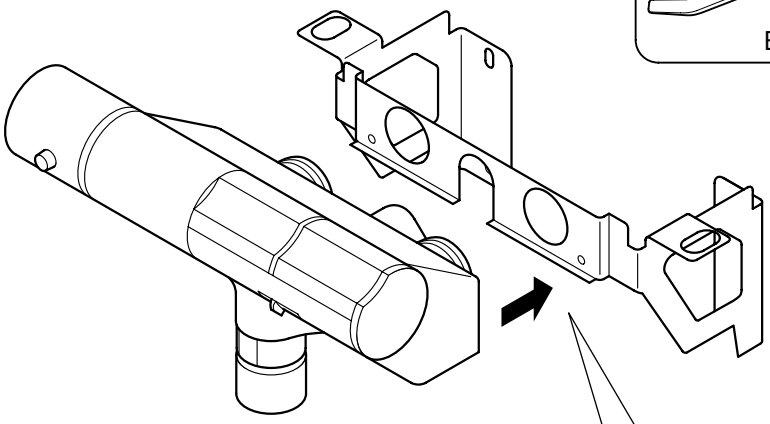


9 水栓固定

専用工具を用いて、支持材を水栓とエルボで挟み込んで固定する。

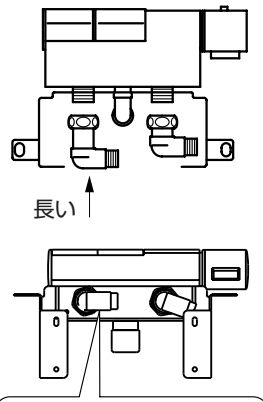
専用工具

EKL04009

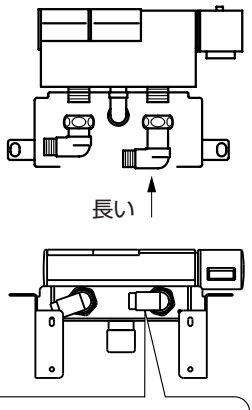


ポイント

【Rタイプ】



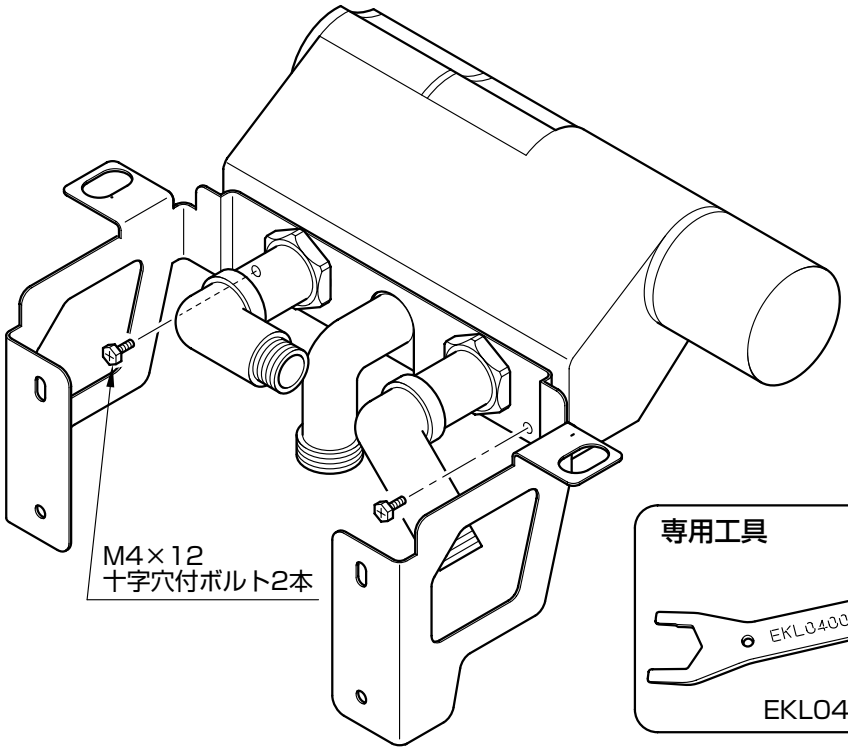
【Lタイプ】

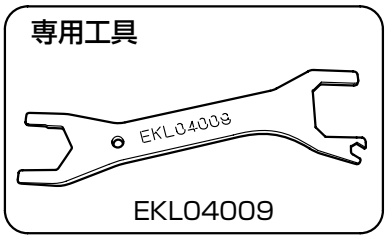


エルボの長さを注意して上図を参照して取付ける。

10 水栓本固定

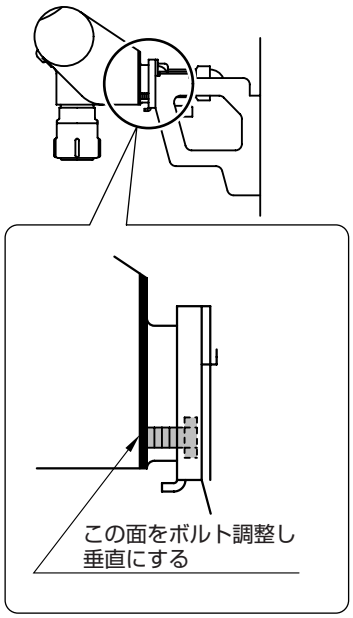
ボルトを締付け、水栓を本固定する。
（水栓のガタつきがなくなった事を確認する）



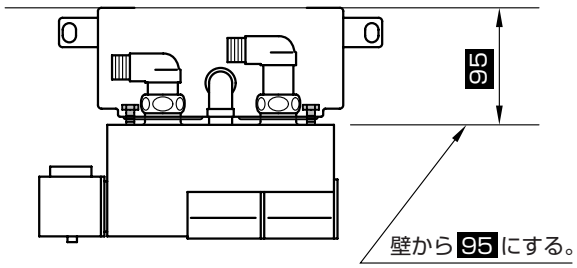


ポイント

①



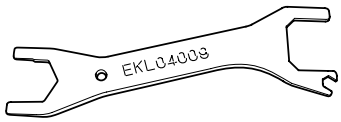
②



11 内部配管取付（給水・給湯管）

※フレキシブル管は、内部配管曲げ用型紙に合わせて事前に曲げておくこと。

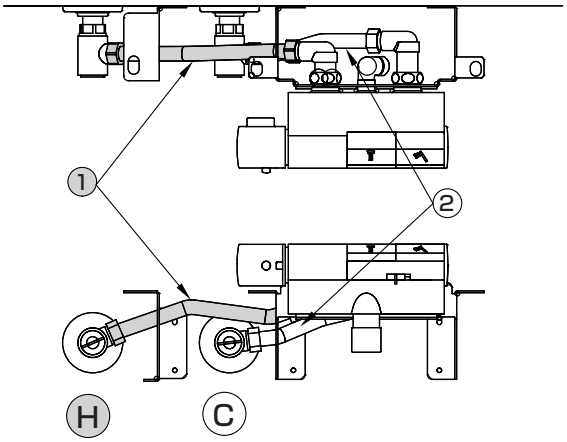
専用工具



EKL04009

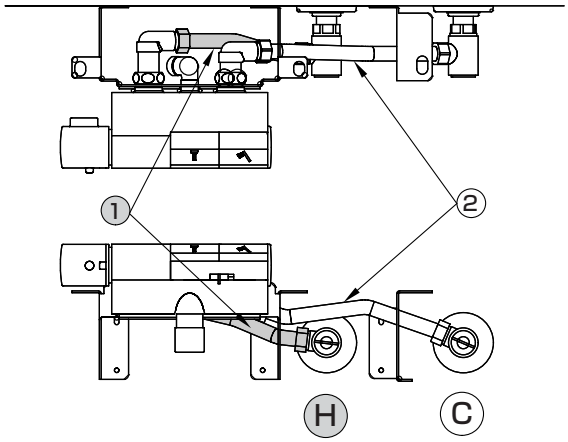
【一般地タイプの場合】

【Rタイプ】



No	名称	仕様	L寸法	品番
①	給湯管	フレキ管15A	200	EKD741N1
②	給水管	フレキ管15A	150	EKD577N1

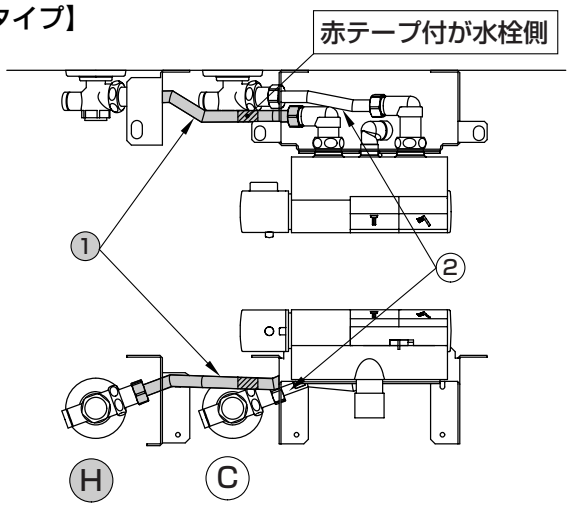
【Lタイプ】



No	名称	仕様	L寸法	品番
①	給湯管	フレキ管15A	150	EKD577N1
②	給水管	フレキ管15A	200	EKD741N1

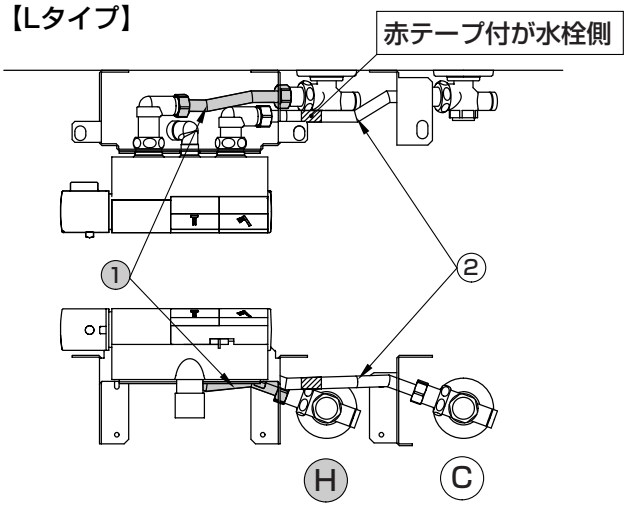
【寒冷地タイプの場合】

【Rタイプ】



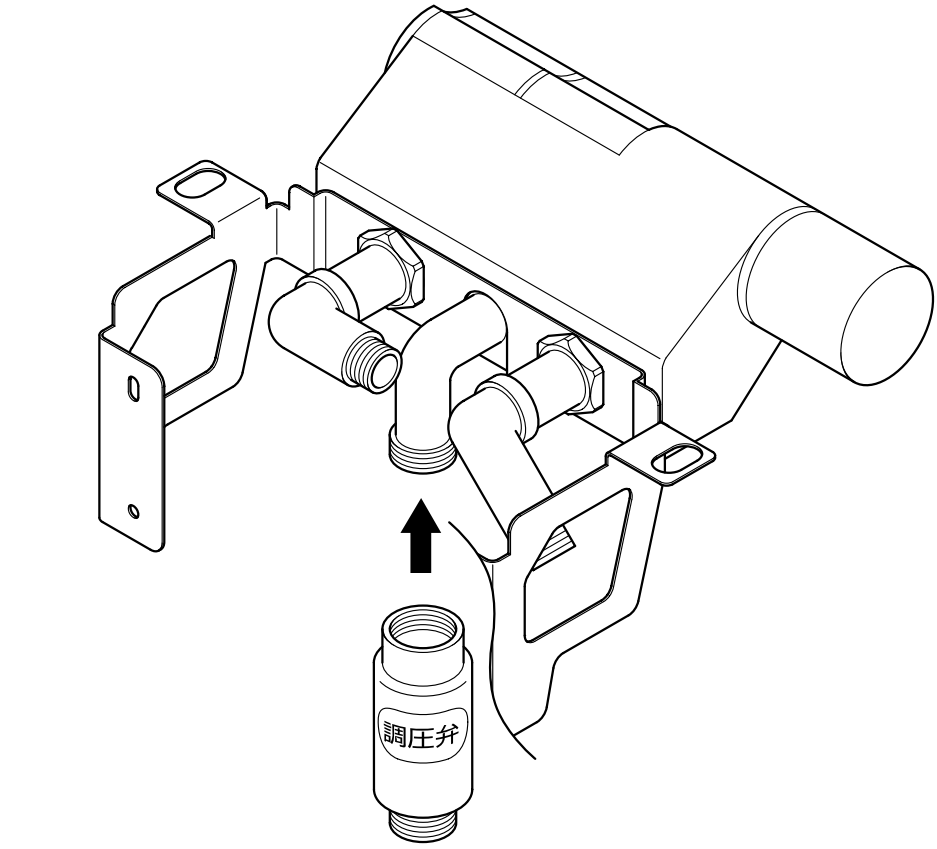
No	名称	仕様	L寸法	品番
①	給湯管	銅管10A	157	EKD34006R
②	給水管	フレキ管15A	120	EKD54079

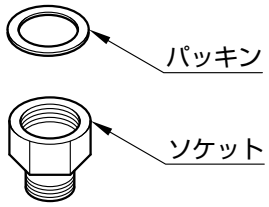
【Lタイプ】



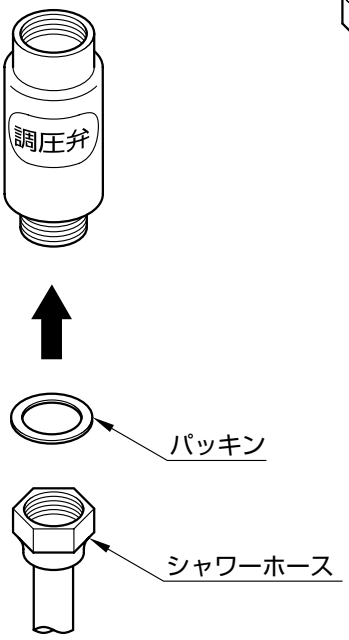
No	名称	仕様	L寸法	品番
①	給湯管	フレキ管15A	120	EKD54079
②	給水管	銅管10A	157	EKD34006L

12 シャワー用調圧弁取付





シャワーホース

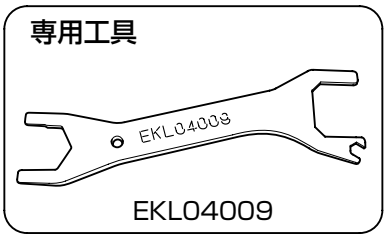


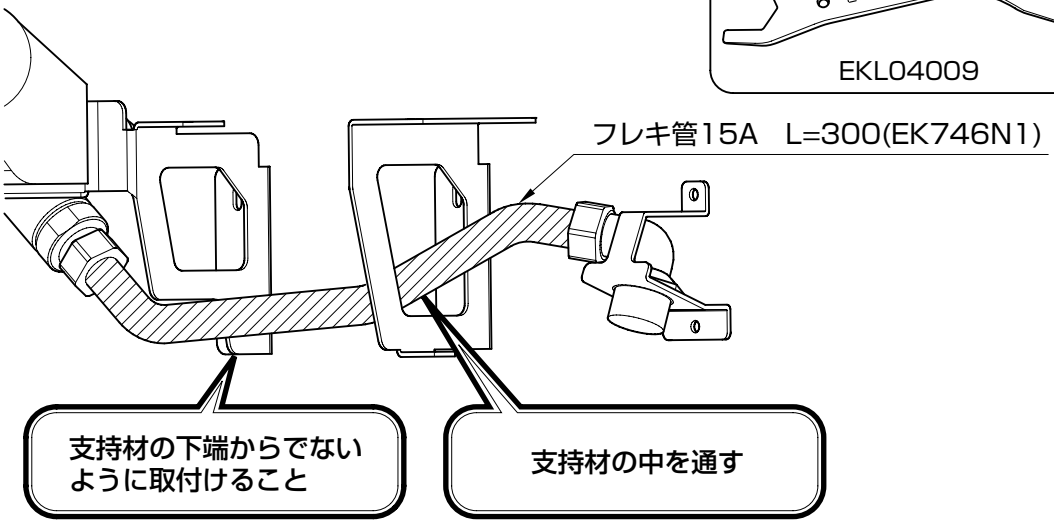
シャワーホースより
調圧弁のみ取り外す。
(パッキンは後で使用する
ため紛失しないこと。)

13 シャワー配管取付

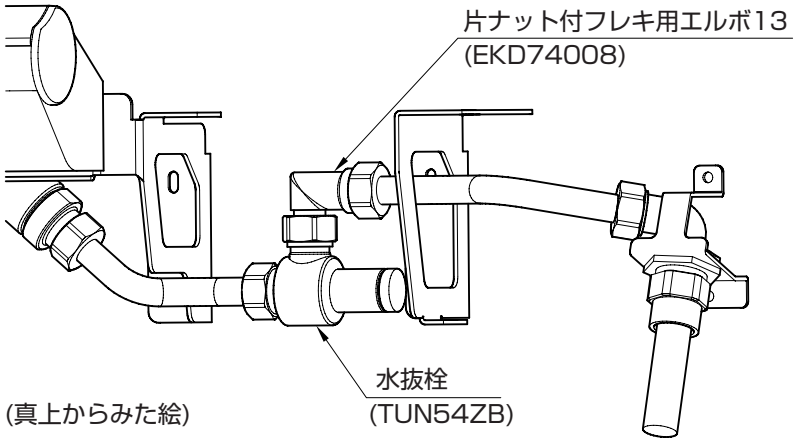
※本図はRタイプ、Lタイプは逆勝手

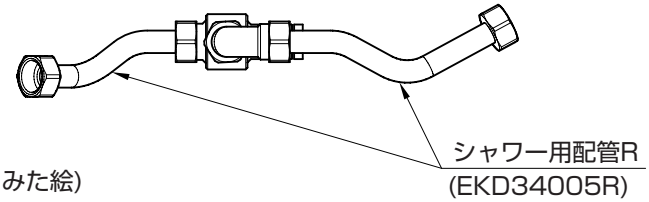
【一般地タイプの場合】

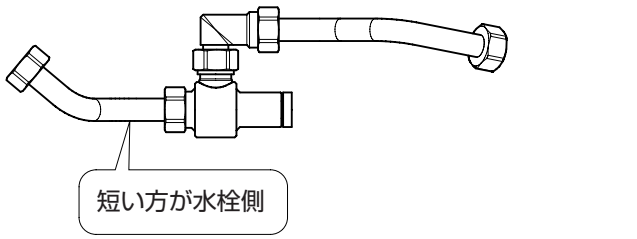




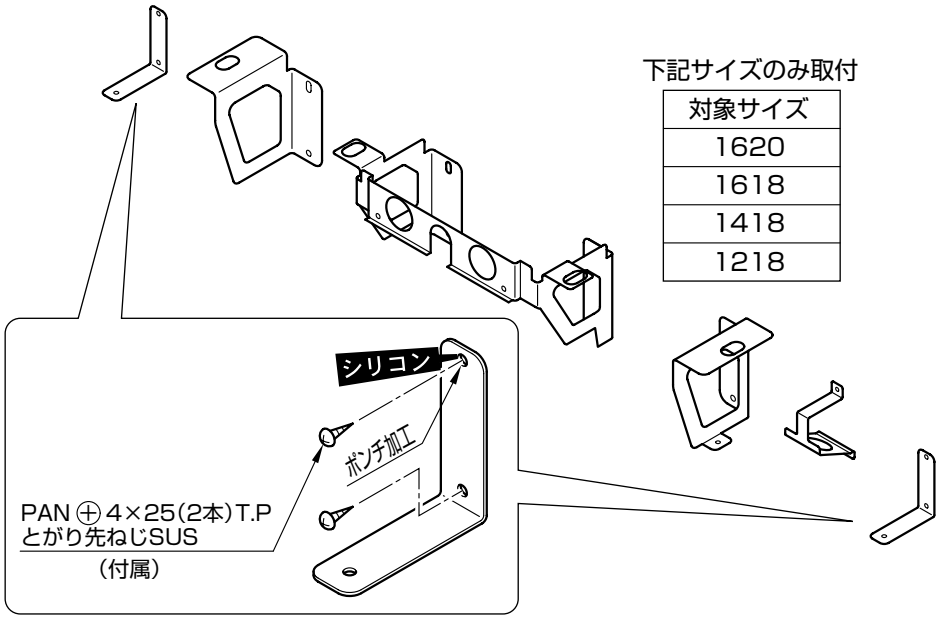
【寒冷地タイプの場合】







14 カウンターカバー支持材取付



下記サイズのみ取付

対象サイズ
1620
1618
1418
1218

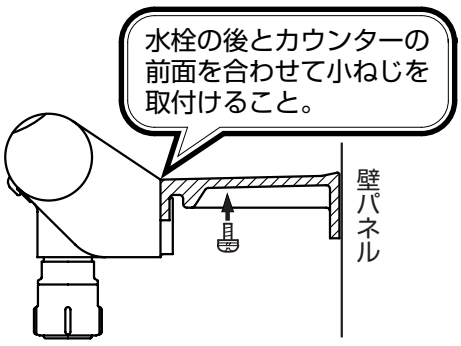
15 カウンター固定

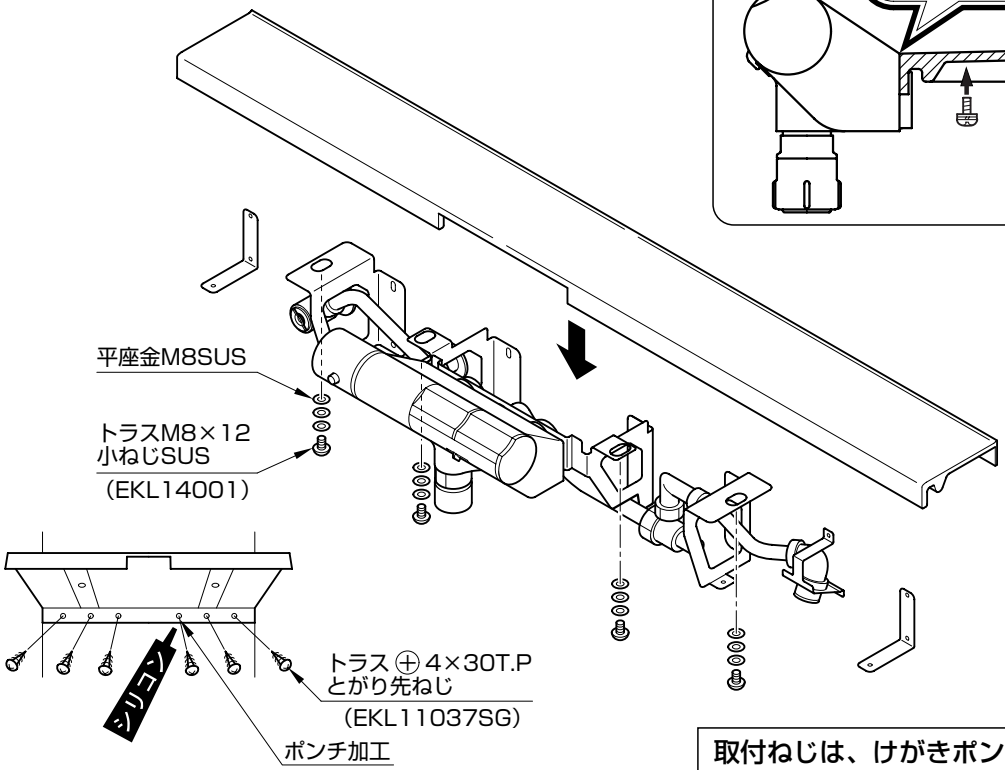
〈取付手順〉

①カウンターを下から小ねじで固定する。

②壁に向かって、カウンターの後をビス止めし固定する。

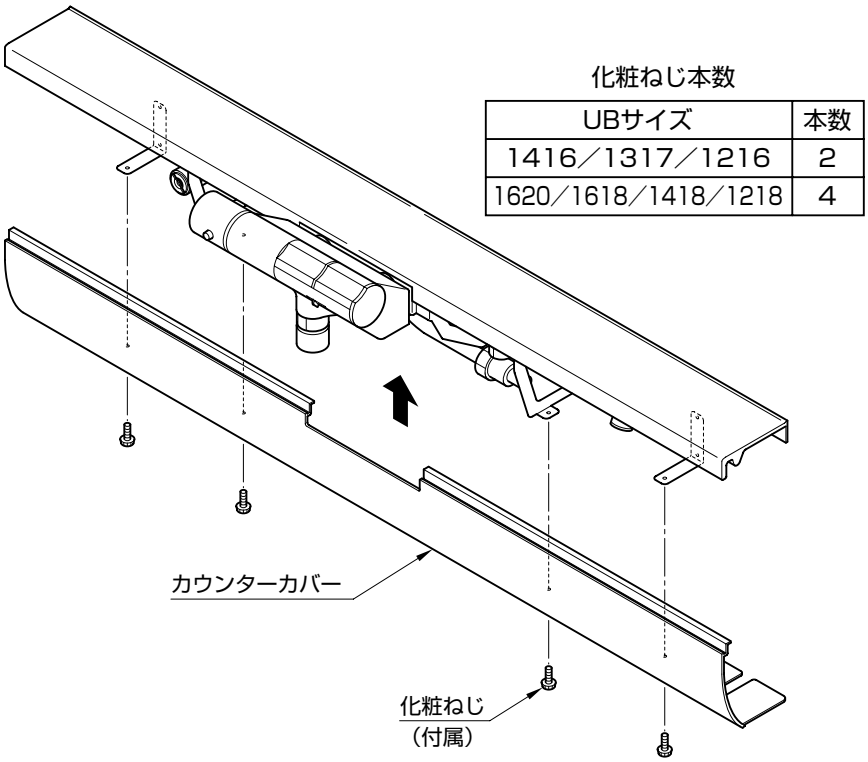
ポイント





取付ねじは、けがきポンチ加工位置と同じところに行ってください。

16 カウンターカバー取付



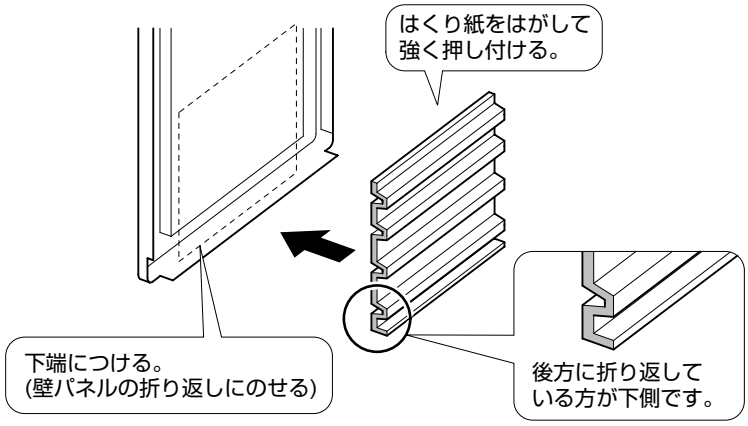
化粧ねじ本数

UBサイズ	本数
1416／1317／1216	2
1620／1618／1418／1218	4

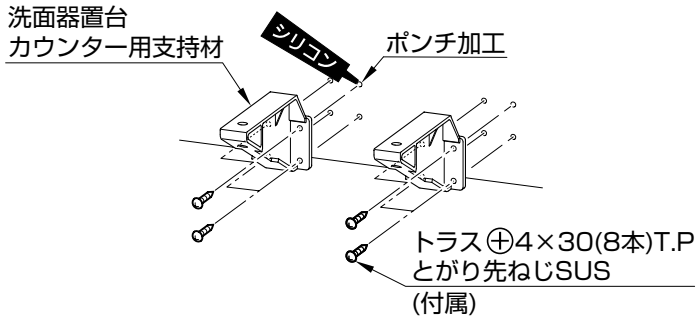
洗面器置台カウンター（Ru/St/Mo）取付
ダブルカウンター（TRu）洗面器置台部取付

※本組立図の洗面器置台は、洗面器置台カウンター（Ru）で記載していますが、St/Moタイプでも
組立方法は同じです。

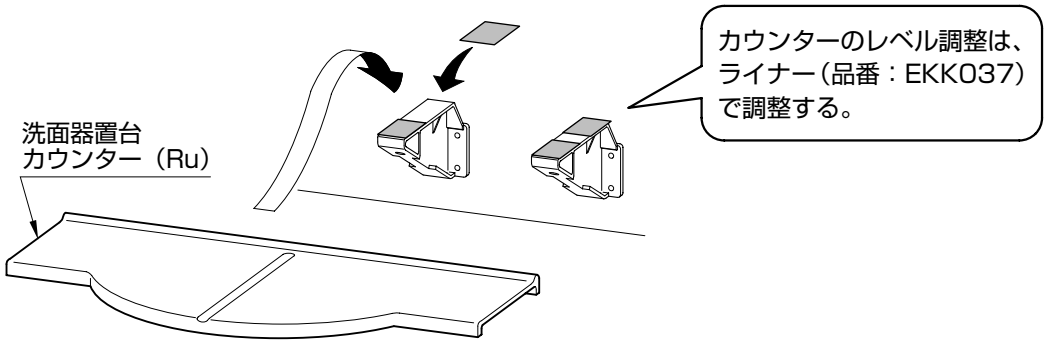
1 壁裏補強材貼付

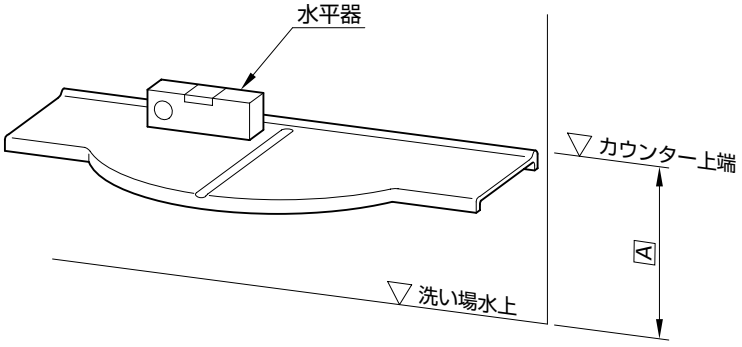


2 支持材取付



3 カウンター仮のせ・レベル調整

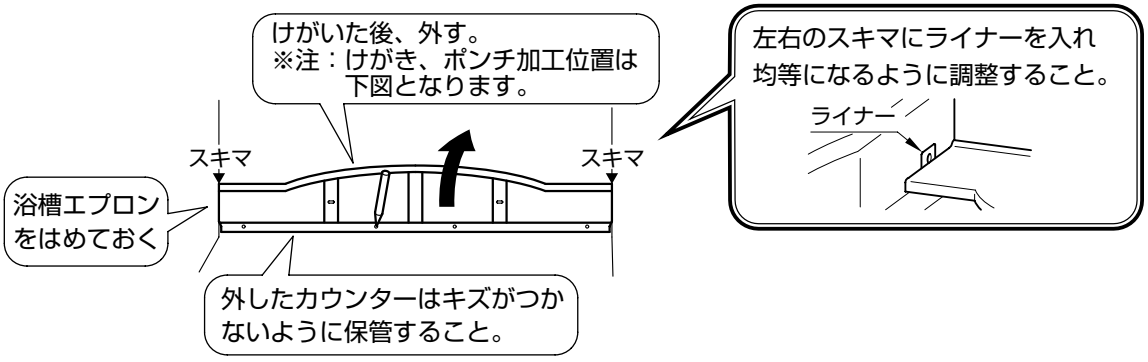




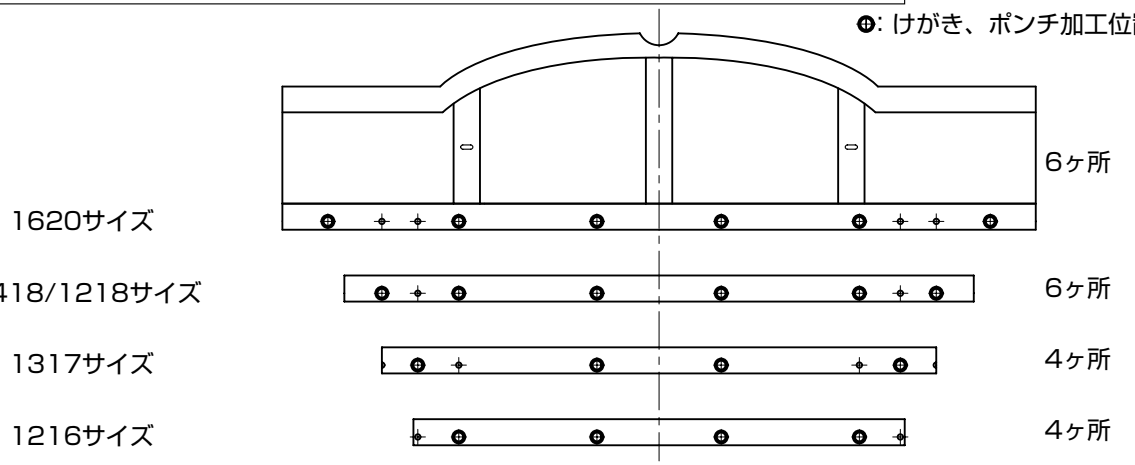
	A寸法
ダブルカウンター(TRu) 洗面器置台部分	192

洗面器置台種類	A寸法
Ru	242
St	
Mo	238

4 壁けがき・ポンチ加工

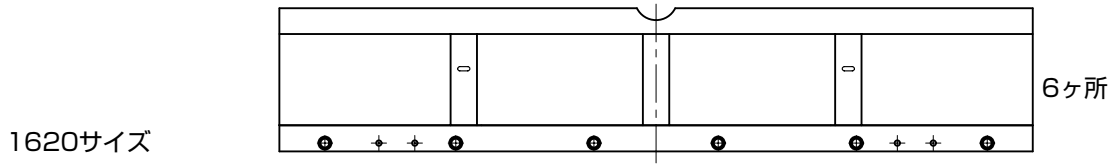


洗面器置台カウンター（Ru）／ダブルカウンター（TRu）けがき、ポンチ加工位置



1416サイズは、穴位置とけがき、ポンチ加工位置は同じです。

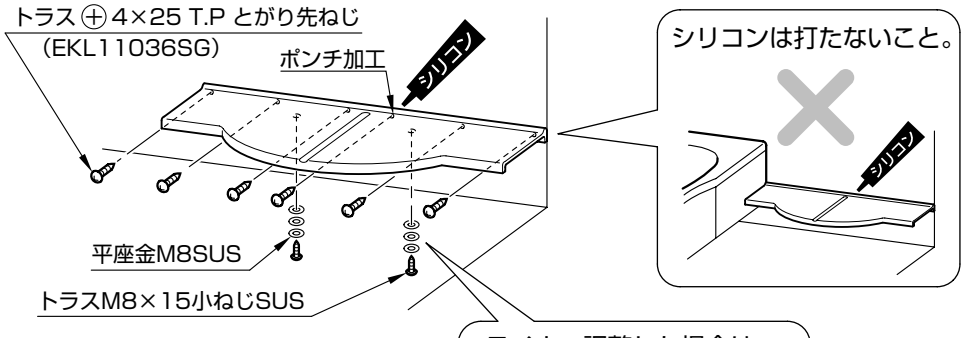
洗面器置台カウンター（St）けがき、ポンチ加工位置



1618/1418/1317サイズは、穴位置とけがき、ポンチ加工位置は同じです。

※洗面器置台カウンター（Mo）は、穴位置とけがき、ポンチ加工位置は同じです

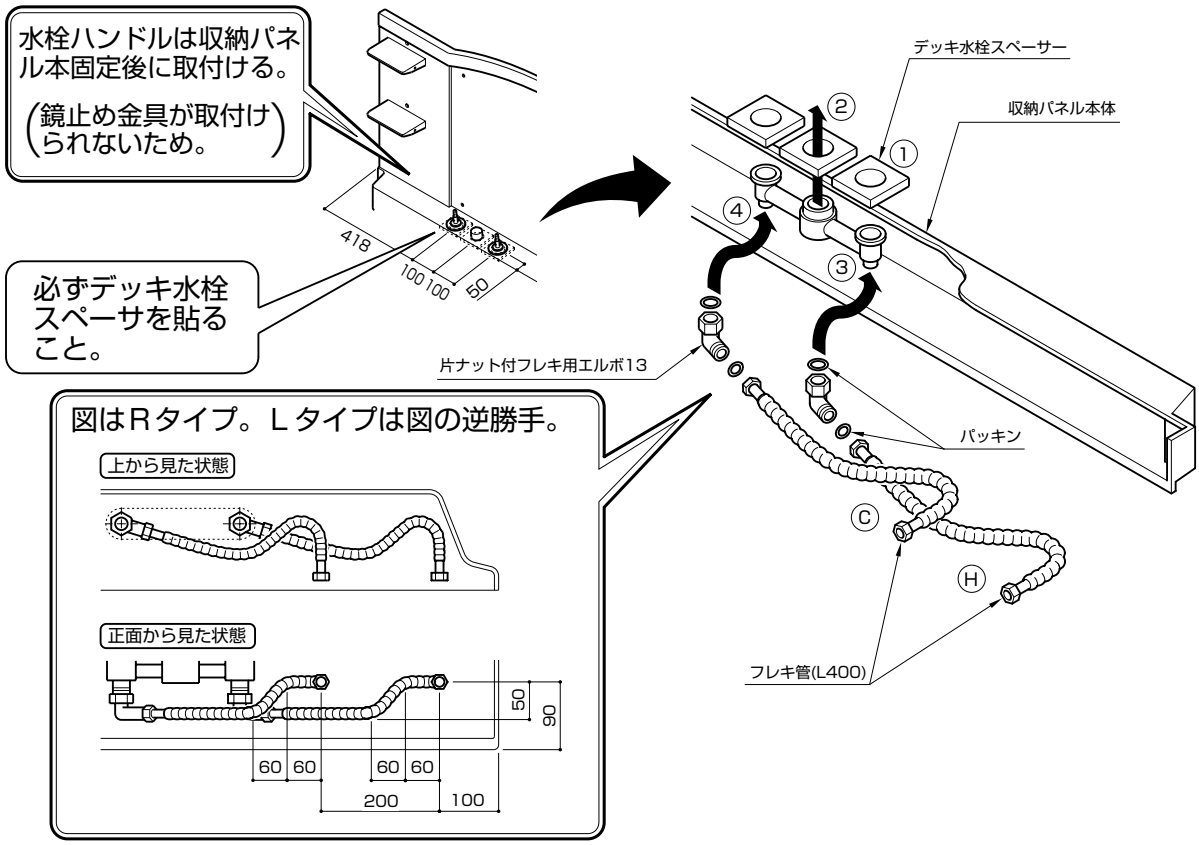
5 洗面器置台カウンター本固定



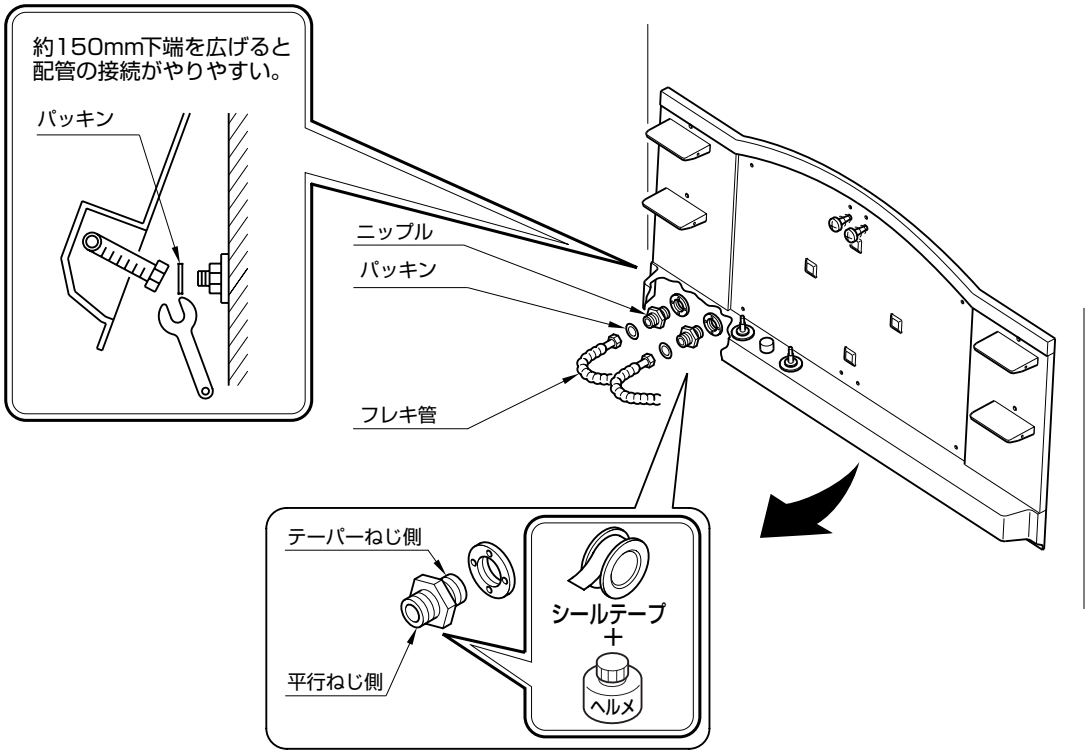
取付ねじは、けがきポンチ加工位置と同じところに行ってください。

横型収納パネル

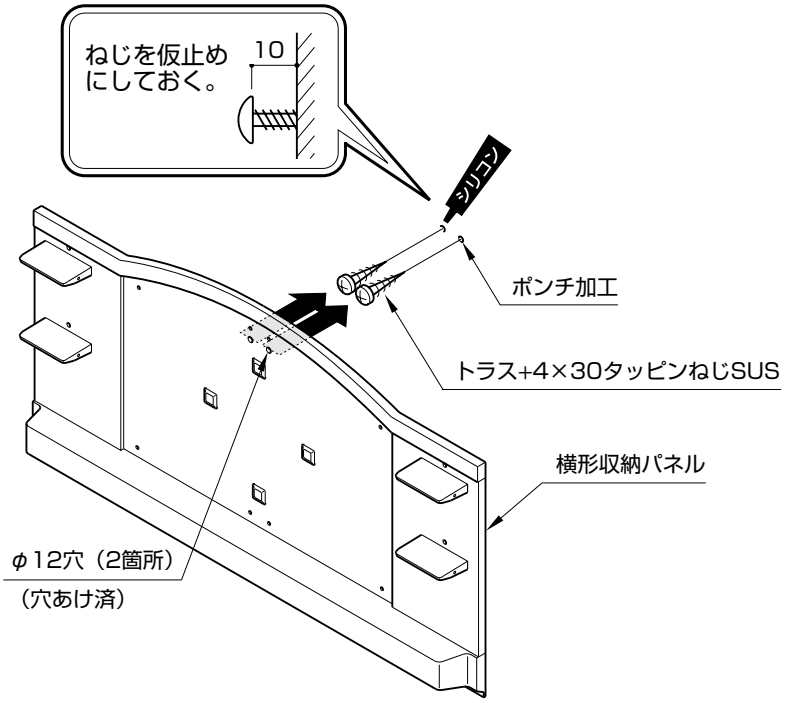
1 水栓金具・内部配管取付 （デッキ水栓付の場合　デッキ水栓が付かない場合は3から始める）



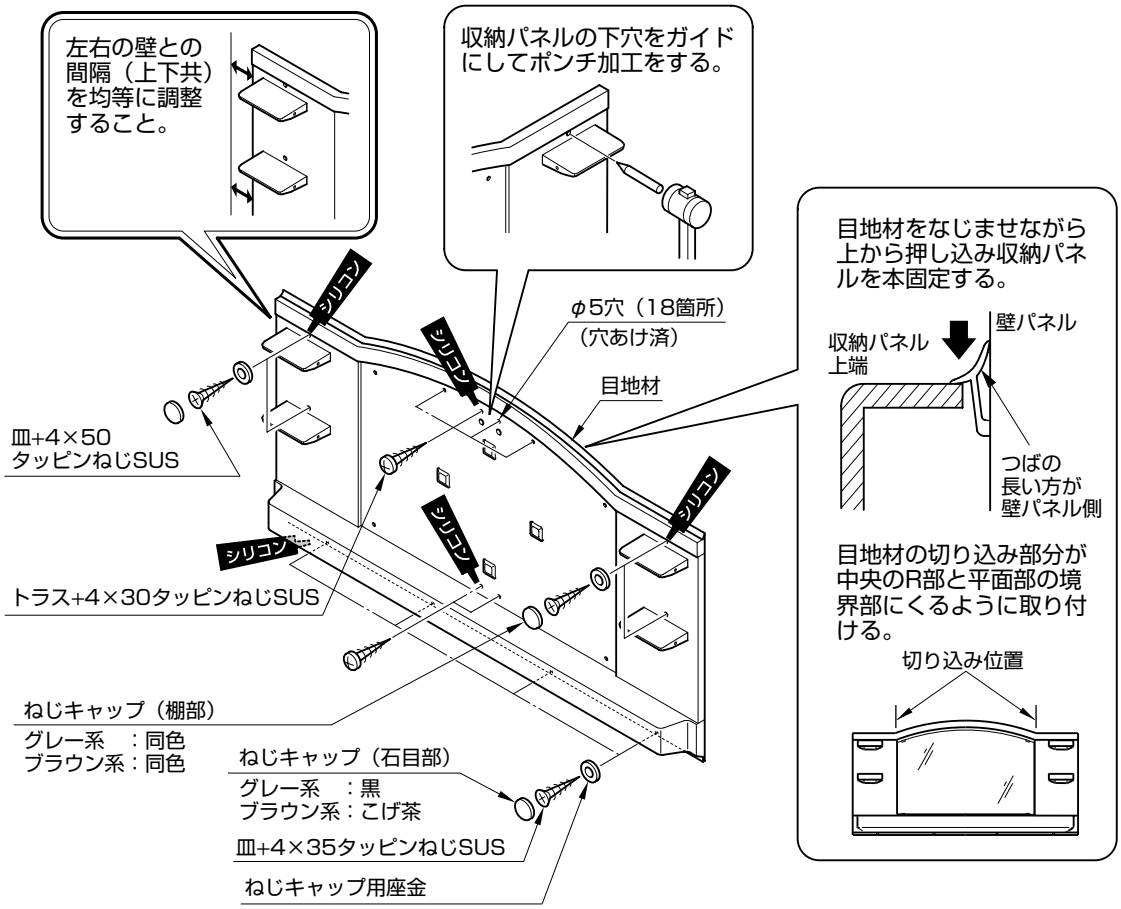
2 エルボへの接続



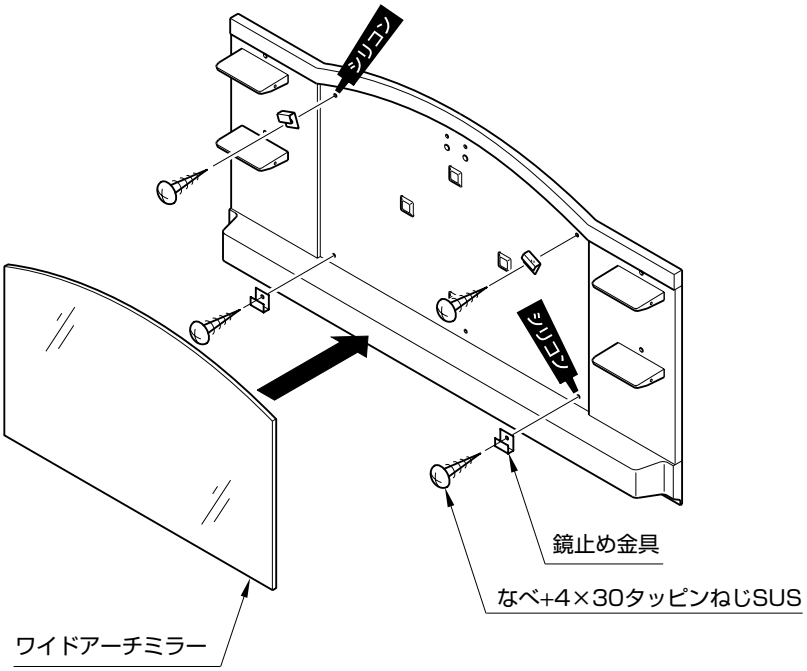
3 収納パネル仮止め



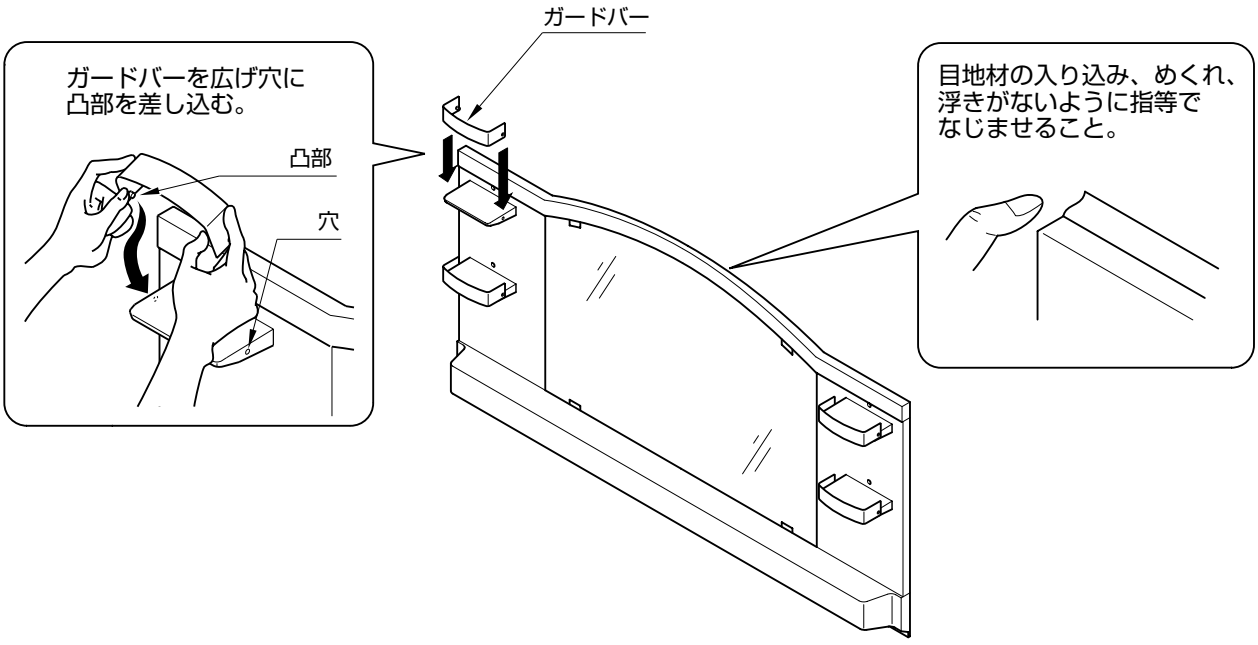
4 目地材取付け及び収納パネル本固定



5 鏡取付

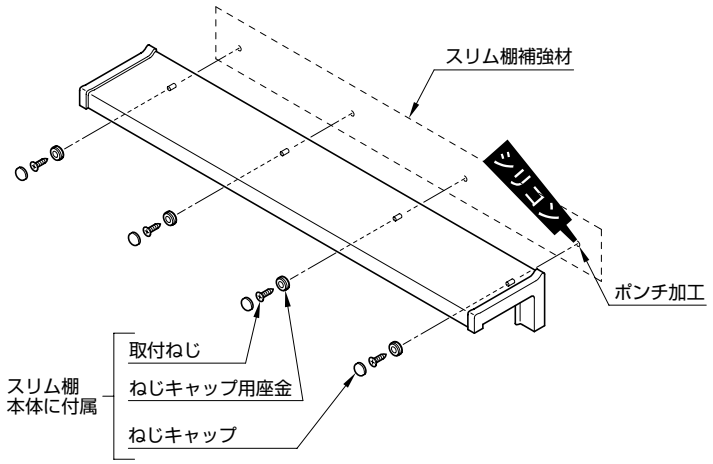

シリコン
シリコン
鏡止め金具
なべ+4×30タッピンねじSUS
ワイドアーチミラー

6 仕上げ

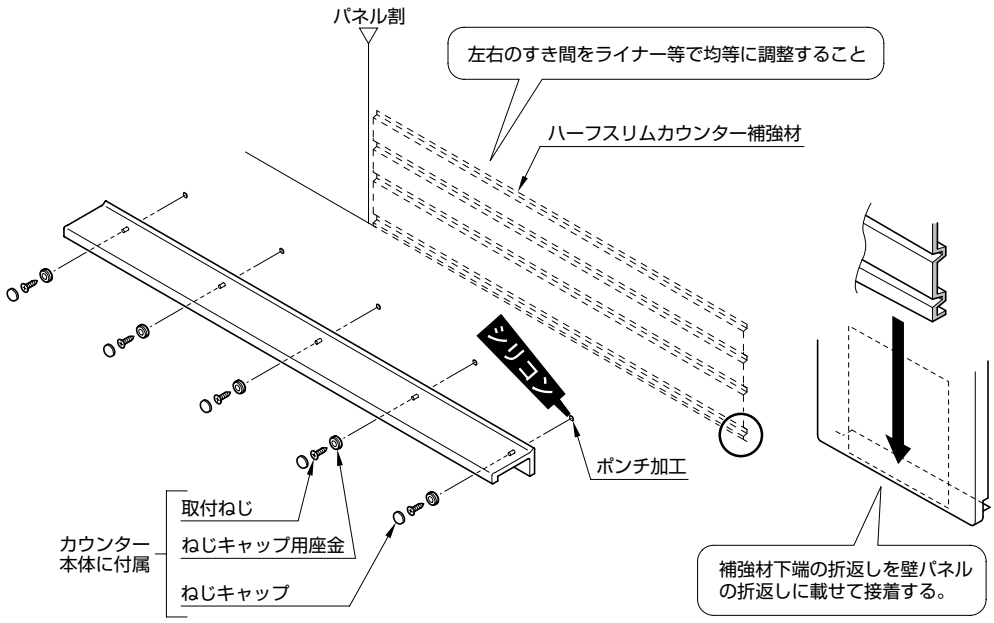

ガードバー
ガードバーを広げ穴に
凸部を差し込む。
凸部
穴
目地材の入り込み、めくれ、
浮きがないように指等で
なじませること。

スリム棚関係

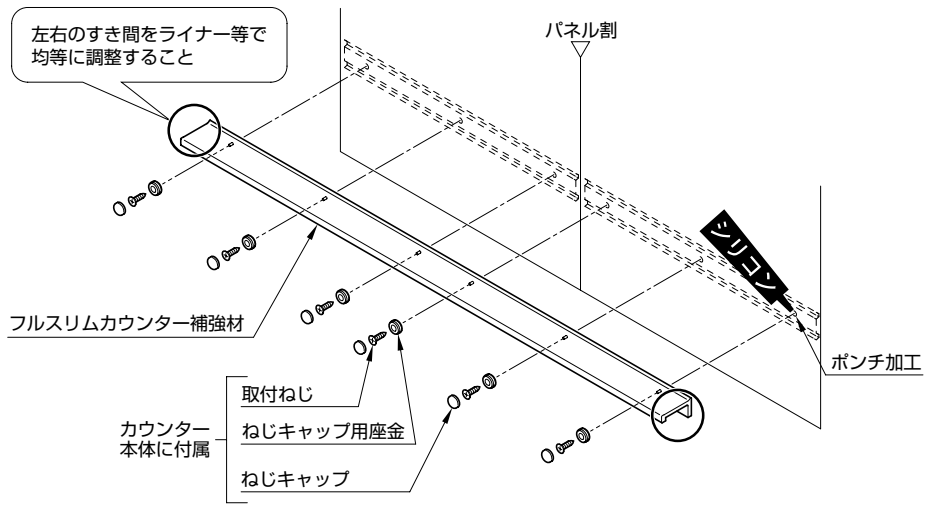
【スリム棚取付】



【ハーフスリムカウンター取付】

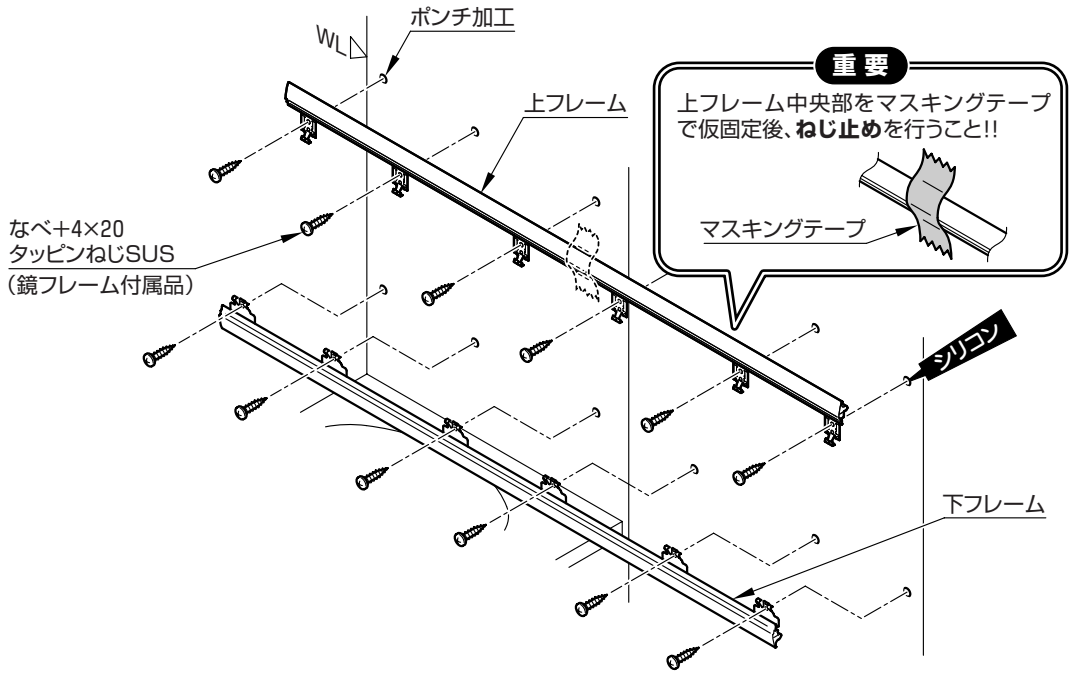


【フルスリムカウンター取付】



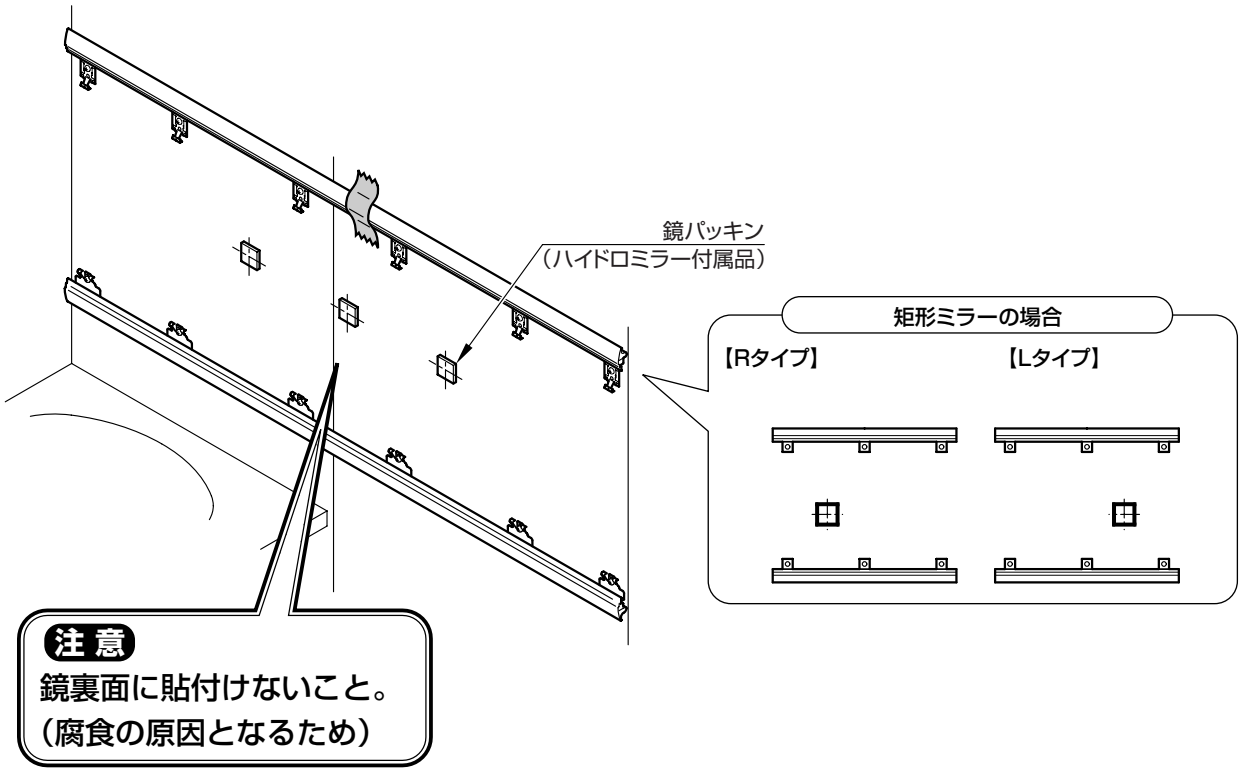
ワイドミラー／矩形ミラー（収納棚付）

1 鏡フレーム取付

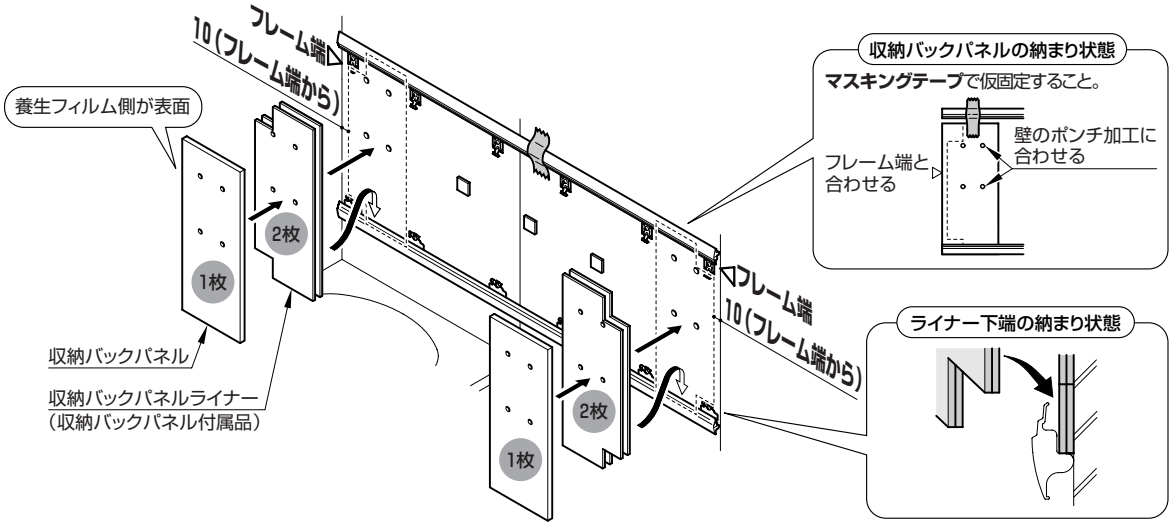


2 鏡パッキン貼付

【ワイドミラーの場合】

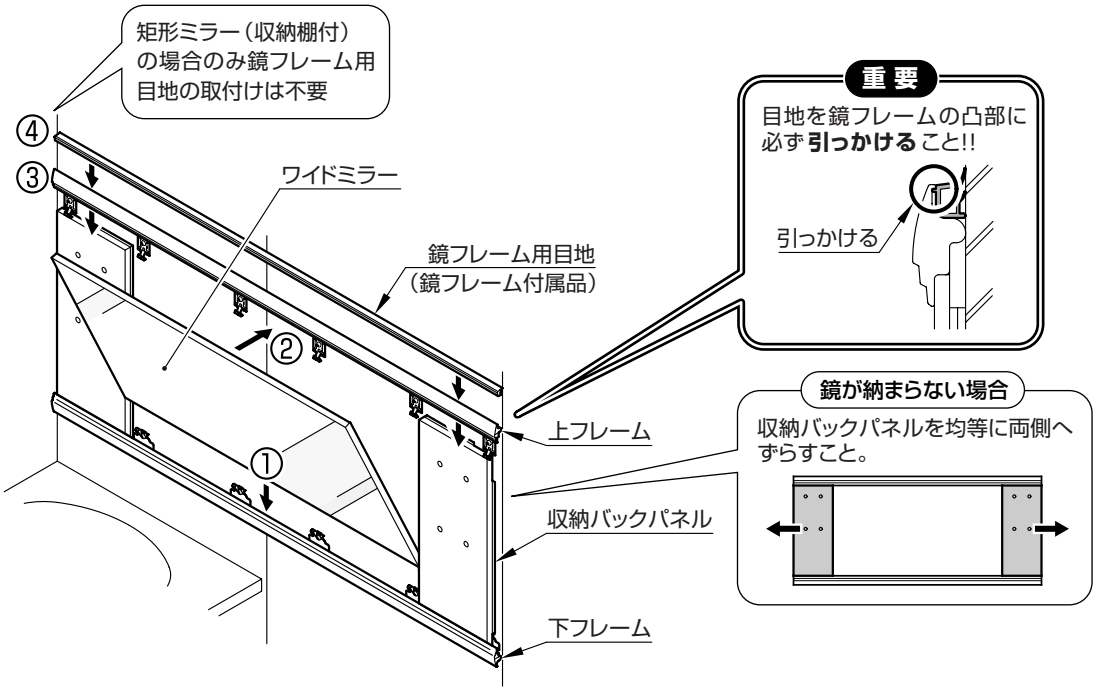


3 収納バックパネル取付

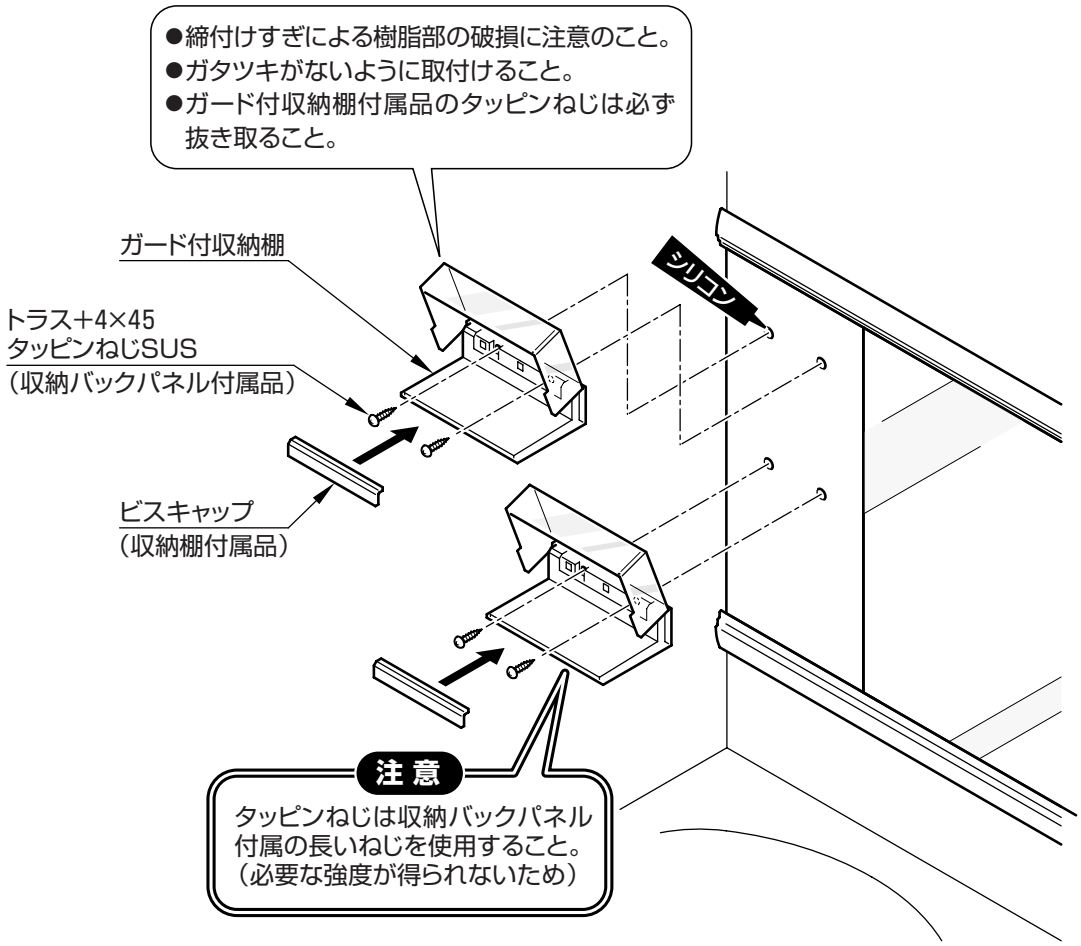


4 鏡取付け、目地取付

【ワイドフルミラーの場合】



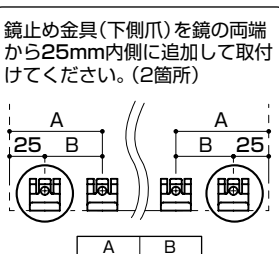
5 ガード付収納棚取付


●締付けすぎによる樹脂部の破損に注意のこと。
●ガタツキがないように取付けること。
●ガード付収納棚付属品のタッピンねじは必ず抜き取ること。
ガード付収納棚
トラス+4×45
タッピンねじSUS
（収納バックパネル付属品）
ビスキャップ
（収納棚付属品）
シリコン
注 意
タッピンねじは収納バックパネル付属の長いねじを使用すること。
（必要な強度が得られないため）

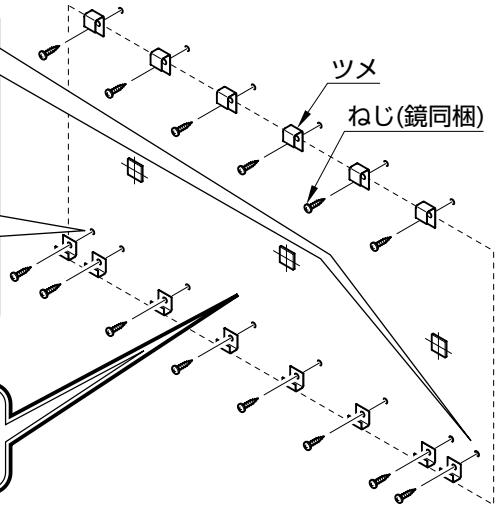
ワイドミラー

1 鏡爪取付、鏡パッキン貼付

鏡止め金具(下側爪)を鏡の両端から25mm内側に追加して取付けてください。(2箇所)



A	B
100	75
80	55
70	45

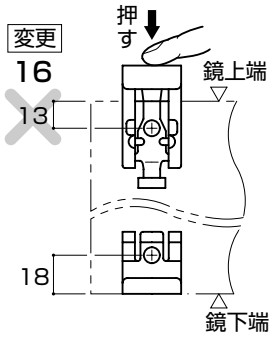


注意

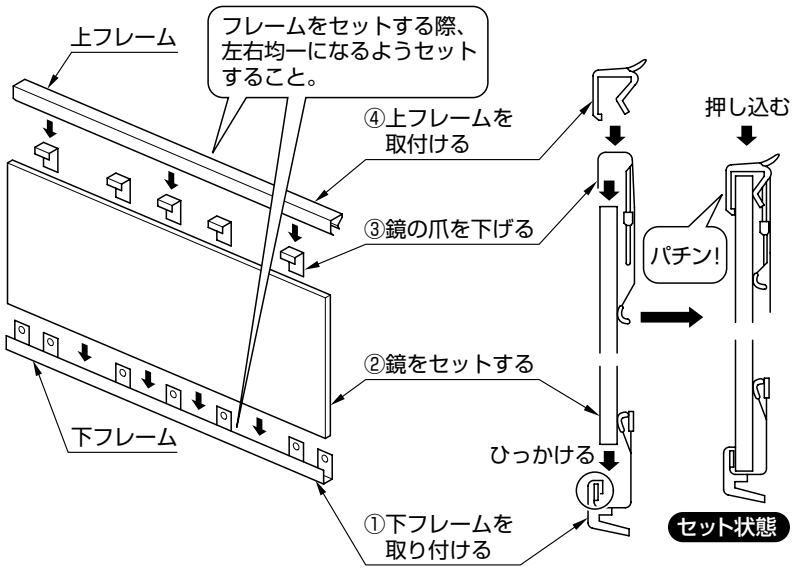
鏡裏面に貼付けないこと。
(腐蝕の原因となるため。)

お知らせ

従来の鏡爪の取付位置は鏡上端から13mm、下端から18mmですが、このフレームの時は鏡上端から16mm、下端から18mmとなります。

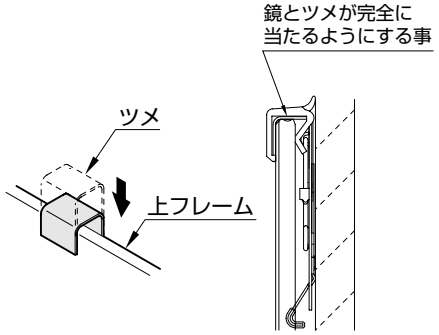


2 鏡フレーム・鏡取付



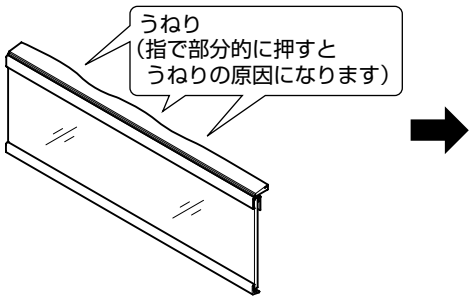
チェック1

鏡爪が完全に下がっていることを確認すること。きちんと入っていないとフレーム目地が波打つ原因になります。

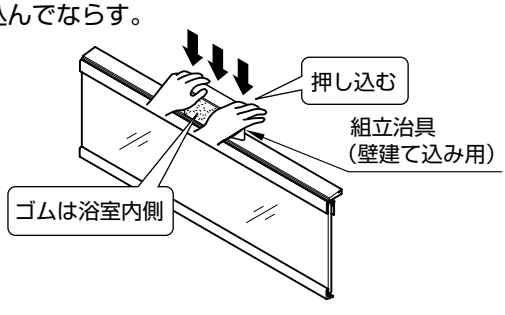


チェックポイントと修正方法

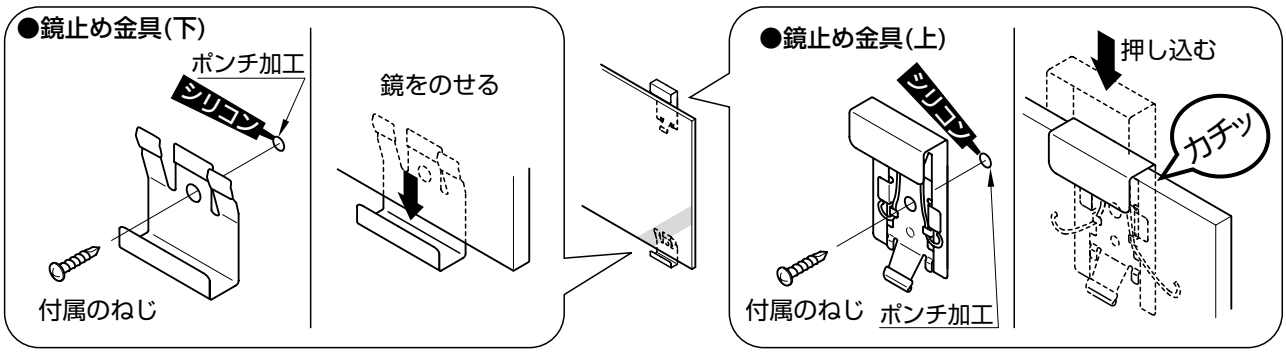
- 目地がうねっていないか？



- うねっていた場合は、フレームの上を組立治具（壁建て込み用）で押し込んでならす。

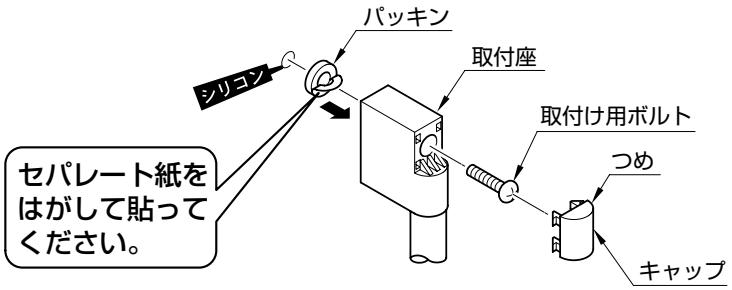


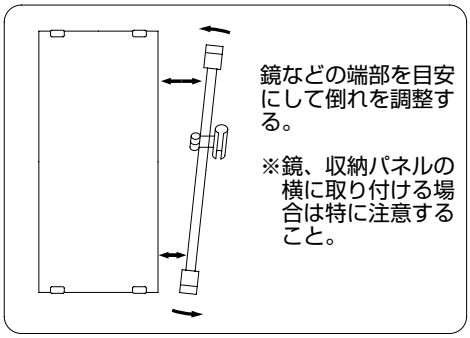
鏡止め金具



スライドバー

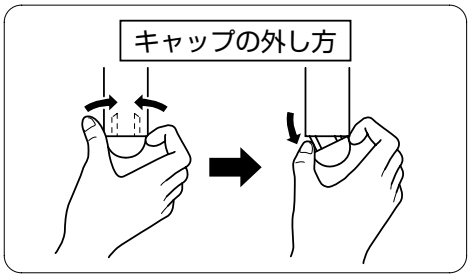
取付用ボルトを完全に締め付ける前に、取付け座を左右に動かして、スライドバーの鉛直方向の倒れを調整すること。



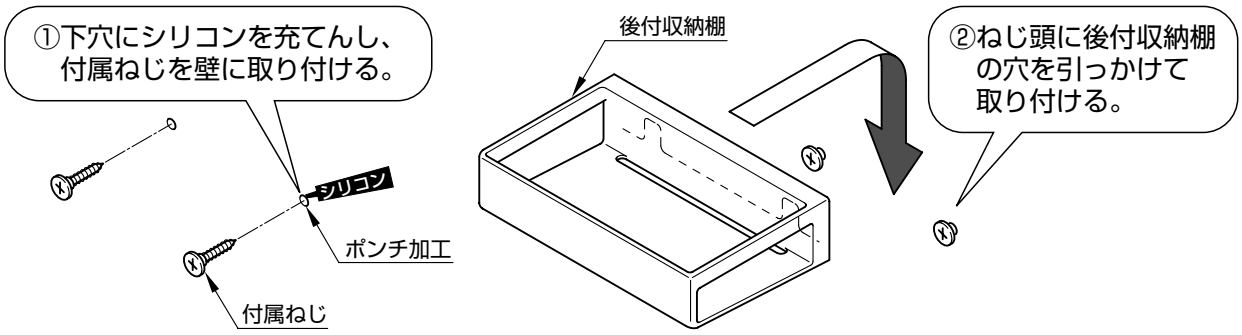


鏡などの端部を目安にして倒れを調整する。

※鏡、収納パネルの横に取り付ける場合は特に注意すること。



後付収納棚

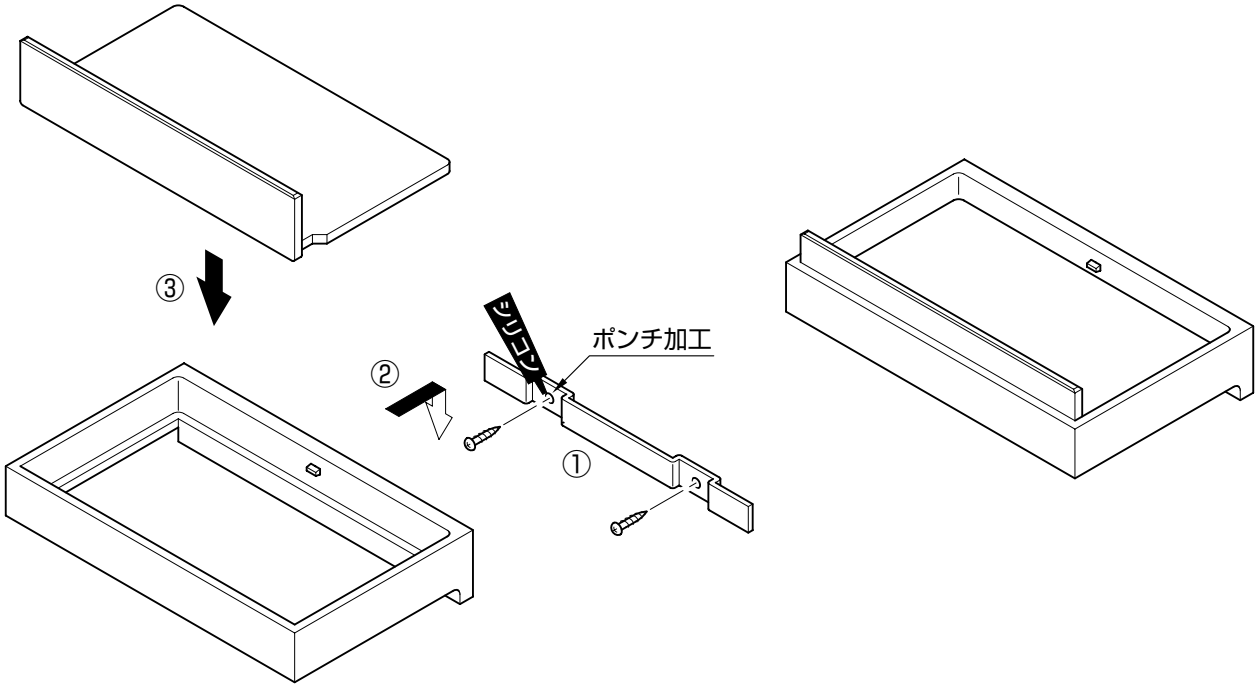


SP収納棚

①壁に支持材を取付ける。

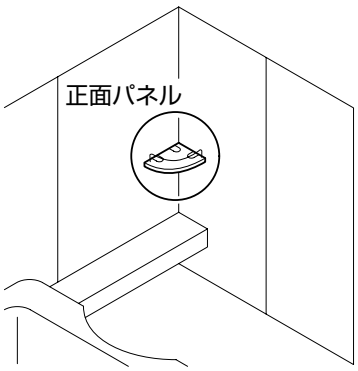
②収納棚フレーム背面を支持材に差し込む。

③棚板をフレームに載せる。

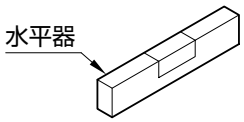


コーナー棚

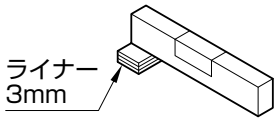
（図は右勝手の場合）

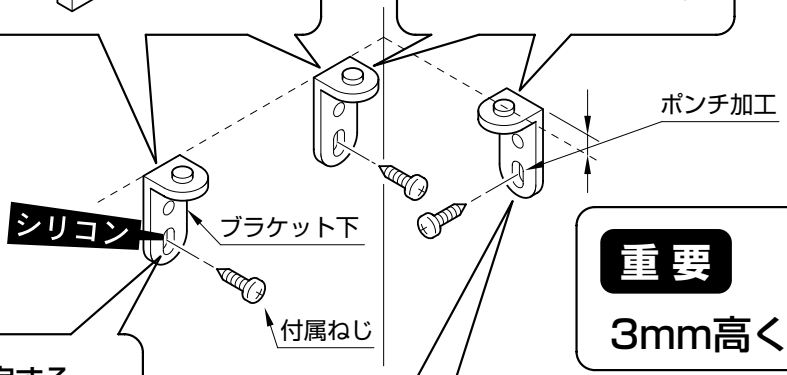


②水平に調整する。



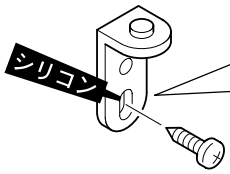
③水勾配をとる。





重要
3mm高く

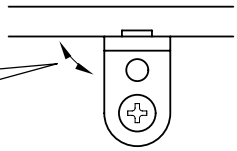
①パネルの加工に合わせて仮固定する。



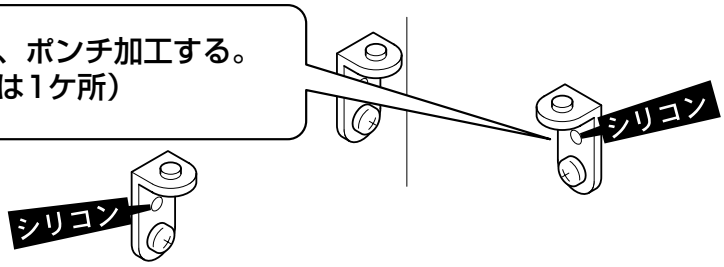
下の長穴のみ
仮固定する

④棚板を仮置きして倒れを調整する。

棚板と
垂直に

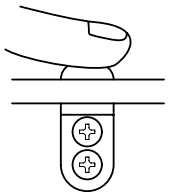


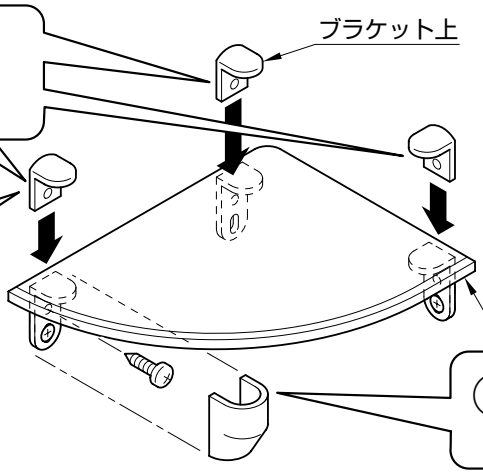
⑤現物合わせで、ポンチ加工する。
（現物合わせは1ケ所）



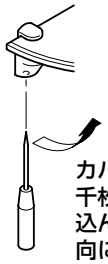
⑥先に差しこんでから、
ねじ固定する。

指で押しつけながら
ねじ固定すること。





カバーの外し方

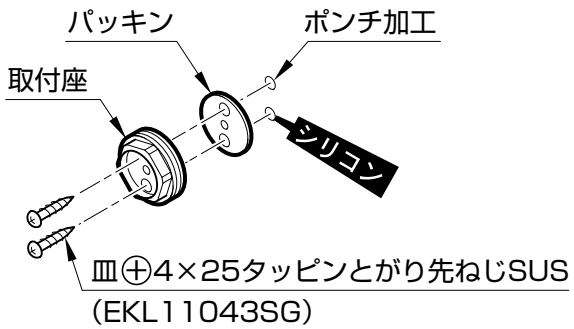


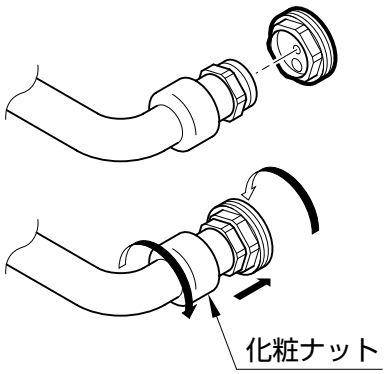
カバー下の穴に
千枚通しを差し
込んで、図の方
向に動かす。

⑦最後にカバーをはめる。

タオル掛け

めっきタイプの場合 ※付属ねじ使用不可

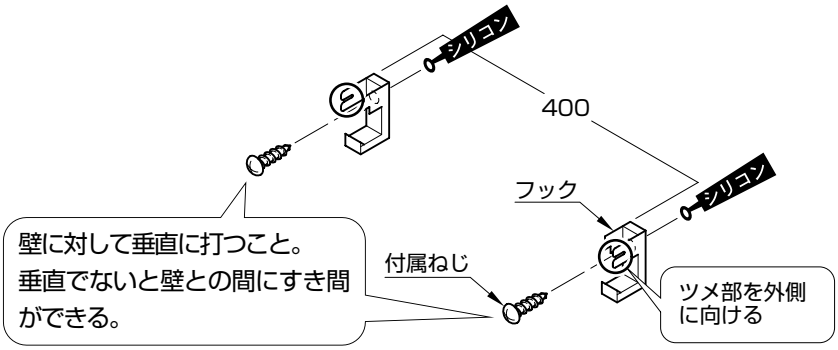


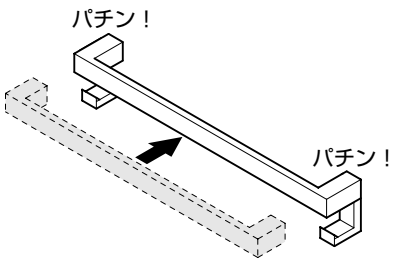


フック付の場合

ポンチ加工にシリコンを充てんし、フックツメ部を外側向きでセットし、ねじにて固定する。

タオル掛けをフックに差し込む。
※パチンと音が鳴るまで差し込む。





ドア外タオル掛け

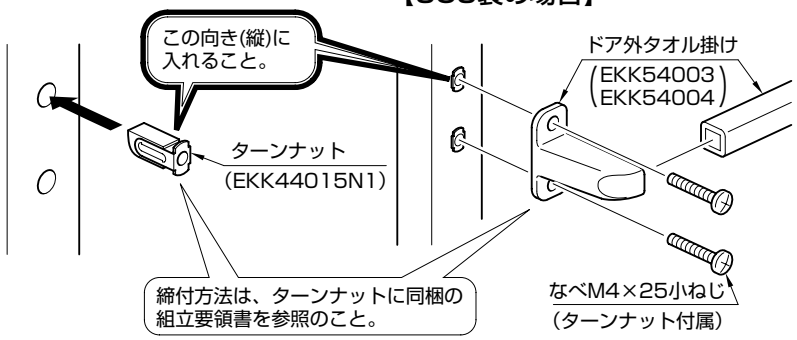
1 下穴開口（脱衣室側）

扉の枠にφ8の下穴をあける。

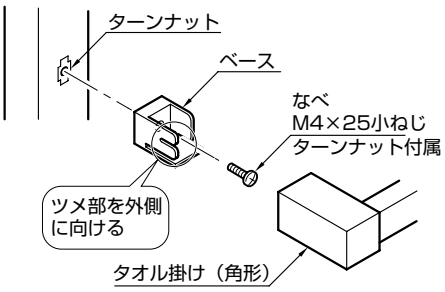
2 ターンナット押し込み

3 タオル掛けの取付

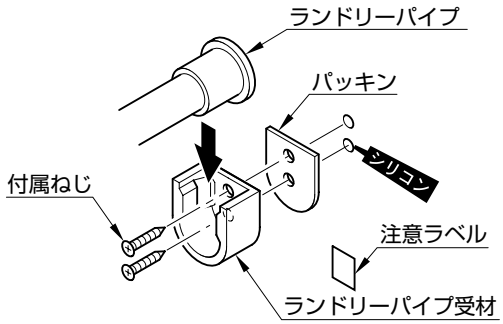
【SUS製の場合】



【角形の場合】

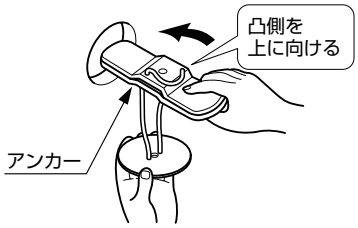


ランドリーパイプ

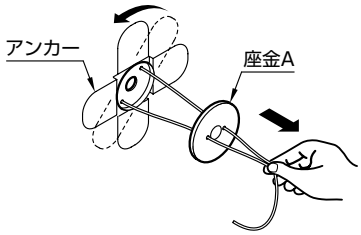


後付インテリアバー

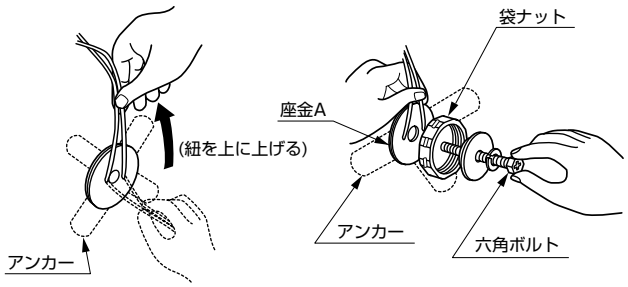
①アンカーを重ねて壁裏に入れる。



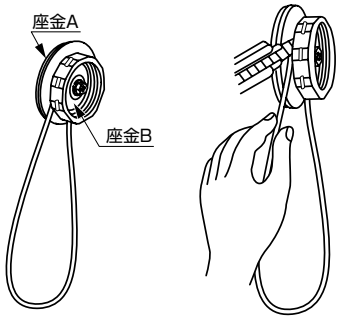
②ひもを強くひっぱって、座金Aの穴とアンカーの穴を合わせる。



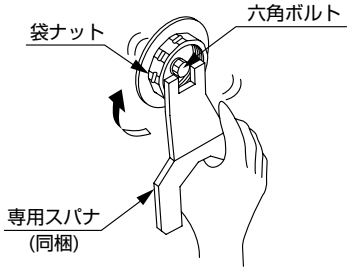
③紐を強く引っ張り、座金Aの穴とアンカーの穴を合わせた後、六角ボルトをアンカーに仮締めします。



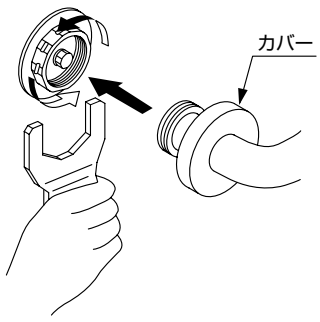
④座金Bと座金Aの間にカッターを差込み、座金Aの近くで紐を1ケ所切り、紐を引抜く。



⑤六角ボルトを本締めし、袋ナットが手で回ることを確認する。

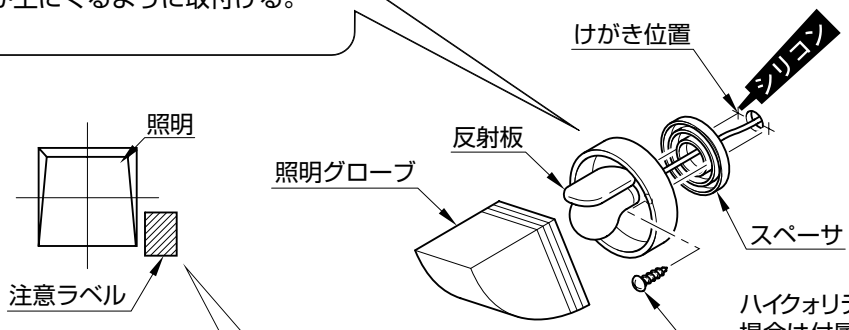


⑥袋ナットを回してバーを本固定してカバーをはめる。



照明

反射板が上にくるように取付ける。



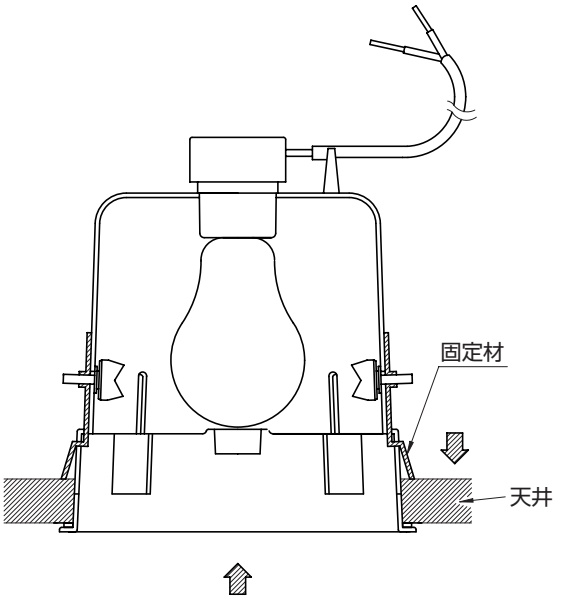
照明のとなり又は下の壁面に、付属の注意ラベルを貼付ける。
照明2つの場合は洗い場側1ヵ所に貼付ける。

ハイクォリティ照明(丸形)(角形)(半球形)の場合は付属のねじを使用せず、
UB部材中に同梱されているとがり先ねじを使用すること。

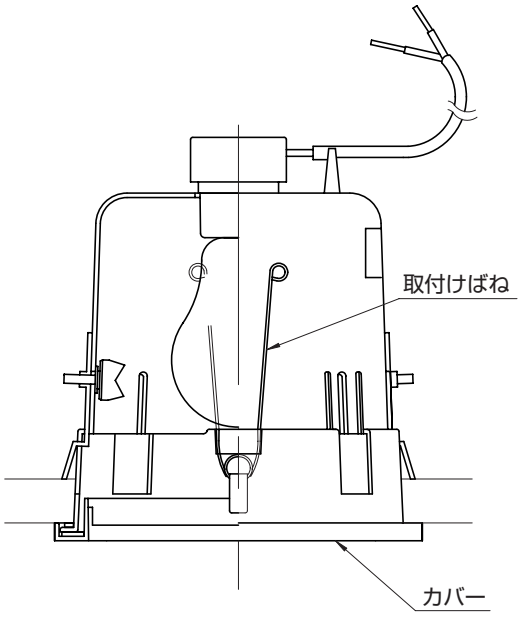
PAN⊕4×30TPとがり先SUS
(EKL11033SG)

ダウンライト

①ダウンライト本体と固定材で天井を挟むように取付ける。

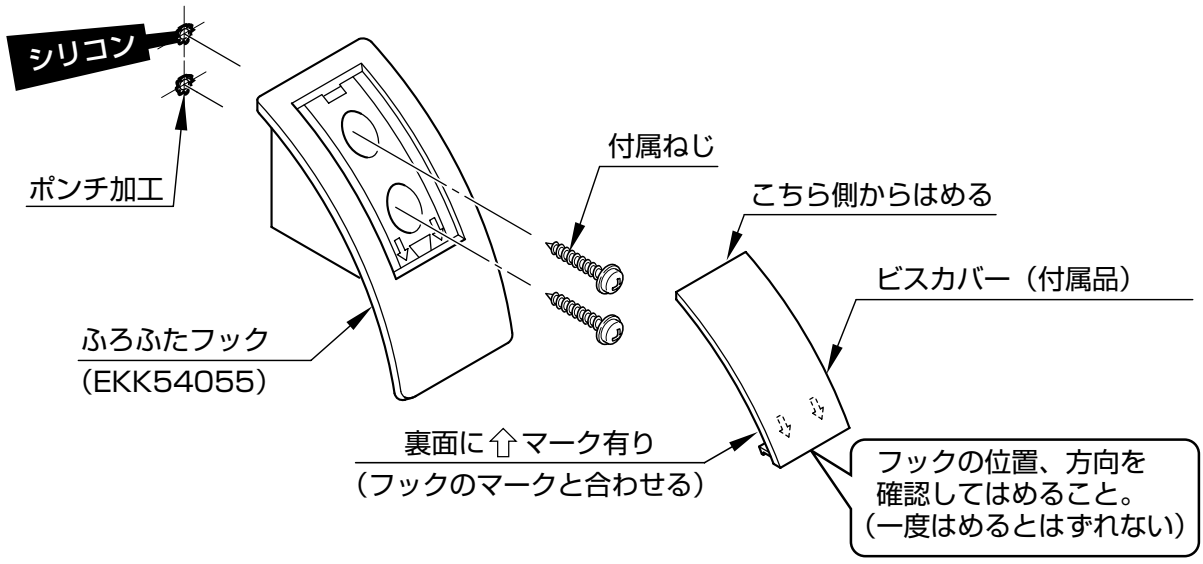


②照明カバー側面にある取付けばねをつまんでダウンライト本体側面の穴に差し込む。照明カバーを押し上げる。

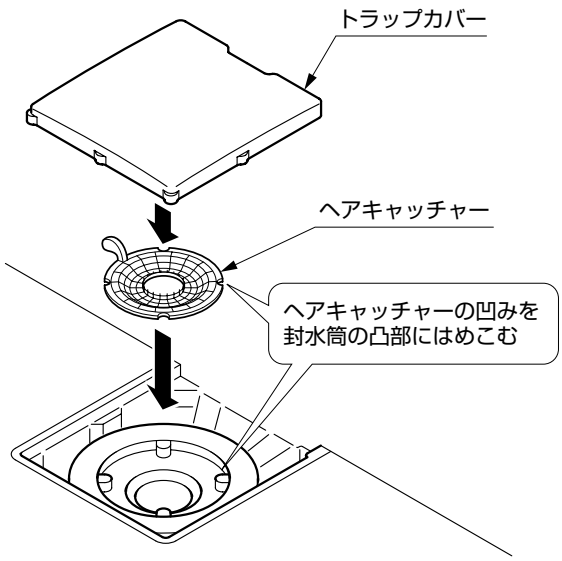


ふろふたフック

【取付手順】
①付属のねじにて固定する。
②ビスカバーをはめる

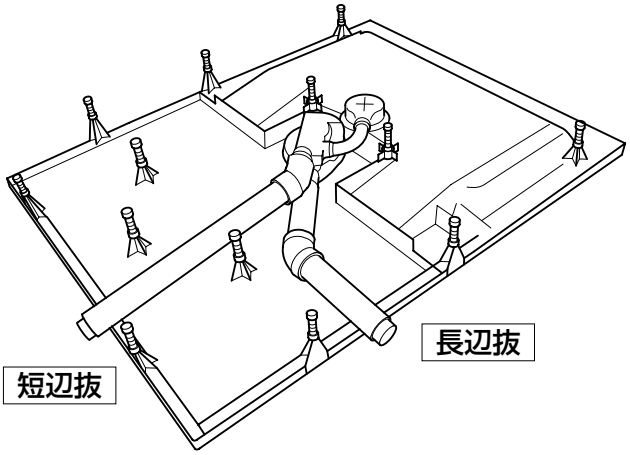


トラップカバー、ヘアキャッチャー

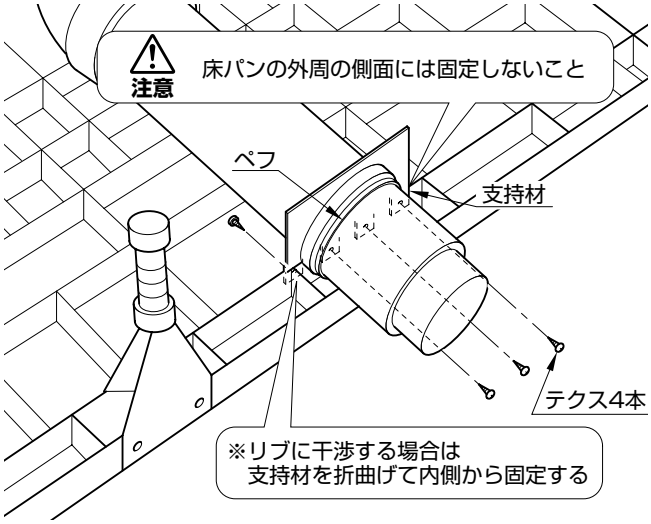


雑排水管取付

1 雑排水管・支持材取付

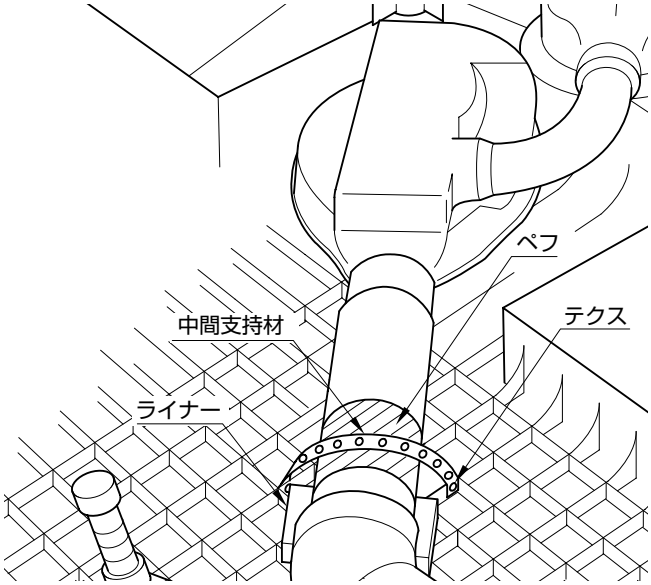


手順と作業内容	注意
① 床パンのレベル出し ● 床パンを逆さにして、床パン外周のレベルを水平にする。	洗い場面をキズ付けないように養生のこと。
② 雑排水管の排水勾配を出す。	排水勾配＝1／50



手順と作業内容	注意
③ 支持材の固定 ● 支持材部分の雑排水管には、ペフを2重に巻く。 ● 支持材を床リブに固定する。 （テクス4本止め）	外周から2番目のリブに固定する。 （左図参照）

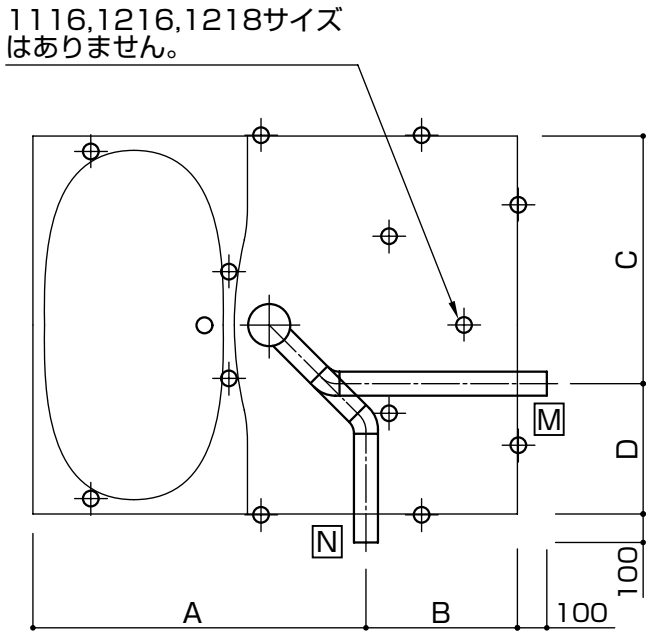
2 中間支持材取付



手順と作業内容	注　意
① 雑排水管の支持材部分にペフを2重に巻く。	
② 雑排水管の勾配出し ● 雑排水管と床リブとの間にライナーをはさんで、雑排水管の勾配を出す。 （排水勾配＝1／50）	中間支持材とライナーは、トラップと排水エルボとの間にもうけること。
③ 中間支持材の取付け ● 中間支持材を床リブに取付け、雑排水管を固定する。 （テクス2本止め）	

雑排水管経路

雑排水管経路



UBサイズ	A	B	C	D	M	N
1620	1400	600	1015	585	72	76
1618	1320	480	1015	585	76	76
1418	1240	560	915	485	76	79
1416	1240	360	915	485	80	79
1317	1240	460	865	435	77	80
1218	1240	560	815	385	75	81
1216	1240	360	815	385	79	81
1116	1240	360	765	335	79	82

※1　本図はRタイプを示す。Lタイプは本図の逆勝手となる。
※2　□内の数値は、UB据付け面～UBFL＝162mmの場合の、雑排水管末端芯～UB据付面の寸法を示す。

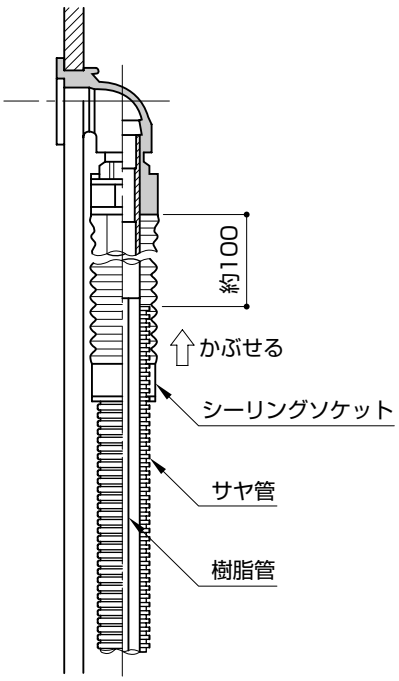
オプション配管（樹脂管）取付

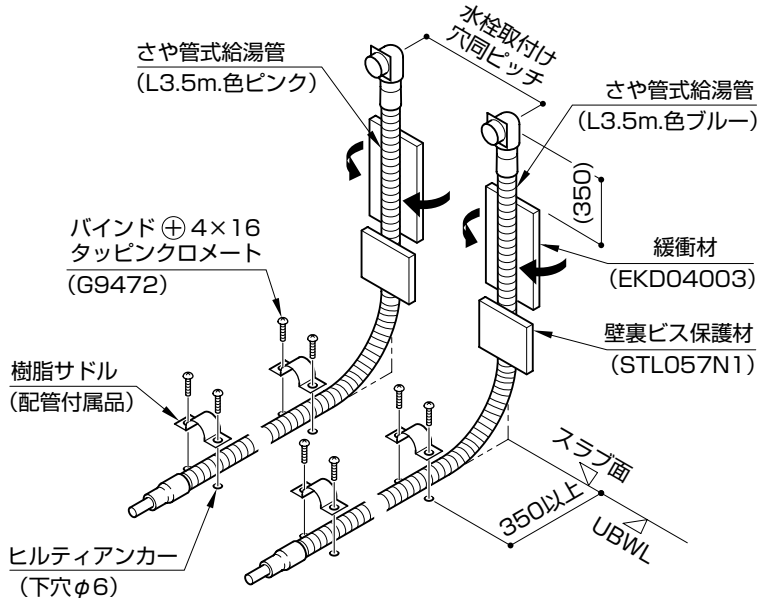
1 給水・給湯管（サヤ管式）取付

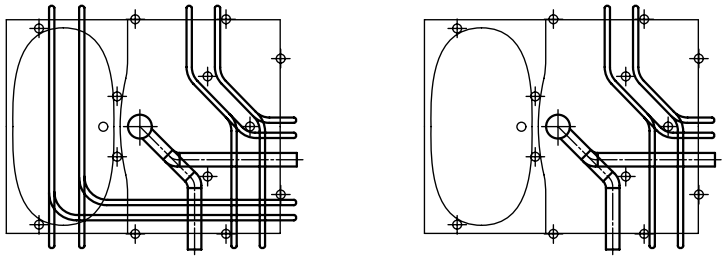
本製品は、（株）ブリヂストン「プッシュロック Ⅱ システム」を採用しています。
配管経路、取出し口、取出し長さを各現場で任意に設定できます。

注意事項（1）
- 樹脂サドルは必ず取付けること－1本に付き4ケ所－。（ウォーターハンマー対策）[図-1]
- 配管の曲げRは、170mm以上とすること。
- 配管は、トラップ並びに床支持脚と干渉しないように固定すること。[図-2]
- 壁裏部分のサヤ管には、緩衝材を巻くこと。（ウォーターハンマー対策）
- 器具等のビスが配管の近くに打たれる場合は、配管を傷つけないように壁裏ビス保護材を壁の裏に貼付けること。

注意事項（2）
① 高さの位置出しの際には、水栓エルボから樹脂管が約100mm程露出するようにサヤ管を設定する。
② 水栓エルボを壁に取付け後、シーリングソケットを水栓エルボまでかぶせて、樹脂管の露出をなくすこと。
[図-3]







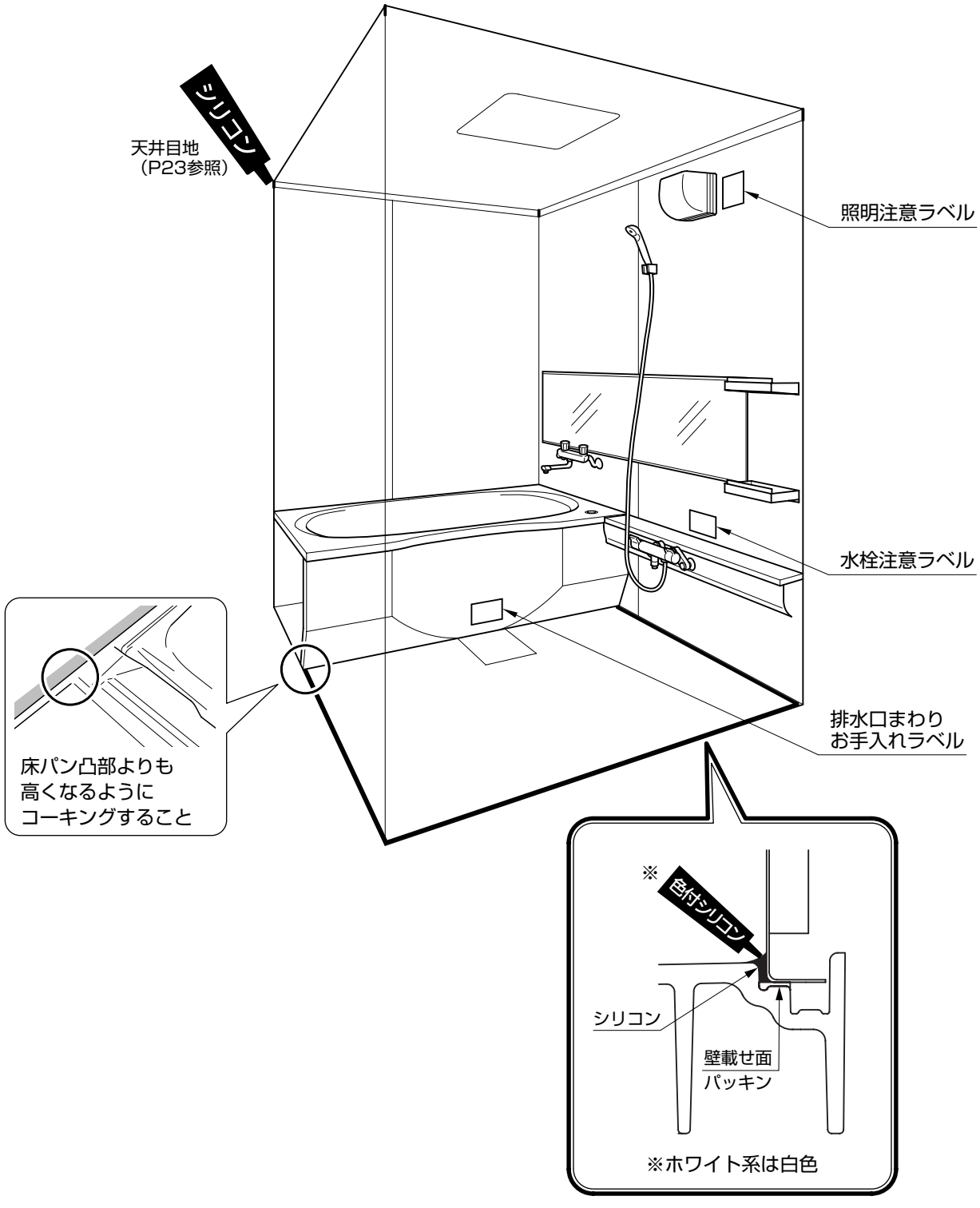
配管経路の一例

注意事項（3）
- 壁の建て込み後にサヤ管にたるみがある場合は、サヤ管の末端で樹脂管のみを引っ張り、たるみをとる。

スムーズな組立のために
- サヤ管を樹脂サドルで固定する際には、「仮固定→位置や長さの確認→本固定」の順番で行う。
- サヤ管は末端側（設備接続側）から仮固定していくと、経路を出しやすい。
- 水栓エルボを壁に取付ける際は、鋼管にねじ切りした治具を用いると、水栓エルボを引き込みやすい。

仕上げ（2次コーキング・ラベル貼付）

① マスキングテープを使用してきれいに仕上げること。

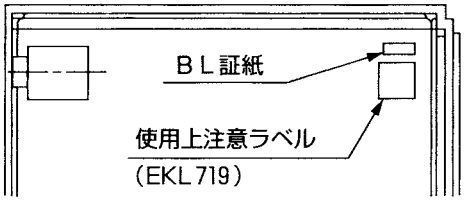


② ラベル類（品番・使用上の注意（照明）・排水まわり・エプロン取外し・および各器具に同梱のもの）を所定の位置に貼付ける。

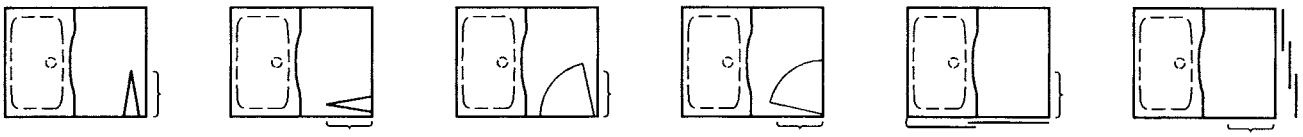
ラベル貼付（BL品）

1 ラベル貼付け①（BL品のみ）

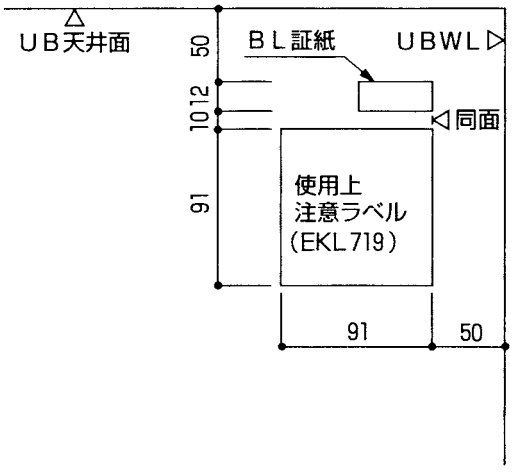
BL証紙・使用上注意ラベル



ドア枠と接するコーナー部の壁パネル（ドア側上部）に斜めにならないように貼付ける。



＝ラベル貼付け場所



BLタイプは貼付ける位置が決められているため、左図寸法通りの位置に貼付けること。

清掃

汚れはやわらかい布またはスポンジに市販の中性洗剤をつけて洗い落とし、がんこな汚れはアルコールで拭きとる。

- 切断・穴あけの際に飛び散った鉄粉が残っているともらいさびの原因になるので入念に除去すること。
- トラップ内部はゴミがたまりやすいので入念に清掃すること。

清掃の際、下記のものは使わないこと。
(人体へ影響を与えたり、製品に不具合を生じさせるおそれがある。)

- 「酸性」「アルカリ性」の表示の洗剤
- 固形または、粉末の塩素系洗浄剤・漂白剤
- 薬品(塩酸)
- シンナー･アセトンなどの溶剤
- クレンザー
- みがき粉
- ナイロンたわし
- 金属たわし
- サンドペーパーなど

自主検査

①「組立完了報告書」にしたがい、自主検査を行う。
②全て合格になったら「組立店ラベル」を記入して天井点検口ふたの裏に貼付ける。

必ず行うこと。

取扱説明書類について

本体および各器具に同梱の取扱説明書･ご愛用のしおり･保証書等は、大切に保管の上、必ず全て揃えてお客様にお渡しできるようにすること。

なくしたり、汚したりしないように注意して保管し、シャワーヘッドまたはタオル掛けに一まとめに吊るしておくこと。

廃棄物について

部材を処分する場合は、材質を確認して、許可を受けている処理業者へ依頼するか、破砕の上許可された処理場で処理すること。

TOTO